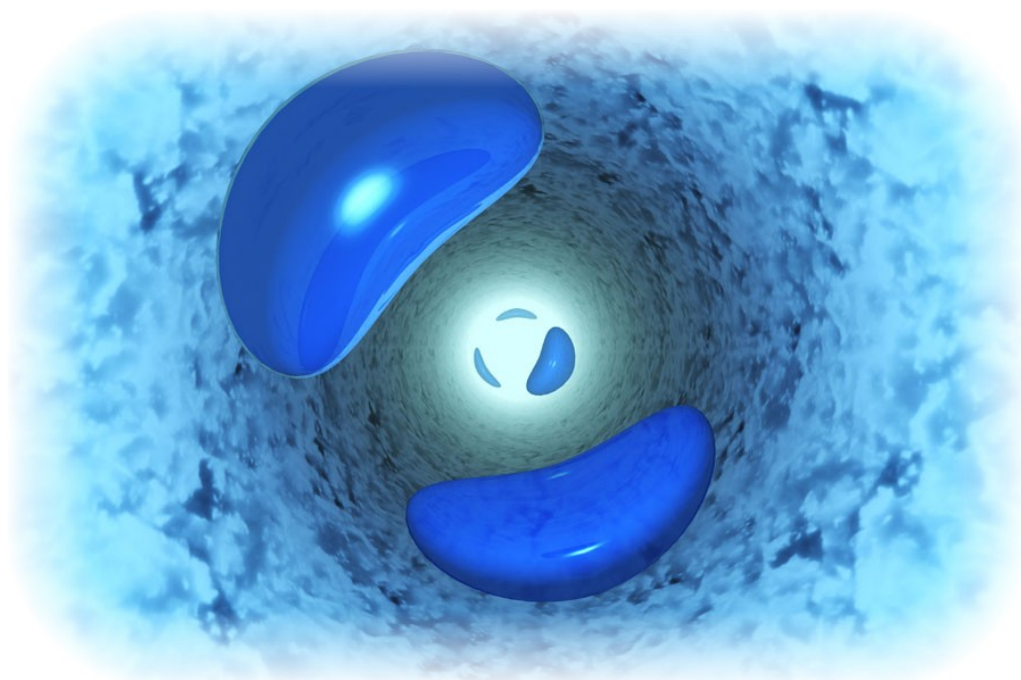


より早く、より多くの人々の健康を

総合検査案内

2008 ▶ 2009



株式会社 セントラル医学検査研究所

検査要覧

目次

索引 INDEX	(I)
検査依頼要領	1
検体検査料	4
生化学的検査	7
免疫学的検査	15
アレルギー一覧	19
感染症・ウイルス検査	21
内分泌学的検査	29
腫瘍関連検査	35
血液学的検査	38
一般検査	41
微生物学的検査	44
尿検査	49
薬物検査	50
病理学的検査	54
細胞診検査	54
特殊健康診断関連検査	57
遺伝子関連検査・HLA	58
細胞性免疫検査	60
容器一覧	61
専用容器の取り扱い方法	71
検体取り扱い方法と専用容器	73
動脈硬化性疾患診療ガイドライン抜粋	75
腫瘍関連検査の臨床的有用性	76
ウイルス検査一覧表・検査法	78
基準値一覧	80
測定法概略	87
測定法の基礎的文献	93

INDEX

項目名	ページ	実施料
あ		
亜鉛(Zn)	9	150
アセタゾールアミド(AZA)	50	特薬
アセトアミノフェン	53	190
アデノウイルス	23	80
アデノウイルスDNA	22	—
アデノウイルス抗原	22	210
アトピー鑑別試験	18	200
アビウム・イントラセルラーPCR	44	430
アプリンジン	51	特薬
アポリポ蛋白(A I, A II, B, C II, C III, E)	10	100
アミカシン(AMK)	52	特薬
アミノ酸分析(9種類・41種類)	8	1300
アミラーゼ(AMY)	11	11
アミラーゼアイソザイム	12	48
アルカリフォスファターゼ(ALP)	11	11
アルギニンバソプレッシン(ADH)	29	240
アルドステロン	31	140
アルドラーゼ(ALD)	12	11
アルブミン(Alb)	7、15	11
アルベカシン	52	特薬
アルミニウム(AI)	9	130
アンジオテンシン I	32	—
アンジオテンシン I 転換酵素(ACE)	31	160
アンジオテンシン II	32	—
アンチトロピン III 活性値(AT-III 活性値)	39	70
アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター)	40	140
アンドロステロン	31	—
アンドロステンジオン	31	—
アンモニア(NH3)	7	50
い		
イオン化カルシウム	8	27
一般細菌培養・同定検査	44	本文参照
インスリン	34	120
インスリン抗体	17、34	110
インフルエンザウイルス(A型、B型)	23	80
う		
ウロポルフィリン	11、49	115
え		
エコーウイルス	24	80
エステル型コレステロール	10	11
エストラジオール(E2)	32	200
エストリオール(E3)	32	—
エストロゲン(総) 非妊婦	32	—
エストロン(E1)	32	—
エタノール	53	120
エトスクシミド(ESM)	50	特薬
エラスターゼ1	35	135
エリスロポエチン	34	220
塩基性フェトプロテイン(BFP)	36	150
塩酸ビルジカイニド	51	特薬
エンドトキシン定量	21	270

項目名	ページ	実施料
お		
オウム病クラミジア	21	80
オステオカルシン(BGP)	30	170
オリゴクロナールバンド	17	—
か		
ガストリン	34	115
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	36	180
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	39	29
カテコールアミン3分画	30	190
カドミウム(Cd)	9	—
可溶性IL-2レセプター	36	460
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	40	100
カリウム(K)	8	11
カルシウム(Ca)	8	11
カルシトニン	30	150
カルバマゼピン(CBZ)	50	特薬
癌関連ガラクトース転移酵素(GAT)	37	190
カンジダ抗原(定性、定量)	22	150
関節液一般	43	—
関節液沈渣(結晶の有無)	43	—
間接クーモス試験(抗グロブリン試験)	18	34
寒冷凝集反応	16、21	11
き		
キニジン	51	特薬
キメリズム解析(移植前・後)	58	—
凝固因子活性		
(第II, V, VII, VIII, IX, X, XI, XII 因子定量)	39	240
凝固因子活性(第XIII 因子抗原量)	39	240
凝固抑制因子(第VIII, IX 因子)	39	160
胸水一般	43	—
蟻虫卵セロテープ	42	20
く		
グアナナーゼ	12	35
クエン酸	14	—
クラミジアトラコマチスDNA	21	210
クラミジアトラコマチス抗原	21	170
クラミジアトラコマチス抗体(IgA, IgG, IgM)	21	220
クラミジアニューモニエIgA	21	75
クラミジアニューモニエIgG	21	70
クラミジアニューモニエIgM	21	160
クリオグロブリン定性	15	42
グリコアルブミン	13	55
グリココール酸(CG)	11	80
グルカゴン(IRG)	34	150
クレアチニン	7	11
クレアチニンクリアランス	14	—
クレアチン	7	11
クロール(CI)	8	11
クロール定量(髄液)	42	11
クロナゼパム(CZP)	50	特薬
け		
血液疾患染色体G-Banding	59	2,400
血液像	38	18

INDEX

項目名	ページ	実施料
血小板第4因子(PF-4)	39	180
血清鉄(Fe)	9	11
血清補体価(CH50)	16	38
結核菌群DNA(PCR)	44	410
結石分析(成分比率)	14	120
血中原虫(マラリア原虫・フィラリア原虫)	38	40
血糖(グルコース)	13	11
ケトン体分画	13	60
嫌気性培養	44	70
ゲンタマイシン(GM)	52	特薬
こ		
抗DNA抗体	16	180
抗ds-DNA-IgG抗体	16	180
抗GAD抗体	17、34	140
抗Jo-1抗体	17	150
抗p53抗体	35	170
抗RNP抗体	16	150
抗Scl-70抗体	17	170
抗Sm抗体	16	170
抗SS-A抗体	17	170
抗SS-B抗体	17	170
抗ss-DNA-IgG抗体	16	180
抗アセチルコリンレセプター抗体	17	900
抗胃壁細胞抗体	17	—
抗核抗体(ELISA)	16	110
抗核抗体(FA)	16	120
抗核抗体(LEテスト)	16	70
抗ガラクトース欠損IgG抗体(精密測定)	16	120
抗カルジオリピンβ2グリコプロテインI複合抗体	17	230
抗カルジオリピン抗体(IgG)	17	250
高感度PSA F/T比タンデム	35	170
高感度PSA タンデム	35	140
抗血小板抗体	18	270
抗甲状腺サイログロブリン抗体	17	37
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	17、29	150
抗甲状腺マイクロゾーム抗体	17	37
抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)	17、29	150
好酸球数	38	17
抗酸菌属核酸同定精密測定(DDH)	44	410
抗酸菌塗抹鏡検	44	25
抗酸菌同定(ナイアシンテスト)	44	—
抗酸菌分離培養検査	44	本文参照
抗酸菌薬剤感受性	44	本文参照
抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体	17	210
抗セントロメア抗体	17	190
抗平滑筋抗体	17	—
抗ヘリコバクターピロリIgG抗体	21	80
抗ミトコンドリア抗体	17	230
コクサッキーウイルス	25	80
骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	11、30	170
骨髄像	38	500
コハク酸シベンゾリン	51	特薬
コプロポルフィリン(血中)	11	210
コプロポルフィリン定性	11、49	10
コプロポルフィリン定量	11、49	150
コリンエステラーゼ(S-CHE)	11	11

項目名	ページ	実施料
コレチコステロン	31	—
コレチゾール	31	140
コレチゾン	31	—
コレステロール分画	10	60
さ		
細菌薬剤感受性検査	44	—
サイクリック-AMP	34	180
サイクリック-GMP	34	—
サイトメガロウイルス	26	80
サイトメガロウイルス(IgG,IgM)	26	230
細胞診	54	本文参照
サイロイドテスト(抗甲状腺サイログロブリン抗体)	17、29	37
サイログロブリン(Tg)	29	140
サリチル酸	53	特薬
残余窒素(NPN)	7	—
し		
ジアゼパム(DZP)	50	特薬
シアリルLex-i抗原(SLX)	36	160
シアリルTn抗原(STN)	36	150
シアリ化糖鎖抗原(KL-6)	8	120
シアル酸	13	—
ジギトキシン	50	特薬
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	33	135
シクロスポリン	53	特薬
ジゴキシン	50	特薬
シスタチンC	8	130
ジソピラミド	51	特薬
シフラ(サイトケラチン19フラグメント)	36	180
シュウ酸	14	—
心筋トロポニンT	7、15	130
神経特異エノラーゼ(NSE)	36	150
心室筋ミオシン軽鎖I	7	190
浸透圧(血清)	9	15
浸透圧(尿)	9、49	16
す		
髄液一般	42	65
水痘帯状ヘルペスウイルス	26	80
水痘帯状ヘルペスウイルス(IgG,IgM)	26	230
水痘帯状ヘルペス抗原	26	240
腓骨フォスホリパーゼA2(腓PLA2)	34	210
せ		
精液検査	43	70
赤血球沈降速度(赤沈)	38	9
赤血球遊離プロトポルフィリン	11、57	280
セルロプラスミン	15	90
セロトニン(5-HT)	30	—
線維素分解産物(FDP)	39	80
全血比重	38	—
染色体C-Banding	59	2,400
染色体G-Banding	59	2,400
染色体Q-Banding	59	2,400
染色体R-Banding	59	2,400
染色体検査	59	2,400

INDEX

項目名	ページ	実施料
染色体高精度分染法	59	2,400
染色体脆弱X染色体	59	2,400
前立腺酸性フォスファターゼ(PAP)(比色法)	11	17
前立腺酸性フォスファターゼ(PAP)(RIA)	35	140

そ

総コレステロール	9	17
総三塩化物	57	—
総酸性フォスファターゼ(T-ACP)	11	11
総脂質	9	—
総胆汁酸	10	48
総蛋白(T. P)	7	11
総ハイドロキシプロリン	8	320
総ビリルビン	9	11
ゾニサミド	50	特薬
ソマトメジンC/IGF-I	29	240

た

第八因子様抗原定量	39	140
タクロリムス	53	特薬
単純ヘルペスウイルス	26	80
単純ヘルペスウイルス(IgG,IgM)	26	230
単純ヘルペス特異抗原	26	180
炭酸リチウム	51	特薬
蛋白定量(胸水・腹水)	43	11
蛋白定量(髄液)	42	11
蛋白分画	7	18

ち

チミジンキナーゼ活性(TK活性)	37	240
中性脂肪(TG)	10	11
虫体検出	42	23
虫卵(集卵、塗抹)	42	15、20
直接クームス試験(抗グロブリン試験)	18	30
直接ビリルビン	9	11

て

テコプラニン	52	特薬
デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)	14、37	200
テオフィリン	53	特薬
テストステロン	32	140

と

銅(Cu)	9	24
糖定量(胸水・腹水)	43	11
糖定量(髄液)	42	11
トキソプラズマ抗体	21	27
特異的IgE(シングル、マルチアレルゲン)	18	110
トブラマイシン(TOB)	52	特薬
塗抹鏡検	44	25
トランスフェリン(Tf)	15	60
トリクロル酢酸	57	—
トリプシン	12、34	200
トロンビンアンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	40	200
トロンボテスト	39	29
トロンボモジュリン	40	215

項目名

ページ 実施料

な

ナトリウム(Na)	8	11
鉛(Pb)	9	—

に

ニトラゼパム(NZP)	50	特薬
日本脳炎ウイルス	24	80
乳酸	13	48
尿一般	41	26
尿酸	7	11
尿素クリアランス	14	—
尿素呼気試験	43	70
尿素窒素	7	11
尿蛋白定量	41	7
尿蛋白免疫電気泳動	15、49	220
尿中GH	29、49	125
尿中HCG β-コアフラグメント	36	210
尿中アルブミン	16、49	115
尿中カテコールアミン総	30	220
尿中トランスフェリン	15	115
尿中塩基性フェトプロテイン(尿中BFP)	36	150
尿中核マトリックスプロテイン22(NMP22)	36	160
尿中铁(Fe)	9	11
尿中馬尿酸	57	—
尿沈渣	41	25
尿糖定量	41	9

は

ハプトグロビン	15	150
パラインフルエンザ	23	80
バルプロ酸(VPA)	50	特薬
ハロペリドール	51	特薬
バンコマイシン	52	特薬

ひ

ヒアルロン酸	7	200
鼻汁好酸球	43	15
ビタミンA	13	—
ビタミンB1	13	290
ビタミンB2	13	280
ビタミンB6	13	—
ビタミンB12	13	160
ビタミンC(アスコルビン酸)	13	330
ビタミンE	13	—
非特異的IgE	18	100
ヒトパピローマウイルス	27	—
ヒトパルボウイルスB19 IgG	26	—
ヒトパルボウイルスB19 IgM	26	230
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	33	210
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	31	150
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)	32	240
ヒト胎盤性ラクターゲン(HPL)	32	150
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	32	140
百日咳抗体	21	80
病原性大腸菌関連検査	44	本文参照
病理組織検査	54	880
ピリジノリン	14	—

INDEX

項目名	ページ	実施料
ビルビン酸	13	48
ビルメノール	51	特薬
ふ		
フィブリノーゲン	39	23
フィブリンモノマー複合体定量	40	240
風疹ウイルス	25	80
風疹ウイルス(IgG,IgM)	25	230
フェニトイン(PHT)	50	特薬
フェノバルビタール(PB)	50	特薬
フェリチン	12、35	120
フォンウィルブランド因子活性	39	140
フォンウィルブランド因子抗原定量	39	140
不規則性抗体	18	170
副甲状腺ホルモン(PTH)(高感度)	30	190
副甲状腺ホルモン(PTH)(高濃度測定)	30	190
副甲状腺ホルモン(PTH)-C末端	30	190
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	30	190
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PThrP)	30	200
腹水一般	43	—
プラスミノゲン	40	100
フリーテストステロン	32	170
プリミドン(PR)	50	特薬
プレアルブミン(PA)	15	115
フレカイニド	51	特薬
プレグナンジオール	33	220
プレグナントリオール	33	250
プレグネロン	33	—
プロカインアミド	51	特薬
プロゲステロン	32	170
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)	8、36	150
プロテインC活性	40	260
プロテインS抗原量(トータル)	40	170
プロテインS抗原量(フリー)	40	170
プロトロンビン時間(PT)	39	15
プロパフェノン	51	特薬
プロプラノロール	51	—
プロムペリドール	51	特薬
プロラクチン(PRL)	29	100
へ		
ヘパプラスチンテスト(HPT)	39	29
ペプシノーゲンⅠ・Ⅱ	12	—
ヘモグロビンA1c(HbA1c)	13	50
ベンス・ジョーンズ蛋白(B-J蛋白)	41	9
便脂肪染色	42	20
便潜血反応	42	9
便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(HB-TF)	42	60
便培養検査(3・4菌種)	44	—
便ヘモグロビン	42	37
便ヘモグロビン定量(ヘモグロビン精密測定)	42	42
ほ		
ポールバネル反応	21	—
ポリオウイルス	23	80
ポルフォビリノーゲン	11、49	200

項目名	ページ	実施料
ま		
マイクロゾームテスト(抗甲状腺マイクロゾーム抗体)	17、29	37
マイコプラズマ抗体	21	32
マグネシウム(Mg)	8	11
麻疹ウイルス	25	80
麻疹ウイルス(IgG,IgM)	25	230
末梢血一般	38	22
マンガン(Mn)	9	27
マンデル酸	57	—
み		
ミエリン塩基性蛋白	17	—
ミオグロビン(Mb)	7、15	150
ミオシンL1(心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ)	7、15	190
ミトコンドリア-GOT	12	50
む		
無機リン(IP)	8	17
ムコ蛋白(酸可溶性蛋白)	13	30
ムンプスウイルス	24	80
ムンプスウイルス(IgG,IgM)	24	230
め		
メキシレチン	51	特薬
メタネフリン2分画	31	240
メタネフリン総	31	240
メチル馬尿酸	57	—
メトレキサート	53	特薬
免疫抗体染色(病理組織検査)	54	350
免疫電気泳動(抗ヒト全血清)	15	240
免疫電気泳動(特異抗血清)	15	240
免疫複合体(CIq)	17	170
免疫複合体(モノクローナルRF)	17	200
も		
網状赤血球数	38	12
ゆ		
遊離コレステロール	10	11
遊離脂肪酸(NEFA)	10	16
よ		
葉酸	13	170
り		
リウマチ因子(RAPA)	16	30
リウマチ因子(RF)定量	16	30
リゾチーム(ムラミダーゼ)	12	—
リドカイン	51	特薬
リパーゼ	12	24
リポ蛋白(a)	10	120
リポ蛋白分画	10	50
リポ蛋白分画精密測定	10	80
淋菌・クラミジアトラコマティスrRNA同時同定	22	300
淋菌DNA	22	210
リン脂質(PL)	10	15
リンパ球混合培養(MLC)	58	—

INDEX

項目名	ページ	実施料	項目名	ページ	実施料
リンパ球表面マーカー／CD3	60	220			
リンパ球表面マーカー／CD4	60	220			
リンパ球表面マーカー／CD8	60	220			
リンパ球幼若化検査(Con-A)	60	290			
リンパ球幼若化試験(LST)	60	290			
る					
ループスアンチコアグラント	40	290			
れ					
レチノール結合蛋白(RBP)	15	140			
レニン活性(PRA)	31	115			
レニン定量(活性型)	31	115			
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	10	200			
ろ					
ロタウイルス抗原	42	65			

INDEX

項目名	ページ	実施料
A		
A/G比	7	—
ABO式血液型	18	21
ACE(アンギオテンシン I 転換酵素)	12、31	160
ACTH(副腎皮質刺激ホルモン)	29	220
ADA(アデニンデアミナーゼ)	12	32
AFP-L3分画比(AFPレクチン分画)	35	190
Al(アルミニウム)	9	130
ALB(アルブミン)	7	11
ALP(アルカリフォスファターゼ)	11	11
ALPアイソザイム	12	48
ALT(GPT)	11	17
AMY(アミラーゼ)	11	11
AMYアイソザイム	12	48
APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)	39	29
ASK	21	29
ASLO	21	15
AST(GOT)	11	17
AT-Ⅲ活性値	39	70
B		
BCA225	36	170
BFP(塩基性フェトプロテイン)	36	150
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	32	140
B細胞表面免疫グロブリン	60	170
C		
C1q	16	—
C1インアクチベータ活性	16	290
C3(β1C/β1Aグロブリン)	16	70
C4(β1Eグロブリン)	16	70
C5(β1Fグロブリン)	16	—
Ca(カルシウム)	8	11
CA125	35	160
CA15-3	35	130
CA19-9	35	150
CA50	35	150
CA54/61(CA546)	35	190
CA602	35	190
CA72-4	35	150
Cd(カドミウム)	9	—
CD45ゲーティング	60	1000
CEA(癌胎児性抗原)	35	115
CHE(コリンエステラーゼ)	11	11
CK(CPK)(クレアチンフォスフォキナーゼ)	11	11
CK(CPK)-MB	12	55
CK(CPK)アイソザイム	12	55
Cl(クロール)	8	11
CRE(クレアチニン)	7	11
CRN(クレアチン)	7	11
CRP(定性、定量)	16	16
Cu(銅)	9	24
C-ペプチド(CPR)	34	125
D		
DHEA-S(デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	32	190
DPD(デオキシピリジノリン)(骨粗鬆症)	37	200

項目名	ページ	実施料
DPD(骨粗鬆症)	14	200
DUPAN-2	36	130
Dアラビニトール	21	160
D-ダイマー	40	150
E		
EBウイルス	27	本文参照
F		
FDP(線維素分解産物)	39	72
Fe(鉄)	9	11
FSH(卵巣刺激ホルモン)	29	125
FT3(遊離トリヨードサイロニン)	29	140
FT4(遊離サイロキシン)	29	140
FTA-ABS(定性、定量)	22	150
G		
GAT(癌関連ガラクトース転移酵素)	37	190
GH(成長ホルモン)	29	125
GOT(AST)	11	17
GPT(ALT)	11	17
H		
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	32	240
HA抗体	28	150
HbA1c(ヘモグロビンA1c)	13	50
HbC抗体	28	150
HbE抗原	28	110
HbE抗体	28	110
HBs抗原(精密測定)	28	95
HBs抗体(精密測定)	28	95
HBV-DNAポリメラーゼ	28	310
HBV-DNA定量(PCR、RT-PCR)	28	290
HCG(ヒト胎盤絨毛性ゴナドトロピン)	32	150
HCG-βサブユニット	32	150
HCG定性	32	55
HCV-RNAコアジェノタイプ	28	—
HCV-RNA定量	28	450
HCVコア抗原	28	120
HCVコア抗体定量	28	150
HCV群別判定	28	240
HCV抗体(Ⅱ、Ⅲ)	28	120
HDLコレステロール	9	17
HIV-1抗体(WB)	22	280
HIV-1定量(リアルタイムPCR)	22	520
HIV-2抗体(WB)	22	380
HIV抗原抗体	22	130
HLA-A(DNAタイピング)	58	—
HLA-A, B(血清対応型タイピング)	58	—
HLA-B(DNAタイピング)	58	—
HLA-C(DNAタイピング)	58	—
HLA-DPB1(DNAタイピング)	58	—
HLA-DQB1(DNAタイピング)	58	—
HLA-DR(血清対応型タイピング)	58	—
HLA-DRB1(DNAタイピング)	58	—
HPL(ヒト胎盤性ラクターゲン)	32	150
HPT(ヘパプラスチンテスト)	39	29

INDEX

項目名	ページ	実施料
HTLV-I (CLEIA)	22	本文参照
HVA(ホモバニール酸)	31	70
I		
ICG試験(インドサイアニン・グリーン)	11	100
IgA	18	38
IgD	18	38
IgE(非特異的IgE)	18	100
IGF-I /ソマトメジンC	29	240
IgG	18	38
IgG型リウマチ因子	16	210
IgM	18	38
IgM-FTA-ABS	22	150
IgM-HA抗体	28	150
IgM-HBc抗体	28	150
K		
K(カリウム)	8	11
KL-6(シアル化糖鎖抗原)	8	120
L		
LAP(ロイシン・アミノ・ペプシダーゼ)	11	11
L-CAT(レチニン・コレステロールアシルトランスフェラーゼ)	12	70
LD(LDH)(乳酸脱水素酵素)	11	11
LD(LDH)アイソザイム	12	48
LDLコレステロール	10	18
LE細胞	38	—
LEテスト	16	70
LH(黄体形成ホルモン)	29	125
L-ドーパ	30	—
M		
MAST26アレルゲン	18	1430
Mg(マグネシウム)	8	11
MMP-3	17	120
Mn(マンガン)	9	27
MPO-ANCA	17	290
N		
Na(ナトリウム)	8	11
N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)	12、49	41
NCC-ST-439	36	130
NEFA(遊離脂肪酸)	10	16
NK細胞活性	60	—
NSE(神経特異エノラーゼ)	36	150
NTx(I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	37	160
NTx(骨粗鬆症)	14	160
N-アセチルプロカインアミド	51	特薬
N-メチルホルムアミド	57	—
P		
P(IP)(無機リン)	8	17
P-III-P(プロコラーゲンIIIペプチド)	8	150
PA(PSA)前立腺特異抗原	35	140
PAIgG(血小板関連IgG)	18	210
PAP(前立腺酸性フォスファターゼ)	35	140
Pb(鉛)	9、57	—

項目名	ページ	実施料
PFDテスト(PABA排泄率)	34	100
PHAによるリンパ球幼若化検査	60	290
PIVKA-II	36、40	150
PR3-ANCA	17	290
Pro GRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)	36	180
PSA-ACT	35	140
PSPテスト	41	150
PSTI(膵分泌性トリプシンインヒビター)	34	100
PT(プロトロンビン時間)	39	15
PTH(高感度)	30	190
PTH(高濃度測定)	30	190
PTH-C末端	30	190
PTHrP	30	200
PTH-インタクト	30	190
P型アミラーゼ定量	11	48
R		
RAPA(リウマチ因子)	16	30
RBP(レチノール結合蛋白)	13	140
RF(リウマチ因子)定量	16	30
Rh(D因子)式血液型	18	21
RLP-C(レムナト様リポ蛋白コレステロール)	10	200
RPR定性	22	15
RPR定量	22	34
RSウイルス	23	80
S		
SCC(扁平上皮癌関連抗原)	36	115
SFMC(可溶性フィブリンモノマー複合体)	40	100
SLX(シアルリL _{ex} -i抗原)	36	160
SPan-1	36	150
T		
TP(総蛋白)	7	11
T3(トリヨードサイロニン)	29	115
T3-UPTAKE(T3摂取率)	29	—
T4(サイロキシン)	29	120
TAT(トロンビンアンチトロンビンIII複合体)	40	200
TBG(サイロキシン結合グロブリン)	29	140
TG(中性脂肪)	10	11
TIBC(総鉄結合能)[比色法]	9	11
TIBC(総鉄結合能)[精密]	9	85
TK活性(チミジンキナーゼ活性)	37	240
TPA(組織ポリペプチド抗原)	36	115
t-PA・PAI複合体	40	260
TP抗体 定性	22	32
TP抗体 定量	22	55
TSH(甲状腺刺激ホルモン)	29	115
TSHレセプター抗体(TRA _b)	29	250
TSHレセプター抗体定量(TRA _b 定量)	29	250
TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)	29	350
TTT(チモール混濁反応)	7	11
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	60	—
T細胞百分率B細胞百分率	60	210
U		
UA(尿酸)	7	11

INDEX

項目名	ページ	実施料	項目名	ページ	実施料
UIBC(不飽和鉄結合能)[比色法]	9	11			
UIBC(不飽和鉄結合能)[精密]	9	80			
UN(尿素窒素)	7	11			
V					
VIP(バソアクティブ腸管ペプチド)	34	—			
VMA(バニリルマンデル酸)定性	31、49	9			
VMA(バニリルマンデル酸)定量	31	90			
Z					
Zn(亜鉛)	9	150			
ZTT(硫酸亜鉛試験)	7	11			
α					
α1-アシドグロブリン(α1AG)	15、35	—			
α1-アンチトリプシン(α1AT)	15	80			
α1-マイクログロブリン(α1MG)	8、15	150			
α2プラスミンインヒビター	40	140			
α2プラスミンインヒビター-プラスミン複合体(PIC)	40	170			
α2-マイクログロブリン(α2MG)	15	140			
αフェトプロテイン(定性、定量)	35	—、115			
β					
β2-マイクログロブリン(β2MG)	15、35	115			
βカロチン	13	—			
βトロンボグロブリン(β-TG)	39	180			
βリポ蛋白	10	—			
γ					
γ-GT(γ-GTP)	11	11			
γ-GTPアイソザイム	12	48			
γ-Sm(γ-セミノプロテイン)	36	200			
δ					
δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)	1,49,57	115			
数字					
(1→3)β-D-グルカン	21	220			
1,25-(OH)2ビタミンD(1,25-ジヒドロキシV.D)	13	400			
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール	12	80			
11-OHCS	32	60			
11-デオキシコルチゾール(11-DOF)	31	—			
17-KS(総)	32	70			
17-KS7分画	32	220			
17-OHCS	31	60			
17α-OHプロゲステロン	33	220			
17α-ヒドロキシプレゲネロン	33	—			
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	30、37	160			
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症)	14	160			
2,5-ヘキサンジオン	57	—			
2-5A合成酵素活性	28	250			
24時間クレアチニンクリアランス	14	—			
3-メチルヒスチジン	7	320			
IV型コラーゲン	8、36	150			
IV型コラーゲン・7S	8、36	160			
5-HIAA(5-ヒドロキシインドール酢酸)	31	95			
5α-ジヒドロテストステロン(DHT)	33	—			

検査依頼要領

1. 取引申込方法

全国の各医療機関よりお受け出来る体制が整っております。ご連絡により係員がお伺いしご説明、ご相談申し上げます。

2. 検査依頼方法

セントラル医学検査研究所指定の依頼書および検体採取容器を使用させていただきます。これらはご連絡によりお届けいたします。




1) 依頼書

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 総合検査依頼書 | 2 細菌検査依頼書 |
| 3 病理組織検査依頼書 | 4 細胞診検査依頼書 |

それぞれの項目に適合した依頼書を御使用ください。

2) 厚生労働省の「登録衛生検査所指導要項」に従い、検体ラベルの記載事項を確認することとしております。患者名、性別、年齢、検体採取日時(時系列番号)、材料を必ず記入し、提出容器に貼ってください。

3) 記入要領

- 患者名、性別、年齢、検体採取日時、材料、依頼項目、病院名、医師名、緊急時連絡先をご記入ください。
- ノンカーボン複写となっております。
- 患者名、医師名は必ずカタカナでご記入ください。
- 依頼項目は項目名左の  に 、取り消しの場合は  とご記入ください。
- 依頼票に記載されていない項目は、各依頼票の「欄外項目」にご記入ください。
- 尿量と蓄尿時間(24時間尿か部分尿か)によって結果を換算してご報告する項目や、材料、性別、年齢、妊娠週数によって基準値の異なる項目があります。必要事項をもれなくご記入ください。

4) 受領証

当研究所では検体および検査依頼票を受領した証として、ご依頼者に「受領証」を発行させて戴きますので、大切に保存してください。

5) 採取容器

指定の採取容器にて採取してください。尚、採取容器については弊社にて準備しておりますので、担当営業員までご連絡ください。

6) 採取方法

検査項目に適した方法で採取願います。
特殊な採取方法につきましては、専用容器の取り扱い方法をご参照ください。

7) 検体量

検体量は再検査分を考慮して設定しております。
血清または血漿の場合、必要量の約3倍量の血液を採血してください。
また、蓄尿の場合、冷暗所にて24時間蓄尿し、よく混和し必要量をご提出ください。

8) 保存条件

指定の保存方法にてご提出ください。

9) 所要日数

原則的には検体をお預かりした当日を起算日とし、結果を先生のお手元へお届けするまでの日数です。

検査依頼要領

3. 検査結果の報告方法

検査結果は営業員がお届けいたします。当研究所は正確迅速をモットーとしております。至急検査のご依頼は、結果の出次第、電話及びFAXにてご連絡いたします。

4. 連絡・問合せ

検査結果、検査方法、その他検査に関することは本社にご連絡下さい。集材に関する試験管の補充その他は、各受持地区の営業員にご連絡下さい。

連絡先

本社：水戸市白梅2丁目9番地13号 TEL 029(225)8858

下館研究所：筑西市幸町2丁目7番地7号 TEL 0296(28)5900

5. 検体の提出と輸送方法

検体は原則として、院内検査室でまとめてご提出下さい。係員が定期的集配いたします。

県外の地域の場合は輸送に必要な器材はすべて用意してあります。

※緊急検査の場合、集配とは別に直接会社より担当員がお伺い致しますので当研究所迄ご連絡下さい。

※貴院への集配は、

検体受領場所 _____ へお伺い致します。

_____ 時集配分は _____ 時頃

_____ 時集配分は _____ 時頃

搬入されます。

(平均搬送時間 _____ 時間)

6. 料金請求と支払方法

継続お取引機関は1ヶ月分まとめて請求申し上げます。支払方法はご契約に従ってお支払いいただきます。

取引金融機関：常陽銀行 下市支店

水戸信用金庫 下市支店

茨城銀行 水戸駅南支店

送金先：水戸市白梅 2-9-13 株式会社セントラル医学検査研究所

7. 最終委託先

株式会社 エスアールエル：「S」

株式会社 ビー・エム・エル：「B」

株式会社 三菱化学メディエンス：「M」

株式会社 東京セントラルパソロジーラボラトリー：「T」

株式会社 廣田外科病理研究所：「H」

※再委託する項目については、「基礎的文献」の欄に掲載しております。

※再委託先への検体搬送時間は、6時間以内です。

緊急報告値一覧

下記の検査項目については、設定された緊急報告範囲を越えた場合、緊急連絡させていただきます。

検査項目	緊急報告範囲	基準値	
薬物検査	フェノバルビタール	60 $\mu\text{g/ml}$ 以上	15~40 $\mu\text{g/ml}$
	フェニトイン	30 $\mu\text{g/ml}$ 以上	10~20(小児5~15) $\mu\text{g/ml}$
	カルバマゼピン	12 $\mu\text{g/ml}$ 以上	4~10 $\mu\text{g/ml}$
	プリミドン	15 $\mu\text{g/ml}$ 以上	5~10 $\mu\text{g/ml}$
	エトスクシミド	120 $\mu\text{g/ml}$ 以上	40~100 $\mu\text{g/ml}$
	バルプロ酸	150 $\mu\text{g/ml}$ 以上	50~100 $\mu\text{g/ml}$
	ジゴキシン	2.5 ng/ml 以上	0.8~2.0 ng/ml
	ジギトキシン	35.0 ng/ml 以上	10.0~25.0 ng/ml
	リドカイン	6.1 $\mu\text{g/ml}$ 以上	1.4~6.0 $\mu\text{g/ml}$
	プロカインアミド	16 $\mu\text{g/ml}$ 以上	4~8 $\mu\text{g/ml}$
	テオフィリン	25 $\mu\text{g/ml}$ 以上	10~20 $\mu\text{g/ml}$
	炭酸リチウム	2.0 mEq/l 以上	0.40~1.00 mEq/l
	アミカシン	35 $\mu\text{g/ml}$ 以上	20~25 $\mu\text{g/ml}$
	ゲンタマイシン	12 $\mu\text{g/ml}$ 以上	5~10 $\mu\text{g/ml}$
	トブラマイシン	12 $\mu\text{g/ml}$ 以上	5~8 $\mu\text{g/ml}$
サリチル酸	400 $\mu\text{g/ml}$ 以上	(抗リウマチ薬として)150~300 $\mu\text{g/ml}$	
生化学的検査	総ビリルビン	12 mg/dl 以上	0.20~1.20 mg/dl
	AST(GOT)	500 U/l 以上	5~40 U/l
	ALT(GPT)	500 U/l 以上	5~40 U/l
	LD(LDH)	1000 U/l 以上	119~229 U/l
	アミラーゼ(AMY)(血清)	1000 IU/l 以上	60~200 IU/l
	尿素窒素(UN)(血清)	80.0 mg/dl 以上(透析を除く)	8.0~20.0 mg/dl
	血糖(グルコース)	50 mg/dl 以下 又は 500 mg/dl 以上	70~109 mg/dl
	ナトリウム(Na)(血清)	110 mEq/l 以下 又は 170 mEq/l 以上	135~147 mEq/l
	カリウム(K)(血清)	2.5 mEq/l 以下 又は 6.5 mEq/l 以上	3.5~5.3 mEq/l
	カルシウム(Ca)(血清)	6.0 mg/dl 以下 又は 14.0 mg/dl 以上	8.0~10.2 mg/dl
免疫学的検査	直接クームス	(+) (Baby のみ)	(-)
血液学的検査	白血球数(WBC)	1,000 / μl 以下 又は 25,000 / μl 以上	3,500~9,500 / μl
	血色素量(Hb)	M:7.0 g/dl 以下 F:5.0 g/dl 以下	M:13.0~17.0 g/dl F:11.5~15.0 g/dl
	血小板数(Plt)	3.0×10^4 / μl 以下 又は 100.0×10^4 / μl 以上	$13.0 \sim 37.0 \times 10^4$ / μl
	血液像	白血病の疑いのあるもの (多数の異型細胞、芽球、判定困難な細胞出現時)	
凝固関連検査	プロトロンビン時間(PT)	25.0 秒 以上	10.0~13.0 秒
	活性化部分 トロンボプラスチン時間(APTT)	50.0 秒 以上	25.0~40.0 秒
	トロンボテスト(TT)	5 % 以下	70 以上 %
	ヘパプラスチンテスト(HPT)	5 % 以下	70~130 %
	フィブリノーゲン(Fib)	100 mg/dl 以下	160~400 mg/dl
	線維素分解産物(FDP)	40 $\mu\text{g/ml}$ 以上	10 未満 $\mu\text{g/ml}$

上記の検査項目で緊急報告値の範囲であっても、溶血・乳ビなどが検査結果に影響を与えていると思われる場合は、緊急報告の対象から除外し、報告書にコメントを付けてご報告致します。

検体検査料

- 「実施料」欄は、2008年4月現在の検体検査実施料に準じております。
- 「実施料」欄中、濃緑色にて表示されている点数は、下表に従い包括点数が算定されます。
- 検体検査判断料、病理学的検査診断、判断料の区分は「実施料」欄に下記の通り併記してあります。

- ①尿・糞便等検査判断料区分(34点) 尿便
- ②血液学的検査判断料区分(125点)..... 血液
- ③生化学的検査(Ⅰ)判断料区分(144点)..... 生Ⅰ
- ④生化学的検査(Ⅱ)判断料区分(144点)..... 生Ⅱ
- ⑤免疫学的検査判断料区分(144点)..... 免疫
- ⑥微生物学的検査判断料区分(150点)..... 微生
- ⑦病理診断料区分(410点)または病理判断料区分(146点)..... 病理
- ⑧検体検査判断料なし..... (空欄)

- 下記(適用項目)に掲げた検査を、1回に採取した材料を用いて複数行った場合、その点数は項目数に応じて実施料欄に示したように算定されます。

①生化学的検査(Ⅰ)

項目数	実施料
5項目以上 7項目以下	100
8項目以上 9項目以下	109
10項目以上	129

適用項目			
総ビリルビン	直接ビリルビン	総蛋白	アルブミン
尿素窒素(BUN)	クレアチニン	尿酸	アルカリフォスファターゼ
CHE	γ -GTP	中性脂肪	Na及びCl
K	Ca	Mg	チモール混濁反応(TTT)
クレアチン	グルコース	乳酸脱水素酵素(LDH)	硫酸亜鉛試験(ZTT)
エステル型コレステロール	アミラーゼ	LAP	酸性フォスファターゼ
アルドラーゼ	遊離コレステロール	鉄	クレアチン・フォスフォキナーゼ(CPK)
リン脂質	遊離脂肪酸	HDL-コレステロール	
P及びHPO ₄	総コレステロール	GOT(AST)	試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極による血中ケトン体・糖・クロール検査
LDL-コレステロール	蛋白分画測定	Cu	
前立腺酸性フォスファターゼ	GPT(ALT)	イオン化カルシウム	
マンガン	リパーゼ		

検体検査料

②生化学的検査(Ⅱ)

項目数	実施料
3項目以上 5項目以下	410
6項目以上 7項目以下	630
8項目以上	900

適用項目

成長ホルモン(GH)精密測定	卵胞刺激ホルモン(FSH)精密測定	C-ペプチド(CPR)精密測定	黄体形成ホルモン(LH)
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)精密測定	サイロキシン結合能(TBC)精密測定	遊離サイロキシン(FT4)精密測定	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ(GAD)抗体価精密測定
遊離トリヨードサイロニン(FT3)精密測定	コルチゾール精密測定	アルドステロン精密測定	サイロキシン結合蛋白(TBG)精密測定
テストステロン精密測定	サイログロブリン精密測定	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)精密測定	ヒト胎盤性ラクトゲン(HPL)
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG定量)精密測定	ヒト絨毛性ゴナドトロピンβ(HCGβ)分画	グルカゴン精密測定	カルシトニン精密測定
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)精密測定	オステオカルシン精密測定	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)精密測定	尿中βクロスラプス精密測定
セクレチン精密測定	プロジェステロン精密測定	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量	遊離テストステロン精密測定
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)精密測定	サイクリックAMP(C-AMP)精密測定	エストリオール(E3)精密測定	エストロジェン
副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)精密測定	副甲状腺ホルモン(PTH)精密測定	カテコールアミン分画精密測定	DHEA-S精密測定
尿中デオキシピリジリン精密測定	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)精密測定	17-ケトジェニックスステロイド(17-KGS)精密測定	エストラジオール(E2)精密測定
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)精密測定	17-ケトジェニックスステロイド分画(17-KGS分画)精密測定	カテコールアミン精密測定	17-ケトステロイド分画(17-KS分画)精密測定
エリスロポエチン精密測定	17α-ヒドロキシプロジェステロン精密測定	抗IA-2抗体精密測定	プレグナンジオール
メタネフリン精密測定	ソマトメジンC精密測定	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(HANP)精密測定	メタネフリン分画精密測定
アルギニンバププレッシン精密測定	プレグナントリオール精密測定	ノルメタネフリン精密測定	インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)精密測定

③腫瘍マーカー

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	420

適用項目

癌胎児性抗原(CEA)精密測定	α-フェト蛋白(AFP)	組織ポリペプチド抗原(TPA)精密測定	扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)精密測定
DUPAN-2精密測定	NCC-ST-439精密測定	CA15-3精密測定	エラスターゼ1精密測定
前立腺酸性フォスファターゼ精密測定	PSA精密測定	塩基性フェト蛋白(BFP)精密測定	CA19-9精密測定
CA72-4精密測定	CA-50精密測定	SPan-1抗原精密測定	シアリルTn抗原(STN)精密測定
神経特異エノラーゼ(NSE)精密測定	PIVKA II精密測定	尿中NMP22精密測定	シアリルLe ^x -i(SLX)抗原精密測定
CA125精密測定	シアリルLe ^x (GSLEX)抗原精密測定	フリーPSA/トータルPSA比精密測定	BCA225精密測定
I型プロコラーゲンC-プロペプチド精密測定	I型コラーゲンCテロペプチド精密測定	SP1精密測定	血清中抗p53抗体
サイトケラチン19フラグメント精密測定	ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)精密測定	尿中遊離型フォース	CA602精密測定
AFPのレクチン反応性による分画比(AFP-L3%)	CA54/61精密測定	癌関連ガラクトース転移酵素(GAT)精密測定	γ-セミノ蛋白(γ-Sm)精密測定
CA130精密測定	尿中ヒト絨毛性ゴナドトロピンβ分画コア定量(HCGβコア定量)精密測定	腭癌胎児性抗原(POA)精密測定	乳頭分泌液中CEA精密測定
乳頭分泌液中HER2タンパク測定	血清中HER2タンパク測定	インターロイキン2受容体(IL-2R)精密測定	

検体検査料

④肝炎ウイルス関連検査

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	520

適用項目			
HBs抗原精密測定	HBs抗体価精密測定	HBe抗原精密測定	HBe抗体価精密測定
HCV抗体価精密測定	HCVコア蛋白質測定	HBe抗体価	IgM-HA抗体価精密測定
HA抗体価精密測定	IgM-HBc抗体価精密測定	HCVコア抗体価精密測定	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体価
HCV特異抗体価測定による群別判定	B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)定量	デルタ肝炎ウイルス抗体価精密測定	HCV特異抗体価精密測定

⑤自己抗体検査

項目数	実施料
2項目	320
3項目以上	490

適用項目			
抗Jo-1抗体	甲状腺自己抗体精密測定	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	抗RNP抗体
抗Sm抗体	抗SS-A/Ro抗体	抗SS-B/La抗体	抗Scl-70抗体
C1q結合免疫複合体精密測定			

⑥出血・凝固検査

項目数	実施料
3項目以上 4項目以下	530
5項目以上	750

適用項目			
フィブリノーゲン分解産物精密測定	D-Dダイマー定性	α 2-マクログロブリン	アンチプラスミン
フォン・ウィルブランド因子	PIVKA II	D-Dダイマー定量	凝固因子インヒビター
第Ⅷ因子様抗原	プロテインS精密測定	α 2-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	血小板第4因子(PF4)精密測定
β -トロンボグロブリン精密測定	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)精密測定	プロトロンビンフラグメントF1+2精密測定	トロンボモジュリン精密測定
フィブリンモノマー複合体定量	凝固因子(Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、ⅫⅢ)	プロテインC	tPA・PAI-1複合体
フィブリノペプチド精密測定			

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
蛋白・アミノ酸・窒素化合物									
10	総蛋白 (TP)	血清 1.0	01	冷蔵	Biuret法	6.5~8.2 g/dl	2	11 生 I	
20	アルブミン (Alb)	血清 1.0	01	冷蔵	BCG法	3.8~5.3 g/dl	2	11 生 I	
30	A/G比	血清 1.0	01	冷蔵	Biuret法 BCG法	1.30~2.00	2	—	
40	蛋白分画	血清 0.3	01	冷蔵	セ・ア膜 電気泳動法	A/G: 1.32~2.08 ALB: 57.6~67.9% α1G: 2.0~3.2% α2G: 6.6~10.2% βG: 7.8~11.8% γG: 11.4~21.4%	2	18 生 I	
50		尿 1	32	凍結					
80	TTT (チモール混濁反応)	血清 1.0	01	冷蔵	消化器病学会 肝機能研究班 推奨法	6.0以下 U	2	11 生 I	
90	ZTT (硫酸亜鉛試験)	血清 1.0	01	冷蔵	消化器病学会 肝機能研究班 推奨法	4.0~12.0 U	2	11 生 I	
430	尿素窒素	血清 1.0	01	冷蔵	ウレア-セ GLDH法	8.0~20.0 mg/dl	2	11 生 I	
432		蓄尿 3	32			6.5~13.0 g/day		11 生 I	
440	残余窒素 (NPN)	血清 1.0	01	凍結	ケルダール ネスラ法	15.0~35.0 mg/dl	2	—	
460	尿酸	血清 1.0	01	冷蔵	酵素法	M: 3.7~7.0 F: 2.5~7.0 mg/dl	2	11 生 I	
462		蓄尿 3	32			0.4~1.2 g/day		11 生 I	
470	クレアチニン	血清 1.0	01	冷蔵	酵素法	M: 0.66~1.07 F: 0.45~0.81 mg/dl	2	11 生 I	
472		蓄尿 3	32			0.5~1.5 g/day		11 生 I	
480	クレアチン	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	0.3~1.2 mg/dl	3~5	11 生 I	
482		蓄尿 1	32			M: 170以下 F: 290以下 mg/day		11 生 I	24時間蓄尿し全尿量を 記録して必要量を提出
490	アンモニア (NH ₃)	血漿 0.8	03	凍結	NADS 酵素法	12~66 μg/dl	2	50 生 I	直ちに血漿分離し、凍結 保存して下さい。(室温放 置高値。血球混入不可)
510	ヒアルロン酸	血清 0.3	01	冷蔵	ラテックス 凝集比濁法	50.0以下 ng/ml	3~5	190 生 I	肝硬変の判定基準 130ng/ml以上(50~ 130ng/mlの場合、肝の 線維化が疑われます。)
520	3-メチルヒスチジン	蓄尿 2	32	凍結	HPLC	113.4~480.9 μmol/day	6~9	320 生 II	
530	心筋トロポニンT	血清 0.3	01	凍結	ECLIA	0.10以下 ng/ml	3~5	130 生 I	
540	ミオグロビン (Mb)	血清 0.2	01	凍結	CLIA	60.0以下 ng/ml	3~5	150 生 I	
541		部分尿 8	18	冷蔵	RIA2抗体法	10以下 ng/ml		150 生 I	必ず専用容器で提出
550	ミオシンI1 (心室筋ミオシン軽鎖 I)	血清 0.2	01	凍結	EIA	2.5以下 ng/ml	4~7	190 生 I	

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
蛋白・アミノ酸・窒素化合物									
560	総ハイドロキシプロリン	蓄尿 1	32	凍結	HPLC	83~330 μmol/day	5~12	320 生Ⅱ	
580	アミノ酸分析 (9種類)	血漿 0.3	09	絶対 凍結	HPLC	血漿: nmol/ml 尿: μmol/day mmo//day	5~8	1300 生Ⅱ	6N塩酸約20mlを入れた蓄尿瓶へ24時間蓄尿し、よく混和後必要量を必ず凍結保存し提出して下さい。尿量が少ない場合は尿100mlに対して6N塩酸1mlの割合で入れて下さい。必ず酸性蓄尿(pH1.0~3.0)にして下さい。
590	アミノ酸分析 (41種類)	血漿 1.0 髄液 1.0 酸性蓄尿 3	09 32 32				8~12		
3140	KL-6 (シアル化糖鎖抗原)	血清 0.2	01	凍結	ECLIA	500未満 U/ml	4~7	120 生Ⅰ	
4510	α ₁ -マイクログロブリン (α ₁ MG)	血清 0.2	01	冷蔵	ラテックス 凝集法	M: 10.0~21.0 F: 8.3~16.4 mg/l	3~5	150 免疫	
4511		尿 0.5	32			M: 0.60~16.60 F: 0.50~9.75 mg/l		150 免疫	
4800	シスタチンC	血清 0.4	01	冷蔵	ラテックス 凝集比濁法	0.40~0.91 mg/l	2	130 生Ⅰ	
20510	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	血清 0.3	01	凍結	RIA固相法	0.3~0.8 U/ml	3~6	150 生Ⅰ	
20520	Ⅳ型コラーゲン	血清 0.3	01	冷蔵	ラテックス 凝集比濁法	150以下 ng/ml	3~5	150 生Ⅰ	
20540	Ⅳ型コラーゲン・7S	血清 0.5	01	凍結	RIA2抗体法	6以下 ng/ml	4~7	160 生Ⅰ	

電解質・金属 関連

1010	Na (ナトリウム)	血清 1.0	01	冷蔵	電極法	135~147 mEq/l	2	11 生Ⅰ	溶血検体は低値
1012		蓄尿 3	32			4.0~8.0 g/day		11 生Ⅰ	
1020	Cl (クロール)	血清 1.0	01	冷蔵	電極法	96~108 mEq/l	2	11 生Ⅰ	溶血検体は低値
1022		蓄尿 3	32			6.0~12.0 g/day		11 生Ⅰ	
1030	K (カリウム)	血清 1.0	01	冷蔵	電極法	3.5~5.3 mEq/l	2	11 生Ⅰ	溶血検体は高値。直ちに血清分離
1032		蓄尿 3	32			2.0~2.5 g/day		11 生Ⅰ	
1040	P (IP) (無機リン)	血清 1.0	01	冷蔵	酵素法	2.50~4.50 mg/dl	2	17 生Ⅰ	溶血検体は高値
1042		蓄尿 3	32			0.5~2.0 g/day		17 生Ⅰ	
1050	Mg (マグネシウム)	血清 0.5	01	冷蔵	比色法(キシリ ジルブルー)	1.7~2.6 mg/dl	2~4	11 生Ⅰ	
1052		蓄尿 1	32			0.10~0.20 g/day		11 生Ⅰ	24時間蓄尿し全尿量を記録して必要量を提出
1060	Ca (カルシウム)	血清 1.0	01	冷蔵	アルセナゾⅢ 法	8.6~10.1 mg/dl	2	11 生Ⅰ	EDTA血漿測定不可
1062		蓄尿 3	32			0.15~0.29 g/day		11 生Ⅰ	pH3.0~5.0に調整すれば6ヶ月間安定
1070	イオン化カルシウム	血清 0.9	01	絶対 凍結	イオン電極法	2.41~2.72 mEq/l	4~7	27 生Ⅰ	pH7.4、37℃にて測定

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
-----	-----	-------------	----	----------	-----	--------	----------	------------	----

電解質・金属 関連

1080	Fe (血清鉄)	血清 1.0	01	冷蔵	ニトロPSAP 法	M: 54~200 F: 48~154 μg/dl	2	11 生I	EDTA血漿測定不可
1081	Fe (尿中鉄)	蓄尿 10	28	冷蔵	原子吸光法	0.1~0.2 mg/day	7~13	11 生I	
1090	TIBC (総鉄結合能)	血清 1.2	01	冷蔵	ニトロPSAP 法	250~440 μg/dl	2	11 生I	EDTA血漿測定不可
1100		血清 0.5	01	凍結	CPBA	M: 238~367 F: 246~396 μg/dl	4~7	85 生I	
1110	UIBC (不飽和鉄結合能)	血清 1.2	01	冷蔵	ニトロPSAP 法	190~270 μg/dl	2	11 生I	EDTA血漿測定不可
1120		血清 0.2	01	凍結	CPBA	M: 117~275 F: 159~307 μg/dl	4~7	80 生I	
1130	浸透圧 (OSMO)	血清 0.5	01	冷蔵	氷点降下法	276~292 mOsm/kg・H ₂ O	3~6	15 血液	
1131		部分尿 1	32		氷点降下法	(濃縮時)850以上 (希釈時)40~85 (Fishberg試験時) mOsm/kg・H ₂ O		16 尿便	
1150	Cu (銅)	血清 0.4	01	冷蔵	比色法	70~132 μg/dl	2~4	24 生I	
1151		尿 5	28		原子吸光 分析法	14~63 μg/l	4~8	24 生I	必ず指定容器使用
1160	Pb (鉛)	ヘパリン加 血液 1.0	09	冷蔵	原子吸光 分析法	20以下 μg/dl	5~7	—	特殊健康診断の場合、 基準値は設定されていま せん。
1170	Zn (亜鉛)	血清 0.5	25	冷蔵	原子吸光 分析法	64~111 μg/dl	3~5	150 生I	必ず指定容器使用
1171		尿 5	28			64~947 μg/l	4~8	150 生I	
1180	Mn (マンガン)	ヘパリン加 血液 2.0	09	冷蔵	原子吸光 分光光度法	0.8~2.5 μg/dl	3~18	27 生I	
1181		尿 2	32			2以下 μg/l	3~18	27 生I	
1200	Cd (カドミウム)	ヘパリン加 血液 0.5	09	冷蔵	原子吸光 分析法	1以下 μg/dl	7~13	—	
1201		尿 1	28			3.8以下 μg/l	6~13	—	必ず指定容器使用
1220	Al (アルミニウム)	血清 0.5	25	冷蔵	原子吸光 分析法	0.9以下 μg/dl	5~7	130 生I	必ず指定容器使用

脂質・胆汁酸・色素 関連

100	総ビリルビン	血清 1.0	01	遮光 冷蔵	酵素法	0.20~1.20 mg/dl	2	11 生I	溶血検体は低値
110	直接ビリルビン	血清 1.0	01	遮光 冷蔵	酵素法	0.05~0.30 mg/dl	2	11 生I	溶血検体は低値
310	総脂質	血清 0.5	01	冷蔵	加算法	350~800 mg/dl	2~4	—	
330	総コレステロール	血清 1.0	01	冷蔵	酵素法	130~219 mg/dl	2	17 生I	動脈硬化性疾患診療カ イドライン: 75ページ参照
340	HDLコレステロール	血清 0.5	01	冷蔵	直接法	M: 40~86 F: 40~99 mg/dl	2	17 生I	高ビリルビン検体測定不可 動脈硬化性疾患診療カ イドライン: 75ページ参照

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
脂質・胆汁酸・色素 関連									
350	LDLコレステロール	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法の測定法	70~139 mg/dl	2	18 生 I	動脈硬化性疾患診療ガイドライン: 75ページ参照
370	エステル型コレステロール	血清 0.5	01	凍結	コレステロール脱水素酵素法	90~200 mg/dl	3~6	11 生 I	
380	遊離コレステロール	血清 0.5	01	凍結	酵素法	30~60 mg/dl	3~6	11 生 I	
390	中性脂肪 (TG)	血清 1.0	01	冷蔵	酵素法	40~149 mg/dl	2	11 生 I	動脈硬化性疾患診療ガイドライン: 75ページ参照
410	リン脂質 (PL)	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	150~250 mg/dl	2~4	15 生 I	
420	遊離脂肪酸 (NEFA)	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	0.10~0.81 mEq/l	2~4	16 生 I	
2010	β-リポ蛋白	血清 0.5	01	冷蔵	比濁法	M: 150~600 F: 130~430 mg/dl	2~4	—	
2020	リポ蛋白分画	血清 0.3	01	冷蔵	アガロース電気泳動法	(M) α: 25~50 Pre β: 8~32 β: 33~55 (F) α: 35~51 Pre β: 7~21 β: 38~51 %	3~6	50 生 I	空腹時に採血し血清分離後上清を冷蔵しご提出下さい。凍結不可。 ※RM値(相対移動度)も報告致します。
2030	リポ蛋白分画 (精密)	血清 0.3	01	冷蔵	ホリアクリルアミドゲルディスク電気泳動法	(M) HDL: 22~50 LDL: 44~69 VLDL: 5~20 (F) HDL: 26~53 LDL: 42~65 VLDL: 4~17 %	3~6	80 生 I	空腹時に採血し血清分離後上清を冷蔵しご提出下さい。凍結不可。 ※RM値(相対移動度)も報告致します。
2080	コレステロール分画	血清 0.3	01	冷蔵	電気泳動法	(M) HDL: 17~43 VLDL: 2~18 LDL: 51~77 (F) HDL: 22~51 VLDL: 1~14 LDL: 45~72	3~6	60 生 I	凍結不可
2100	リポ蛋白(a)	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	40.0以下 mg/dl	3~6	120 生 I	
2120	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	7.5以下 mg/dl	3~5	200 生 I	糖尿病・冠動脈疾患等の動脈硬化高リスク症例においては、空腹時5.2mg/dl以上をハイリスクとする。凍結不可。
2130	アポリポ蛋白A I	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M: 119~155 F: 126~165 mg/dl	3~5	100 生 I ※3項目以上測定の場合のみ	
2140	アポリポ蛋白A II	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M: 25.9~35.7 F: 24.6~33.3 mg/dl	3~5		
2150	アポリポ蛋白B	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M: 73~109 F: 66~101 mg/dl	3~5		
2160	アポリポ蛋白C II	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M: 1.8~4.6 F: 1.5~3.8 mg/dl	3~5		
2170	アポリポ蛋白C III	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M: 5.8~10.0 F: 5.4~9.0 mg/dl	3~5		
2180	アポリポ蛋白E	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M: 2.7~4.3 F: 2.8~4.6 mg/dl	3~5		
3010	総胆汁酸	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	10.0以下 μ mol/l	2~4	48 生 I	

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存方法	検査法	基準値・単位	所要日数	実施料判断料	備考
脂質・胆汁酸・色素 関連									
3020	コプロポルフィリン (定性)	尿 2	30	遮光凍結	HPLC	(-)	4~8	10	
3030	コプロポルフィリン (定量)					170以下 μg/g・CRE		150	
3031	コプロポルフィリン (血中)	ヘパリン加血液 1.5	10	遮光冷蔵	HPLC	1以下 μg/dlRBC	7~12	210	生 I
3040	グリココール酸 (CG)	血清 0.2	01	凍結	RIA PEG法	50以下 μg/dl	3~6	80	生 I
3050	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	尿 2	32	冷蔵	HPLC	mg/l	4~7	115	尿便
3060	ポルフォビリノーゲン	蓄尿 3	30	遮光凍結	比色法 (M・G変法)	2.0以下 mg/day	4~8	200	尿便
3070	ウロポルフィリン	尿 2	30	遮光凍結	HPLC	36以下 μg/g・CRE	4~8	115	尿便
3080	赤血球遊離プロポルフィリン	ヘパリン加血液 1.0	10	遮光冷蔵	蛍光法 (Piomelli法)	μg/dl・RBC	4~8	280	生 I
3112	ICG試験 (インドサイアニン・グリーン)	血清 1.0	01	遮光凍結	比色法	15分値:0~10 %	5~8	100	ジアグノスティック注射前、15分後の血清を2本提出

酵素・アイソザイム

130	ALP (アルカリフォスファターゼ)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応法	119~359 U/l	2	11	生 I	食事による影響がありますので、空腹時採血をお願いします
140	骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)	血清 0.2	01	凍結	EIA	M: 13.0~33.9 F: 9.6~35.4 U/l	4~7	170	生 II	判定基準:P80参照
160	総酸性フォスファターゼ (T-ACP)	血清 0.5	01	凍結	比色法 (DCAP-P Rate法)	5.9~14.0 U/l/37°C	3~5	11	生 I	採血後速やかに血清分離し凍結保存。溶血注意
170	前立腺酸性フォスファターゼ (PAP)	血清 0.5	01	凍結	比色法 (DCAP-P Rate法)	M: 2.9以下 F: 設定なし U/l/37°C	3~5	17	生 I	
190	AST (GOT)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応法	5~40 U/l	2	17	生 I	溶血検体は高値
200	ALT (GPT)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応法	5~40 U/l	2	17	生 I	
210	γ-GT (γ-GTP)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応法	M: 12~64 F: 9~36 IU/l	2	11	生 I	
220	LD(LDH) (乳酸脱水素酵素)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応法	119~229 U/l	2	11	生 I	溶血検体は高値。直ちに血清分離
230	LAP (ロイシン・アミノ・ペプチダーゼ)	血清 1.0	01	冷蔵	L-ロイシン-P-ニトロアニド基質法	30~80 IU/l	2	11	生 I	
250	コリンエステラーゼ (S-CHE)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応法 (P-ヒドロキシベンゾイルコリン基質法)	167~470 U/l	2	11	生 I	
260	CK (CPK) (クレアチンフォスフォキナーゼ)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応法	M: 56~244 F: 43~165 U/l	2	11	生 I	
280	アミラーゼ (AMY)	血清 1.0	01	冷蔵	JSCC標準化対応酵素 (G5-CNP)法	40~126 IU/l	2	11	生 I	γ-GPNA: L-γ-グルタミル-P-ニトロアニド 溶血検体は低値
281		尿 3				32		87~665 IU/l		
290	P型アミラーゼ定量	血清 0.5	01	冷蔵	免疫阻害法	17~50 U/l	3~5	48	生 I	溶血注意

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
酵素・アイソザイム									
300	アルドラーゼ (ALD)	血清 0.5	01	冷蔵	UV法	2.7~7.5 U/l/37°C	2~4	11 生 I	
1140	N-アセチルグルコサミニ ダーゼ(NAG)	尿 0.5	32	凍結	比色法	7.0以下 U/l	3~6	41 尿便	
3210	LD(LDH)アイソザイム	血清 0.3	01	室温	アガロース電気 泳動法	LDH1 21~31 LDH2 28~35 LDH3 21~26 LDH4 7~14 LDH5 5~13 %	3~6	48 生 I	溶血でのご依頼は避けて 下さい。(溶血の場合 LDH1,2,3の上昇が考えら れます。)
3230	ALPアイソザイム	血清 0.3	01	凍結	アガロース電気 泳動法	ALP2 36~74 ALP3 25~59 ALP5 0~16 %	3~6	48 生 I	血液型BまたはO型で Lewis分泌型の人では、 ALP総活性値および ALP5の出現率が高くなる ことがあります。
3250	CK(CPK)アイソザイム	血清 0.3	01	絶対 凍結	アガロース電気 泳動法	MM 93~99 MB 6以下 BB 2以下 %	3~6	55 生 I	採血後速やかに血清分 離して下さい
3260	CK(CPK)-MB	血清 0.5	01	絶対 凍結	免疫阻止- UV法	MB 25以下 U/l	3~6	55 生 I	
3300	AMYアイソザイム	血清 0.3	01	凍結	セルロースアセ テート膜電気 泳動法	Total-S 35~79 Total-P 21~65 %	3~6	48 生 I	
3320		尿 0.5	32			Total-S 12~59 Total-P 41~88 %		48 生 I	
3350	γ-GTPアイソザイム	血清 0.5	01	凍結	セルロースアセテ ート膜電気泳動法	α ₁ 又はα ₁ +α ₂ グロブリン分画	3~8	48 生 I	
3360	ミトコンドリア-GOT	血清 0.8	01	凍結	プロテアーゼ法	7以下 U/l	3~6	50 生 I	
3410	フェリチン	血清 0.4	01	冷蔵	CLIA	M: 12~302 F: 5~178 ng/ml	2	120 生 I	
3420	リパーゼ	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	17~57 U/l/37°C	3~5	24 生 I	
3440	トリプシン	血清 0.4	01	冷蔵	RIA2抗体法	100~550 ng/ml	4~7	200 生 I	
3450	ペプシノゲン I・II	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	PGI:70.1以上又は I/II比:3.1以上 ng/ml	3~5	—	判定基準:P80参照
3480	アンギオテンシン I 転換酵素 (ACE)	血清 0.5	01	冷蔵	比色法	7~25 U/l	3~5	160 生 I	血漿不可
3490	リゾチーム (ムラミダーゼ)	血清 0.5	01	凍結	比濁法	5.0~10.2 μg/ml	3~6	—	
3491		尿 0.5	32			0.0以下 μg/ml		—	
3500	ADA (アデニンデアミナーゼ)	血清 0.5	01	絶対 凍結	酵素法	6.8~18.2 IU/l	4~7	32 生 I	
3510	L-CAT (レシチン・コレステ ロールアシルトランスフェラーゼ)	血清 1.5 血漿 1.5	01 05	凍結	ディハロミトイル レシチン基質 法	M: 67.3~108.2U F: 53.3~95.5U nmol l/ml/hr/37°C	3~6	70 生 I	
3520	グアナナーゼ	血清 0.5	01	凍結	酵素法	1.0以下 U/l	3~6	35 生 I	
3540	1,5-アンヒドロ-D-グルシ トール	血清 0.5	01	凍結	酵素法	M: 14.9~44.7 F: 12.4~28.8 μg/ml	3~6	80 生 I	輸液後、20時間以内の 採血は避けて下さい

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
糖・ヘモグロビン 関連									
3560	ヘモグロビンA _{1c} (HbA _{1c})	EDTA-2K 血液 2.0	02	冷蔵	ラテックス免疫 凝集法	4.3~5.8 %	2	50 血液	凍結検体測定不可
3610	シアル酸	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	40~71 mg/dl	2~4	—	
3620	乳酸	除蛋白液 上清 0.4	12	凍結	乳酸オキシタ ゼによる酵 素法	(全血中) 3.0~17.0 mg/dl	3~6	48 生 I	採血後直ちに正確に血 液1.0mlを専用容器に加 え、十分攪拌し 3000rpm5分間遠心分 離、その上清液を提出し て下さい。
3640	ムコ蛋白 (酸可溶性蛋白)	血清 0.3	01	凍結	色素結合法 (ASPRO法)	60~140 mg/dl	6~10	30 生 I	
3670	ケトン体分画	血清 (静脈血) 0.3	01	絶対 凍結	酵素法	アセト酢酸:55以下 3-ヒドロキシ酪酸:85 以下 総ケトン体:130以下 μmol/l	3~6	60 生 I	早期空腹時採血(静脈) して下さい。採血後は速 やかに冷却遠心して分離 し凍結保存
3680	ピルビン酸	除蛋白液 上清 0.4	12	凍結	ピルビン酸オキ シタゼによる 酵素法	(全血中) 0.30~0.94 mg/dl	3~6	48 生 I	採血後直ちに正確に血 液1.0mlを専用容器に加 え、十分攪拌し 3000rpm5分間遠心分 離、その上清液を提出し て下さい。
3690	グリコアルブミン	NaF血漿 0.8 血清 0.8	04 01	凍結	酵素法	12.4~16.3 %	3~6	55 生 I	
4010	血糖 (グルコース)	NaF血漿 0.5	04	冷蔵	酵素法 (ヘキソナーゼG- 6-PDH)	70~109 mg/dl	2	11 生 I	解糖阻止剤(NaF)の入っ た試験管に血液2ml入れ 血漿分離

ビタミン 関連

4210	ビタミンA	血清 0.4	29	絶対 凍結	HPLC	97~316 IU/dl	4~7	—	遮光して下さい
4220	ビタミンB1	ヘパリンNa 血液 1.0	10	遮光 凍結	HPLC	2.0~7.2 μg/dl	5~8	290 生 I	ガラス管の場合は、プラ スチック容器に移してから 凍結して下さい。
4230	ビタミンB2	ヘパリンNa 血液 1.0	10	遮光 凍結	HPLC	11.9~20.4 μg/dl	4~7	280 生 I	
4240	ビタミンB6	血清 1.0	29	遮光 絶対 凍結	HPLC	(M)PAM:0.6以下 PAL:6.0~40.0 PIN:3.0以下 (F)PAM:0.6以下 PAL:4.0~19.0 PIN:3.0以下 ng/ml	4~7	—	
4250	ビタミンB12	血清 0.4	01	凍結	CLIA	233~914 pg/ml	3~5	160 生 I	
4270	ビタミンC (アスコルビン酸)	(血清中) 除蛋白上清 0.5	20	絶対 凍結	HPLC	(血清中) 5.5~16.8 μg/ml	5~8	330 生 I	正確に血清0.5mlを0.8N 過塩素酸専用容器に加 え、混和後、遠心分離 し、その上清を遮光スピツ ツにてご提出下さい
4280	1,25-(OH) ₂ ビタミンD (1,25-ジヒドロキシV.D)	血清 1.0	01	凍結	RIA2抗体法	20~60 pg/ml	4~8	400 生 I	
4290	ビタミンE	血清 0.5	29	遮光 凍結	蛍光法	0.75~1.41 mg/dl	6~11	—	
4310	葉酸	血清 0.5	01	凍結	CLIA	3.6~12.9 ng/ml	3~5	170 生 I	溶血により高値傾向を示 す
4320	RBP (レチノール結合蛋白)	血清 0.5	01	凍結	ネフロメトリ-	2.4~7.0 mg/dl	3~6	140 免疫	
4330	β-カロチン	血清 0.6	30	遮光 凍結	HPLC	M:6.6~47.6 F:20.4~105.2 μg/dl	6~13	—	

生化学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
その他									
630	結石分析（成分比率）	結石 10mg		室温	赤外線吸収 スペクトロフォ トメー	含有成分と比率 %	5~8	120 生Ⅱ	検体返却不可。液性検 体測定不可 結石は乾燥状態にして送 付。20mgコメ粒大、5mg ゴマ粒大
640	クレアチニンクリアランス	血清 1.0 尿 3	01 32	冷蔵	酵素法	65.0~165.0 ml/min	2	—	血清・尿を同時提出。年 齢・身長・体重・採尿時 間・尿量を必ず明記
650	24時間 クレアチニンクリアランス					93.0~238.0 l/day		—	
660	尿素クリアランス	血清 1.0 尿 3	01 32	冷蔵	ウレアゼ [®] GLPH法	40~86 ml/min	2	—	
3710	シュウ酸	酸性蓄尿 3	32	冷蔵	キャピラリー 電気泳動法	M: 10.3~41.5 F: 9.0~37.7 mg/day	4~11	—	6N塩酸約10mlを入れた 蓄尿ビンへ24時間蓄尿 し、よく混和後必要量をご 提出下さい。 尚、尿量が予め少ないと 予想される場合には、尿 200mlに対して6N塩酸 1mlの割合で添加して下 さい。酸性蓄尿されてい ない場合は、シュウ酸カ ルシウムが析出する可能 性がありますので、必ず酸 性蓄尿(pH1.0~2.0)して 下さい。 凍結は避けて下さい。
3720	クエン酸	血清 1.5	01	凍結	酵素法	1.3~2.6 mg/dl	7~14	—	
3721		部分尿 0.5	32			138~1010 mg/l		—	
3740	ピリジニン	部分尿 3	32	凍結	HPLC	(M)ピリジニン 10~25 デオキシピリジニン 6以下 (F)ピリジニン 13~36 デオキシピリジニン 7以下 μ mol/mol・CRE	8~13	—	早朝の一番尿は避け、二 番尿以降の部分尿をご 提出下さい。 デオキシピリジニンにつ いては、ピリジニンを標 準としたピリジニンを相 当量としてご報告いた します。
20640	I型コラーゲン架橋N- テロペプチド (NTx) (骨粗鬆症)	血清 0.3	01	絶対 凍結	ELISA	P80参照	4~7	160 生Ⅱ	
20650		部分尿 3	32	凍結			4~7	160 生Ⅱ	午前中の第二番尿をご 提出下さい
20660	デオキシピリジニン (DPD)(骨粗鬆症)	部分尿 3	32	凍結	EIA	M: 2.1~5.4 F: 2.8~7.6 nmol/mmol・CRE	4~7	200 生Ⅱ	

免疫学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存方法	検査法	基準値・単位	所要日数	実施料判断料	備考
血漿蛋白									
20	アルブミン (Alb)	血清 1.0	01	冷蔵	BCG法	3.8~5.3 g/dl	2	11 生I	
530	心筋トロポニンT	血清 0.3	01	凍結	ECLIA	0.10以下 ng/ml	3~5	130 生I	
540	ミオグロビン (Mb)	血清 0.2	01	凍結	CLIA	60.0以下 ng/ml	3~5	150 生I	
541		部分尿 8	18	冷蔵	RIA2抗体法	10以下 ng/ml		150 生I	必ず専用容器で提出
550	ミオシンI1 (心室筋ミオシン軽鎖I)	血清 0.2	01	凍結	EIA	2.5以下 ng/ml	4~7	190 生I	
4320	レチノール結合蛋白 (RBP)	血清 0.5	01	凍結	ネフェロメトリ-	2.4~7.0 mg/dl	3~6	140 免疫	
4360	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清)	血清 0.2	01	凍結	免疫電気泳動法		5~8	240 免疫	カラープリントにて報告。 病名、主症状、年齢をご記入下さい。 特異抗血清の検索は、異常蛋白を中心に行いますので、ご了承下さい。
4370	免疫電気泳動 (特異抗血清)	血清 0.2	01	凍結	免疫電気泳動法		5~8		
4380	尿蛋白免疫電気泳動 (尿中ヘンションズ蛋白同定)	部分尿 10	32	凍結	免疫電気泳動法		4~7	220 免疫	
4510	α_1 -マイクログロブリン (α_1 MG)	血清 0.2	01	冷蔵	ラテックス凝集法	M:10.0~21.0 F:8.3~16.4 mg/l	3~5	150 免疫	
4511		尿 0.5	32			M:0.60~16.60 F:0.50~9.75 mg/l		150 免疫	
4520	α_1 -アシドグロブリン (α_1 AG)	血清 0.3	01	凍結	ネフェロメトリ-	M:45~98 F:39~86 mg/dl	3~6	—	
4530	α_1 -アンチトリプシン (α_1 AT)	血清 0.3	01	凍結	ネフェロメトリ-	94~150 mg/dl	3~6	80 血液	
4540	α_2 -マイクログロブリン (α_2 MG)	血清 0.3	01	凍結	ネフェロメトリ-	M:100~200 F:130~250 mg/dl	3~6	140 血液	
4550	β_2 -マイクログロブリン (β_2 MG)	血清 0.6	01	冷蔵	EIA	0.7~2.0 mg/l	2	115 免疫	
4551		尿 3	32			200以下 μ g/l		115 免疫	尿はpH5.5~7.5であることを確認の上提出して下さい
4570	ハプトグロビン	血清 0.5	01	凍結	ネフェロメトリ-	1-1型:130~327 2-1型:103~341 2-2型:41~273 mg/dl	3~6	150 免疫	
4580	セルロプラスミン	血清 0.3	01	冷蔵	ネフェロメトリ-	21.0~37.0 mg/dl	3~5	90 免疫	
4600	トランスフェリン (Tf)	血清 0.3	01	凍結	TIA	M:190~300 F:200~340 mg/dl	3~6	60 免疫	
4610	尿中トランスフェリン	蓄尿 1	32	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	0.80以下 mg/day	3~6	115 尿便	採尿後速やかにご提出下さい
4620	尿中トランスフェリン (クレアチニン換算値)	部分尿 2				1.00以下 mg/g・CRE			
4630	クリオグロブリン定性	血清 1.0	01	凍結	寒冷沈殿法	陰性	5~8	42 免疫	採血後速心まで37℃で行い分離後は凍結保存、必ず血清で依頼
4640	プレアルブミン (PA)	血清 0.5	01	凍結	ネフェロメトリ-	22.0~40.0 mg/dl	3~6	115 免疫	

免疫学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
血漿蛋白									
4660	尿中アルブミン	蓄尿 2	32	冷蔵	免疫比濁法	2~20 mg/day	2	115 尿便	
4650	尿中アルブミン (クレアチニン換算値)	部分尿 2				(ALB濃度)30以下 mg/l (CRE換算)10以下 mg/g・CRE			
11010	CRP (定性)	血清 0.6	01	冷蔵	LAIA	(-)	2	16 免疫	
11020	CRP (定量)					0.30以下 mg/dl			

補体関連

4690	血清補体価 (CH50)	血清 0.5	01	絶対凍結	Mayer法 相対比濁法	25.0~48.0 CH50/ml	3~6	38 免疫	採血後分離した血清を速やかに、-20℃以下で凍結して下さい
4700	C1q	血清 0.3	01	凍結	ネフエロメトリ-	8.8~15.3 mg/dl	3~10	-	
4710	C1インアクチベータ活性 (C1エステラーゼインヒビター活性)	血漿 0.2	16	絶対凍結	発色性合成基質法	70~130 %	3~10	290 免疫	採血後速やかに血漿分離
4720	C3 (β ₁ C/β ₁ Aグロブリン)	血清 0.3	01	凍結	TIA	86~160 mg/dl	2	70 免疫	
4740	C4 (β ₁ Eグロブリン)	血清 0.3	01	凍結	TIA	17~45 mg/dl	2	70 免疫	
4750	C5 (β ₁ Fグロブリン)	血清 0.3	01	凍結	ネフエロメトリ-	8.0~15.0 mg/dl	不定期	-	

自己抗体

11050	リウマチ因子 (RF) 定量	血清 0.5	01	冷蔵	TIA	15以下 U/ml	2	30 免疫	
11070	リウマチ因子 (RAPA)	血清 0.3	01	冷蔵	PA	40未満 倍	3	30 免疫	
11090	IgG型リウマチ因子	血清 0.2	01	冷蔵	EIA	2.0未満(-) Cut Off Index	3~6	210 免疫	
11120	抗ガラクトース欠損IgG抗体 (精密測定)	血清 0.3	01	冷蔵	ECLIA	6.0未満 AU/ml	3~6	120 免疫	
11130	寒冷凝集反応	血清 0.8	01	室温	HA	128以下 倍	3~4	11 免疫	採血後遠心まで37℃で行い、分離後は凍結保存
11210	抗核抗体 (LEテスト)	血清 0.3	01	凍結	ラテックス凝集反応	陰性	3~6	70 免疫	
11225	抗核抗体	血清 0.2	01	冷蔵	ELISA	20未満 Index	3~5	110 免疫	
11230		血清 0.3		凍結	FA	40未満 倍	3~6	120 免疫	判定可能な染色型: Homogeneous, Speckled, Peripheral, Nucleolar, Discrete speckled
11250	抗DNA抗体	血清 0.2	01	凍結	RIA硫酸塩析法	6.0以下 IU/ml	3~6	180 免疫	
11260	抗ds-DNA-IgG抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	12以下 IU/ml	3~6		
11280	抗ss-DNA-IgG抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	25以下 AU/ml	3~6		
11310	抗RNP抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10.0以下 U/ml	3~6	150 免疫	
11330	抗Sm抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10.0以下 U/ml	3~6	170 免疫	

免疫学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
自己抗体									
11350	抗SS-A抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10.0以下 U/ml	3~6	170 免疫	
11370	抗SS-B抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10.0以下 U/ml	3~6	170 免疫	
11390	抗Scl-70抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10.0以下 U/ml	3~6	170 免疫	
11410	抗Jo-1抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10.0以下 U/ml	3~6	150 免疫	
11420	抗セントロメア抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	陽性 16.0以上 判定保留10.0~15.9 陰性 10.0未満 index	3~6	190 免疫	
11430	免疫複合体 (Clq)	血清 0.3	01	絶対 凍結	ELISA	3.0以下 μg/ml	3~6	170 免疫	
11450	免疫複合体 (モノクローナルRF)	血清 0.2	01	絶対 凍結	EIA	4.2未満 μg/ml	3~6	200 免疫	
11460	抗ミトコンドリア抗体	血清 0.3	01	凍結	FA	陰性(20倍未満)	3~6	230 免疫	
11480	抗胃壁細胞抗体	血清 0.3	01	凍結	FA	陰性(10倍未満)	3~6	—	
11490	抗平滑筋抗体	血清 0.3	01	凍結	FA	陰性(40倍未満)	3~6	—	
11500	抗アセチルコリンレセプ ター抗体	血清 0.3	01	凍結	RIA	0.2以下 nmol/l	4~9	900 免疫	
11510	抗カルジオリピン抗体 (IgG)	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10未満 U/ml	3~6	250 免疫	
11530	抗カルジオリピンβ ₂ グリコ ロテイン I 複合抗体	血清 0.3	01	絶対 凍結	ELISA	3.5未満 U/ml	3~6	230 免疫	
11540	ミエリン塩基性蛋白	髄液 0.3	27	絶対 凍結	ELISA	102以下 pg/ml	4~11	—	
11550	オリゴクローナルバンド	髄液 0.5	27	絶対 凍結	アカロスケル 電気泳動法	検出せず	5~10	—	
11610	PR3-ANCA(抗好中 球細胞質抗体)	血清 0.3	01	凍結	ELISA	10未満 EU	3~6	290 免疫	
11620	MPO-ANCA(抗好中 球細胞質抗体)	血清 0.3	01	凍結	ELISA	20未満 EU	3~6	290 免疫	
11640	MMP-3	血清 0.3	01	凍結	LTIA	M: 36.9~121.0 F: 17.3~59.7 ng/ml	2	120 免疫	
11680	抗シトルリン化ペプチド (CCP)抗体	血清 0.3	01	凍結	ELISA	4.5未満 U/ml	3~6	210 免疫	
18160	抗サイログロブリン抗体 (抗Tg抗体)	血清 0.3	01	凍結	RIA	0.3以下 U/ml	3~6	150 免疫	
18170	サイロイドテスト(抗甲状 腺サイログロブリン抗体)	血清 0.3	01	凍結	PA	陰性(100未満) 倍	3~6	37 免疫	
18180	抗甲状腺ペルオキシターゼ 抗体(抗TPO抗体)	血清 0.2	01	凍結	RIA	0.3以下 U/ml	3~6	150 免疫	
18190	マイクロゾームテスト(抗甲状 腺マイクロゾーム抗体)	血清 0.3	01	凍結	PA	陰性(100未満) 倍	3~6	37 免疫	
19410	抗GAD抗体	血清 0.3	01	凍結	RIA	1.5未満 U/ml	3~6	140 生Ⅱ	ヒト由来抗原を使用してい ます
19450	インスリン抗体	血清 0.3	01	凍結	RIA PEG法	結合率: 7.0以下 %	4~9	110 免疫	

免疫学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
免疫血液 関連									
4670	【曜日指定】 PAIgG (血小板関連IgG)	EDTA2Na 血液 7.0	06	冷蔵	ELISA	9.0~25.0 ng/10 ⁷ cells	4~7	210 免疫	受託可能日は月~金曜日です。末梢血の血小板数が3万/mm ³ 以下の場合、専用容器(06)2本を使用し、必ず10ml以上採血して下さい。
5010	ABO式血液型	血液 2.0	01	冷蔵	スライド法 試験管法		2	21 免疫	新生児、乳幼児の場合は抗A、抗B抗体の産生が不十分な為、オモテ試験のみの仮判定とさせていただきます。成長後の再検査をお勧め致します。尚、臍帯血及び1歳未満乳幼児の場合はご記入願います。
5020	Rh(D因子)式血液型	血液 2.0	01	冷蔵			2	21 免疫	
5060	直接クームス試験 (抗グロブリン試験)	EDTA加 血液 2.0	03	室温	試験管法 (クームス法)	(-)	2~3	30 免疫	性別、年齢、輸血歴、妊娠歴、病歴等をご記入下さい。 検体は採血後速やかに提出して下さい。
5070	間接クームス試験 (抗グロブリン試験)	血清 2.0	01	冷蔵		(-)	2~3	34 免疫	
5080	不規則性抗体	血清 5.0 EDTA加 血液 2.0	01 03	冷蔵 室温	試験管法 (クームス法)		3~10	170 免疫	不規則性抗体は血清・血液(EDTA加血)同時にご提出下さい。
5090	抗血小板抗体	血清 0.3	01	冷蔵	MPHA(混合受 身凝集法)	陰性	4~8	270 免疫	

免疫グロブリン・アレルギー 関連

6010	IgG	血清 0.3	01	冷蔵	TIA	870~1,700 mg/dl	2	38 免疫	
6020	IgA	血清 0.3	01	冷蔵	TIA	110~410 mg/dl	2	38 免疫	
6030	IgM	血清 0.3	01	冷蔵	TIA	M:33~190 F:46~260 mg/dl	2	38 免疫	
6040	IgE (非特異的IgE)	血清 0.3	01	冷蔵	EIA	200未満 IU/ml	2	100 免疫	
6050	IgD	血清 0.4	01	凍結	ラテックス凝集 免疫法	9.0以下 mg/dl	3~6	38 免疫	
6100	アトピー鑑別試験	血清 0.2	01	冷蔵	FEIA	陰性	3~5	200 免疫	対象アレルゲンはP20を参照
	特異的IgE (マルチアレルゲン)	血清 0.3	01	冷蔵	EIA・FEIA	クラス0:0.34以下 UA/ml	2~6	各110 免疫	判定基準、アレルゲン一覧はP20を参照
	特異的IgE (シングルアレルゲン)	血清 0.3	01	冷蔵	EIA・FEIA	クラス0:0.34以下 UA/ml	2~6	各110 免疫	判定基準、アレルゲン一覧はP19・20を参照
10010	MAST26アレルゲン	血清 0.5	01	冷蔵	EIA	1.00以下 100LC	4~7	1430 免疫	判定基準、アレルゲン一覧はP20を参照

特異的IgE(シングルアレルゲン一覧表)

実施料：1アレルゲンにつき110点算定できます。ただし1回につき1430点を限度とします。判断料区分：免疫学
判定基準は20ページをご参照下さい

コード	アレルゲン名	コード	アレルゲン名	コード	アレルゲン名	コード	アレルゲン名
イネ科植物花粉		動 物		食 品		室 内 塵	
7710	ハルガヤ	6510	ネコのフケ	8230	牛肉	6310	ハウスダスト1
7720	ギョウギシバ	6530	イヌのフケ	8240	ニンジン	6320	ハウスダスト2
7730	カモガヤ	6540	イヌ上皮	8250	オレンジ	ダ ニ	
7740	ヒロハウシノケガサ	6550	ウマのフケ	8260	ジャガイモ	6410	ヤケヒョウヒダニ
7750	ホソムギ	6560	ウシのフケ	8270	ココナッツ	6420	コナヒョウヒダニ
7760	オオアワガエリ	6570	モルモットの上皮	8280	ムラサキイガイ	6430	アシプトコナダニ
7770	アシ	6580	ハトのフン	8290	マグロ	6440	サヤアシコナダニ
7780	ナガハグサ	6590	ガチョウ羽毛	8300	サケ	6450	ケナガコナダニ
7790	コヌカグサ(属)	6600	セキセイインコのフン	8310	イチゴ	職業性アレルゲン	
7800	セイバンモロコシ	6610	セキセイインコ羽毛	8320	ビール酵母	7110	オオバコ種子
7810	小麦(属)	6620	セキセイインコ血清蛋白	8330	ニンニク	7120	綿
7820	オオズメノテッポウ	6630	ヤギ上皮	8340	タマネギ	7130	イソシアネート TDI
7830	ズズメノヒエ(属)	6640	羊上皮	8350	リンゴ	7140	イソシアネート MDI
雑 草 花 粉		6650	家兎上皮	8360	サバ	7150	イソシアネート HDI
7510	ブタクサ	6660	豚上皮	8370	タケノコ	7160	エチレンオキサイド
7520	ブタクサモドキ	6670	ハムスター上皮	8380	サツマイモ	7170	無水フタル酸
7530	オオブタクサ	6680	ニワトリ羽毛	8390	キビ	7180	ホルマリン
7540	ニガヨモギ	6690	アヒル羽毛	8400	アワ	7190	ラテックス
7550	ヨモギ	6700	ラット	8410	ヒエ	7210	綿
7560	フランスギク	6710	マウス	8420	イカ	薬 物	
7570	タンポポ(属)	寄 生 虫		8430	タコ	7220	ヒトインスリン
7580	ヘラオオバコ	7010	回虫	8440	アジ	7230	ゼラチン
7590	シロザ	7020	包虫	8450	イワシ		
7600	アキノキリンソウ	7030	アニサキス	8460	卵黄		
7610	ヒメスイバ	昆 虫		8470	α-ラクトアルブミン		
7620	イラクサ(属)	6810	ミツバチ	8480	β-ラクトグロブリン		
7640	カナムグラ	6820	ズズメバチ	8490	カゼイン		
樹 木 花 粉		6830	アシナガバチ	8500	グルテン		
7310	カエデ(属)	6840	ゴキブリ	8510	ロブスター		
7320	ハンノキ(属)	6850	ユスリカ(成虫)	8520	チーズ		
7330	シラカンバ(属)	6860	ガ	8530	モールドチーズ		
7340	ブナ(属)	6870	ヤブカ(属)	8540	鶏肉		
7350	ビャクシン(属)	食 品		8550	キウイ		
7360	コナラ(属)	8010	卵白	8560	セロリ		
7370	ニレ(属)	8020	牛乳	8570	パセリ		
7380	オリーブ	8030	タラ	8580	メロン		
7390	クルマミ(属)	8040	小麦	8590	羊肉		
7400	ヤナギ(属)	8050	ライ麦	8600	マスタード		
7410	マツ(属)	8060	大麦	8610	麦芽		
7420	スギ	8070	オート麦	8620	マンゴ		
7430	アカシア(属)	8080	トウモロコシ	8630	バナナ		
7440	クワ(属)	8090	米	8640	カカオ		
7450	ヒノキ	8100	ゴマ	8650	洋ナシ		
真菌/細菌		8110	ソバ	8660	モモ		
6910	ベニシリウム	8120	エンドウ	8670	アボガド		
6920	クラドスポリウム	8130	ピーナッツ	8680	グレープフルーツ		
6930	アスペルギルス	8140	大豆	8690	ホウレンソウ		
6940	ムコール	8150	インゲン	8700	カボチャ		
6950	カンジダ	8160	ハンパミ	8710	カレイ		
6960	アルテルナリア	8170	ブラジルナッツ	8720	オボムコイド		
6970	ヘルミントスポリウム	8180	アーモンド	8730	イクラ		
6980	トリコフィトン	8190	カニ	8740	タラコ		
6990	ピテリオスポリウム	8200	エビ	8750	ホタテ		
7240	黄色ブドウ球菌エンタキシンA	8210	トマト	8760	アサリ		
7250	黄色ブドウ球菌エンタキシンB	8220	豚肉	8770	カキ(貝)		
				8780	ヤマイモ		
				8790	クルマミ		
				8800	スイカ		

特異的IgE(アレルゲン一覧・判定基準)

アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン)

実施料:200点 判断料区分:免疫学

コード	含まれるアレルゲン
6100	ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコのフケ、イヌのフケ、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ、スギ、カンジダ、アルテルナリア

特異的IgE(MAST26アレルゲン)

(含まれるアレルゲン)

(判定基準)

コナヒョウヒダニ、ハウスダスト2、ネコ上皮、イヌ上皮、オオアワガエリ、ハルガヤ、ヨモギ、ブタクサ混合物1、スギ、ペニシリウム、カンジダ、クラドスポリウム、アルテルナリア、アスペルギルス、小麦、大豆、米、マグロ、サケ、エビ、カニ、CHEDDARチーズ、ミルク、牛肉、鶏肉、卵白	クラス	ルミカウント(100LC)	判定
	3	20.1以上	陽性(+)
	2	11.3~20.0	
	1	4.41~11.2	
	1/0	1.01~4.40	疑陽性(±)
	0	1.00以下	陰性(-)

特異的IgE(マルチアレルゲン)

実施料:分野毎に110点算定できます。 判断料区分:免疫学

コード	分野	含まれるアレルゲン
6210	イネ科	ハルガヤ、ギョウギシバ、カモガヤ、オオアワガエリ、アシ
6220	雑草	ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、タンポポ(属)、アキノキリンソウ
6230	食物	卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆
6240	穀物	小麦、トウモロコシ、米、ゴマ、ソバ
6250	動物上皮	ネコのフケ、イヌのフケ、モルモット上皮、ラット、マウス
6260	カビ	ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム

※「マルチアレルゲン」検査は、複数アレルゲンの混合物を用いて、おおまかなカテゴリー(イネ科植物花粉、動物上皮、等)としての原因アレルゲン検索を行うものであり、個々のアレルゲンにおける陰性/陽性の別を判断することはできません。

特異的IgE(マルチアレルゲン・シングルアレルゲン)

(判定基準)

クラス	特異的IgE抗体価(UA/ml)	判定
6	100以上	陽性(+)
5	50.00~99.99	
4	17.50~49.99	
3	3.50~17.49	
2	0.70~3.49	
1	0.35~0.69	疑陽性(±)
0	0.34以下	陰性(-)

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
感染症									
11060	ASLO	血清 0.3	01	冷蔵	LAIA	160以下 IU/ml	2	15 免疫	
11080	ASK	血清 0.3	01	凍結	PA	成人:2560未満 小児:5120未満 倍	3~6	29 免疫	
11130	寒冷凝集反応	血清 0.8	01	凍結	HA	128以下 倍	3~4	11 免疫	採血後遠心まで37℃で 行い分離後は凍結
12010	トキソプラズマ抗体	血清 0.2	01	冷蔵	PHA	160未満 倍	3~5	27 免疫	
12040	マイコプラズマ抗体	血清 0.3	01	冷蔵	HDP	40未満 倍	3	32 免疫	
12090	D-アラビニール	血清 1.8	01	凍結	酵素法	P84参照	3~7	160 免疫	
12100	ポールバネル反応	血清 0.2	01	冷蔵	HA	112以下 倍	3~7	—	1~2週間の間隔で2回 以上検査を行い、4倍以 上の凝集素価の上昇が 認められる場合は血清学 的に有意とみなします。 ペア血清は凍結で提出し て下さい。
12130	百日咳抗体	血清 0.3	01	冷蔵	細菌凝集 反応	東浜株 10未満 山口株 10未満 倍	4~9	80 免疫	10倍希釈より実施。ペア 血清で4倍以上の抗体価 上昇の場合診断的意義 あり。但し、抗体上昇なく ても百日咳を否定できな い。ペア血清は凍結で提 出して下さい。
12160	エンドキシン定量	ヘパリン加 血液 2.0	21	冷蔵	比濁時間 分析法	1.0以下 pg/ml	3~6	270 免疫	検体は無菌的に採取して 下さい
12180	(1→3)β-D-グルカン	ヘパリン加 血液 2.0	21	冷蔵	発色合成 基質法	20.0以下 pg/ml	3~6	220 免疫	エンドキシン定量以外の重 複依頼は避けて下さい。 検体は無菌的に採取して 下さい。
12260	抗ヘリコバクター・ピロリ IgG抗体	血清 0.3	01	冷蔵	EIA	10.0未満 U/ml	3~6	80 免疫	

クラミジア 関連

13460	クラミジアトラコマチス抗原	男子初尿 10 尿道・子宮 頸部分泌物	32 43	冷蔵	EIA	陰性	3~6	170 免疫	
13470	クラミジアトラコマチス抗体 IgG	血清 0.2	01	冷蔵	EIA	cut off index 0.9未満(-)	3~5		
13480	クラミジアトラコマチス抗体 IgA	血清 0.2	01	冷蔵	EIA	cut off index 0.9未満(-)	3~5	220 免疫	
13490	クラミジアトラコマチス抗体 IgM	血清 0.2	01	冷蔵	EIA	cut off index 0.9未満(-)	3~5		
13540 13560	クラミジアトラコマチス DNA	男子初尿 5 子宮頸管・ 咽頭分泌物	32 37	冷蔵	PCR	陰性	4~7	210 微生物	
13500	クラミジアニューモニエIgG	血清 0.3	01	冷蔵	EIA	cut off index 1.0未満(-)	4~8	70 免疫	
13510	クラミジアニューモニエIgA	血清 0.3	01	冷蔵	EIA	cut off index 1.0未満(-)	4~8	75 免疫	
13520	クラミジアニューモニエIgM	血清 0.3	01	凍結	EIA	cut off index 0.90未満(-)	6~10	160 免疫	
13570	オウム病クラミジア (クラミジアシッタシ)	血清 0.2 髄液 0.4	01 32	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫	出発希釈 血清4倍・髄 液1倍

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存方法	検査法	基準値・単位	所要日数	実施料判断料	備考
梅毒									
13230	RPR (定性)	血清 0.4	01	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(-)	2~3	15 免疫	判定基準 (-):1.0 R.U.未満 (+):1.0 R.U.以上
13240	RPR (定量)	血清 0.4	01	冷蔵	ラテックス凝集比濁法及び凝集法	1未満 倍	3	34 免疫	ラテックス凝集比濁法の1RPR Unitは凝集法の1倍に相当します
13270	TP抗体 (定性)	血清 0.3	01	凍結	ラテックス凝集比濁法	(-)	2~3	32 免疫	判定基準 (-):10.0 T.U.未満 (+):10.0~19.9 T.U. (+):20.0 T.U.以上
13280	TP抗体 (定量)	血清 0.3	01	凍結	ラテックス凝集比濁法	10.0未満 T.U.	3	55 免疫	
13300	FTA-ABS (定性)	血清 0.2	01	冷蔵	FA	(-)	4~9	150 免疫	
13310	FTA-ABS (定量)	血清 0.2	01	冷蔵	FA	20未満 倍	4~7		
13320	IgM-FTA-ABS	血清 0.3	01	冷蔵	FA	(-)	4~9		

レトロウイルス

13010	HIV抗原抗体	血清 0.6	01	冷蔵	EIA	陰性	2	130 免疫	
13030	HIV-1定量 (リアルタイムPCR)	専用血清 3.5	47	凍結	RT-PCR	検出せず COPY/ml	4~7	520 微生物	
13040	HIV-1抗体	専用血清 0.3	15	冷蔵	ウエスタンブロット	陰性	4~8	280 免疫	必ずHIV専用容器にて採取後、遠心分離しそのまま冷蔵保存にてご提出下さい。又、単独検体でご提出下さい。
13060	HIV-2抗体	専用血清 0.3	15	冷蔵	ウエスタンブロット	陰性	4~8	380 免疫	
13080	HTLV-I抗体 (ATLA抗体)	血清 0.3	01	冷蔵	PA	陰性	3	85 免疫	出発希釈16倍
13090		血清 0.3			CLEIA	陰性	3~6	190 免疫	
13110		血清 0.2			ウエスタンブロット	陰性	4~11	450 免疫	

抗原

13630	カンジダ抗原 (定性)	血清 0.2	01	冷蔵	LA	(-)	3~5	150 免疫	
13640	カンジダ抗原 (定量)	血清 0.2	01	冷蔵	LA	2未満 倍	3~5	150 免疫	
13780 13800	淋菌DNA	男子尿 5 分泌物	32 37	冷蔵	PCR	陰性	4~7	210 微生物	重複依頼不可。但し、クラミジアトラコマチスDNAとは可能
13810 13820	淋菌・クラミジアトラコマチス rRNA同時同定	尿 2 分泌物	55 56	冷蔵	TMA-HPA	陰性	3~5	300 微生物	重複依頼不可
15020	アデノウイルス抗原	角結膜・咽頭ぬぐい液 1.0	36	凍結	ELISA	陰性	5~12	210 免疫	
15030	アデノウイルスDNA	尿 2 角結膜ぬぐい液	27 37	凍結 冷蔵	PCR	陰性	5~13	—	測定対象は1,2,3,4,5,6,7,8,11,19,37型です。但し、型判定は実施できません。重複依頼不可。

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考						
ウイルス検査															
15040	アデノウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫							
15050	1型	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	NT	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	9~16								
15060	2型														
15070	3型														
15080	4型														
15090	5型														
15100	6型														
15110	7型														
15140	11型														
15150	19型														
15160	21型														
15170	37型								血清 0.3 髄液 0.4		凍結		10~17		
15220	インフルエンザウイルス A型								血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫
15240								HI				血清:10未満 倍 髄液:1未満 倍			
15230	インフルエンザウイルス B型	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍												
15250		HI	血清:10未満 倍 髄液:1未満 倍												
15270	パラインフルエンザ 1型	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	HI	血清:10未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫							
15280	パラインフルエンザ 2型							80 免疫							
15290	パラインフルエンザ 3型							80 免疫							
15310	RSウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫							
15320					NT				8~15						
16100	ポリオウイルス	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫							
16110					1型				NT	9~16					
16120					2型				CF	4~7					
16130									NT	9~16					
16140					3型				CF	4~7					
16150									NT	9~16					

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
ウイルス検査									
15410	エコーウイルス	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	NT	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	9~16	80 免疫	
15420					HI	血清:8未満 倍 髄液:1未満 倍	6~9		
15430					3型	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	9~16		
15440									4型
15460					6型	血清:8未満 倍 髄液:1未満 倍	6~9		
15470					7型				
15480					9型	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	9~16		
15490									11型
15510					12型	血清:8未満 倍 髄液:1未満 倍	6~9		
15520									13型
15530					16型	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	9~16		
15550									17型
15570									25型
15580					30型				
15640									
15650									
16210	日本脳炎ウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫	
16220					HI	血清:10未満 倍 髄液:1未満 倍	5~11		JAGAR株 中山株使用
16310	ムンプスウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫	
16320					HI				
16330					NT		8~15		
16340	ムンプスウイルス IgG	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	EIA	血清:2.0未満(-) 髄液:0.20未満(-)	3~5	230 免疫	判定基準:P86参照
16350	ムンプスウイルス IgM				血清・髄液 0.8未満(-)				

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
ウイルス検査									
15760	A群7型	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	NT	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	9~16	80 免疫	
15770	A群9型				CF		4~7		
15780					NT		9~16		
15800	A群16型				NT		9~16		
15850	B群1型				CF		4~7		
15860					NT		9~16		
15870	B群2型				CF		4~7		
15880					NT		9~16		
15890	B群3型				CF		4~7		
15900					NT		9~16		
15910	B群4型				CF		4~7		
15920					NT		9~16		
15930	B群5型				CF		4~7		
15940					NT		9~16		
15950	B群6型				CF		4~7		
15960					NT		9~16		
16410	麻疹ウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫	
16420					HI				血清:8未満 倍 髄液:1未満 倍
16430					NT		血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍		8~15
16440	麻疹ウイルス IgG	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	EIA	血清:2.0未満(-) 髄液:0.20未満(-) 血清・髄液 0.8未満(-)	3~5	230 免疫	判定基準:P86参照
16450	麻疹ウイルス IgM								
16500	風疹ウイルス	血清 0.2	01	冷蔵	HI	10未満 IU/ml	3	80 免疫	判定基準 (-):6未満 (±):6~9 (+):10以上
16510	風疹ウイルス IgG	血清 0.2 髄液 0.4	01	凍結	FA	血清:10未満 倍 髄液:1未満 倍	6~9	230 免疫	
16530				冷蔵	EIA	血清:2.0未満(-) 髄液:0.20未満(-)	3~5		判定基準:P86参照
16520	風疹ウイルス IgM	血清 0.2 髄液 0.4	01	凍結	FA	血清:10未満 倍 髄液:1未満 倍	6~9		
16540				冷蔵	EIA	血清・髄液 0.8未満(-)	3~5		判定基準:P86参照

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
ウイルス検査									
16600	ヒトパルボウイルスB19 IgG	血清 各0.2	01	冷蔵	EIA	0.80未満(-)	3~6	-	判定基準 (-):0.80未満 (±):0.80~0.99 (+):1.00以上
16610	ヒトパルボウイルスB19 IgM							230 免疫	
16700	水痘・帯状ヘルペス抗原	塗抹標本	42	凍結	FA	陰性	3~5	240 免疫	
16720	水痘帯状ヘルペスウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	4~7	80 免疫	水痘ワクチン接種後の効果判定に有用です。効果判定に用いる場合は接種前および接種後4~6週間のペア血清でご提出下さい。
16730		血清 0.5			凍結	IAHA	4未満 倍		
16750	水痘帯状ヘルペスウイルス IgG	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	FA	血清:10未満倍 髄液:1未満 倍	4~8	230 免疫	判定基準:P86参照
16770					EIA	血清:2.0未満(-) 髄液:0.20未満(-)	3~5		
16760	水痘帯状ヘルペスウイルス IgM				FA	血清:10未満倍 髄液:1未満 倍	4~8		
16780					EIA	血清・髄液 0.8未満(-)	3~5		
16800	単純ヘルペス特異抗原	塗抹標本	42	凍結	FA	1型:陰性 2型:陰性	3~5	180 免疫	
16830	単純ヘルペスウイルス	血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	CF		4~7	80 免疫	
16840	単純ヘルペスウイルス 1型				NT	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍	8~12		
16850	単純ヘルペスウイルス 2型				NT		8~12		
16860	単純ヘルペスウイルス IgG				FA	血清:10未満倍 髄液:1未満 倍	4~8	230 免疫	判定基準:P86参照
16880					EIA	血清:2.0未満(-) 髄液:0.20未満(-)	3~5		
16870	単純ヘルペスウイルス IgM				FA	血清:10未満倍 髄液:1未満 倍	4~8		
16890					EIA	血清・髄液 0.8未満(-)	3~5		
17050	サイトメガロウイルス				血清 各0.2 髄液 各0.4	01	冷蔵	CF	血清:4未満 倍 髄液:1未満 倍
17060	サイトメガロウイルス IgG	FA	血清:10未満倍 髄液:1未満 倍	4~8				230 免疫	判定基準:P86参照
17080		EIA	血清:2.0未満(-) 髄液:0.20未満(-)	3~5					
17070	サイトメガロウイルス IgM	FA	血清:10未満倍 髄液:1未満 倍	4~8					
17090		EIA	血清・髄液 0.8未満(-)	3~5				判定基準:P86参照	

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考	
ウイルス検査										
17200	ヒトパピローマウイルス DNA (型判定)	子宮頸部 擦過細胞	31	冷蔵	PCR-RFLP	陰性	10~ 17	—	他項目との重複依頼は 避けて下さい。 子宮頸部擦過細胞材料 以外は受託できません。 専用容器とサイトブラシは 当社営業員にお垂お付け 下さい。	
17210	ヒトパピローマウイルス DNA (ハイリスクグループ)	組織250mg 患部ぬぐい 液	53 54	絶対 凍結	液相(核酸) ハイブリダイ ゼーション	陰性	4~8	—	測定対象は 16,18,31,33,35,39,45,5 1,52,56,58,59,68型で す。但し型別の判定では ありません。	
17220	ヒトパピローマウイルス DNA (ロ-リスクグループ)							—	測定対象は 6,11,42,43,44型です。但 し型別の判定ではありま せん。	
17310	EB ウ イ ル ス	血清 各0.2	01	冷蔵	FA	10未満 倍	3~6	230 免疫	判定基準:P86参照	
17320								80 免疫		
17340								—		
17350								230 免疫		
17360								80 免疫		
17370								230 免疫		
17380								80 免疫		
17390					EIA	0.5未満(-)	4~8	230 免疫		1.0未満(-)
17400										
17410										
17420										
17430										
17440										
17440										

感染症・ウイルス検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
肝炎ウイルス 関連									
14030	HBs抗原（精密測定）	血清 0.7	01	凍結	CLIA	0.04未満 陰性 IU/ml	2	95 免疫	
14060	HBs抗体（精密測定）	血清 0.7	01	凍結	CLIA	7.50未満 陰性 mIU/ml	2	95 免疫	
14080	HBe抗原	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	1.0未満 陰性 S/CO	3～5	110 免疫	
14090	HBe抗体	血清 0.2	01	冷蔵	CLIA	50.0未満 陰性 %	3～5	110 免疫	
14110	HBc抗体	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	1.00未満 陰性 S/CO	3～5	150 免疫	S/CO値10.00以上の時は高力価
14120	IgM－HBc抗体	血清 0.2	01	冷蔵	CLIA	1.0未満 陰性 S/CO	3～5	150 免疫	
14140	HA抗体	血清 0.5	01	冷蔵	EIA	50.0未満 陰性 %	3～5	150 免疫	
14150	IgM－HA抗体	血清 0.5	01	冷蔵	EIA	0.8未満 陰性	3～5	150 免疫	
14170	HCV抗体Ⅱ	血清 0.3	01	冷蔵	EIA	1.00未満 陰性 S/CO	2	120 免疫	
14180	HCV抗体Ⅲ	血清 0.2	01	冷蔵	CLIA	0.80未満 陰性	2	120 免疫	
14210	HCVコア抗原	血清 0.5	01	冷蔵	RIA固相法	20.0未満 fmol/l	4～7	120 免疫	
14220	HCVコア抗体定量	血清 0.2	01	冷蔵	RIA固相法	1.0未満 陰性 Unit	3～5	150 免疫	
14240	HCV群別判定 (グルーピング)	血清 0.5	01	冷蔵	EIA		3～7	240 免疫	結果報告:グループ1・2、判定保留、判定不能
14280	HCV－RNA コアジェノタイプ	単独 専用血清 0.5	22	絶対 凍結	リアルタイム PCR		4～11	—	重複依頼不可。 本検査は過去にHCV- RNA定性検査で(+)とされ たものに限る。結果報告: Type 1a,1b,2a,2b,3a又 は(-)
14310	HCV－RNA定量	単独 専用血清 3.5	47	凍結	リアルタイム PCR	検出せず LogIU/ml	4～6	450 微生物	重複依頼不可
14400	2－5A合成酵素活性	単独 血清 0.2	01	絶対 凍結	RIA2抗体法	130以下 pmol/dl	3～6	250 生I	重複依頼不可。 血清は2～6時間以内に 低温(4℃)で血清分離、 凍結保存。溶血検体測 定不可
14410	HBV－DNAポリメラーゼ	血清 2.0	01	冷蔵	RA	30未満 cpm	4～7	310 微生物	
14430	HBV－DNA定量	単独 専用血清 0.3	22	絶対 凍結	PCR	2.6未満 LC/ml	3～5	290 微生物	重複依頼不可
14440		単独 専用血漿 3.5	48	凍結	リアルタイム PCR	検出せず LC/ml	4～7		

内分泌学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
甲状腺 関連									
18070	T ₃ (トリヨードサイロニン)	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	0.76~1.77 ng/ml	2	115 生Ⅱ	
18080	FT ₃ (遊離トリヨードサイロニン)	血清 0.4	01	冷蔵	CLIA	2.13~4.07 pg/ml	2	140 生Ⅱ	
18090	T ₃ -UPTAKE (T3摂取率)	血清 0.5	01	凍結	CLIA	24.4~34.5 %	3~6	—	
18110	T ₄ (サイロキシン)	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	4.83~11.21 μg/dl	2	120 生Ⅱ	
18120	FT ₄ (遊離サイロキシン)	血清 0.4	01	冷蔵	CLIA	0.95~1.74 ng/dl	2	140 生Ⅱ	
18130	サイロキシン結合グロブリン (TBG)	血清 0.2	01	凍結	RIA2抗体法	12~30 μg/ml	3~6	140 生Ⅱ	
18150	サイログロブリン (Tg)	血清 0.3	01	凍結	RIA固相法	30以下 ng/ml	4~7	140 生Ⅱ	
18160	抗サイログロブリン抗体 (抗Tg抗体)	血清 0.3	01	凍結	RIA	0.3以下 U/ml	3~6	150 免疫	
18170	サイロイドテスト (抗甲状腺 サイログロブリン抗体)	血清 0.3	01	凍結	PA	陰性(100未満) 倍	3~6	37 免疫	
18180	抗甲状腺ペルオキシターゼ 抗体 (抗TPO抗体)	血清 0.2	01	凍結	RIA	0.3以下 U/ml	3~6	150 免疫	
18190	マイクロソームテスト (抗甲状腺 マイクロソーム抗体)	血清 0.3	01	凍結	PA	陰性(100未満) 倍	3~6	37 免疫	
18230	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	血清 0.8	01	凍結	CLIA	0.38~3.64 μIU/ml	2	115 生Ⅱ	
18240	TSHレセプター抗体 (TRAb)	血清 0.2	01	凍結	RRA	15以下 %	3~6	250 免疫	
18250	TSHレセプター抗体定量 (TRAb定量)	血清 0.3	01	凍結	RRA	1.0未満 IU/l	4~7	250 免疫	
18260	TSH刺激性レセプター 抗体 (TSAb)	血清 0.8	01	凍結	Bioassay RIA法	180以下 %	5~8	350 免疫	

下垂体 関連

18310	プロラクチン (PRL)	血清 0.2	01	冷蔵	CLIA	M:3.6~12.8 F:6.1~30.5 ng/ml	3~5	100 生Ⅱ	性別(性周期)を明記。 負荷試験の場合は負荷 時間を明記。
18320	GH (成長ホルモン)	血清 0.3	01	冷蔵	CLEIA	P82参照 ng/ml	3~6	125 生Ⅱ	負荷試験の場合は負荷 時間を明記
18340		尿 5	45	凍結		P82参照 ng/g Cr	4~8	125 生Ⅱ	早朝一番尿を専用容器 で提出して下さい
18350	LH (黄体形成ホルモン)	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	P82参照 mIU/ml	3~5	125 生Ⅱ	性別(性周期)を明記。 負荷試験の場合は負荷 時間を明記。
18360	FSH (卵胞刺激ホルモン)	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	P82参照 mIU/ml	3~5	125 生Ⅱ	
18370	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	血漿 0.5	07	絶対 凍結	ECLIA	7.2~63.3 pg/ml	3~6	220 生Ⅱ	採血後、速やかに血漿分 離し凍結保存。負荷試験 の場合は負荷時間を明 記。
18390	IGF-I /ソマトメジンC	血清 0.3	01	絶対 凍結	RIA固相法 (IRMA)	P81参照 ng/ml	4~7	240 生Ⅱ	
18010	アルギニンバソプレッシ ン(抗利尿ホルモン・ADH)	血漿 2.5	05	絶対 凍結	RIA2抗体法	0.3~3.5 pg/ml	6~9	240 生Ⅱ	

内分泌学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
副甲状腺ホルモン									
140	骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)	血清 0.2	01	凍結	EIA	M: 13.0~33.9 F: 9.6~35.4 U/l	4~7	170 生 II	判定基準:P80参照
18220	カルシトニン	血清 0.5	01	絶対凍結	RIA2抗体法	P83参照 pg/ml	5~9	150 生 II	
18400	副甲状腺ホルモン (PTH-C末端)	血清 0.2	01	凍結	RIA2抗体法	0.5以下 ng/ml	4~7		
18410	副甲状腺ホルモン (PTH) (高感度)	血清 0.5	01	絶対凍結	RIA2抗体法	160~520 pg/ml	4~7	190 生 II	EDTA 血漿測定可
18420	副甲状腺ホルモン (PTH) (高濃度測定)	血清 0.3	01	絶対凍結	RIA2抗体法	0.8以下 ng/ml	4~7		EDTA 血漿測定可
18430	副甲状腺ホルモン (PTH)-インタクト	血清 0.5	01	絶対凍結	ECLIA	10~65 pg/ml	3~6		EDTA 血漿測定可 採血後分離した血清は速やかに凍結保存。
18440	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)	血漿 0.5	08	絶対凍結	RIA固相法 (IRMA)	1.1以下 pmol/l	5~12	200 生 II	専用容器で提出
18510	オステオカルシン (BGP)	血清 0.2	01	絶対凍結	RIA固相法 (IRMA)	2.5~13 ng/ml	4~7	170 生 II	
20630	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)	早期二番尿 3	32	凍結	ELISA	P83参照 nMBCe/mMcr	4~7	160 生 II	基準値(参考値) 男性:13.0~66.2 閉経前女性:9.3~54.3 閉経後女性:14.3~89.0 BCE:コラーゲン相当量 (Bone Collagen Equivalents) 骨吸収亢進の指標:55以上 悪性腫瘍の骨転移の指標:100以上 副甲状腺摘出術の適応:200以上

副腎髄質・交感神経 関連

18530	尿中カテコールアミン総	酸性蓄尿 3	32	凍結	HPLC	52.0~195.3 μg/day	4~7	220 生 II	酸性蓄尿。予め6N塩酸約20mlを入れた蓄尿瓶の中へ尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量を提出して下さい。尚、尿量が予め少ないと予想される場合は尿100mlに対し6N塩酸1mlの割合で入れて下さい。
18540	カテコールアミン3分画	酸性蓄尿 3	32	凍結	HPLC	A: 3.4~26.9 NA: 48.6~168.4 DA: 365.0~961.5 μg/day	4~7	190 生 II	酸性蓄尿されていないものはデータ低下が見られますので必ず酸性蓄尿(pH1.0~3.0)して下さい。
18550		血漿 1.5	05	絶対凍結	HPLC	A: 100以下 NA: 100~450 DA: 20以下 pg/ml	4~7		髄液(1.5ml)測定可。 A: アドレナリン NA: ノルアドレナリン DA: ドーパミン
18560	L-ドーパ	血漿 1.5	05	絶対凍結	HPLC	1.2~2.2 ng/ml	6~9	—	
18660	セロトニン (5-HT)	血漿 1.5	05	絶対凍結	HPLC	P: 0.04~0.35 PRP: 0.17~0.62 μg/ml	4~8	—	低温(4℃)で冷却遠心P:1,500r.p.m、10分間血漿分離。 PRP:900r.p.m、20分間血漿分離。

内分泌学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
-----	-----	-------------	----	----------	-----	--------	----------	------------	----

副腎髄質・交感神経 関連

18600	VMA定性 (バニリルマンデル酸)	部分尿 10	32	冷蔵	試験管法(佐藤らの方法)	(-)	2	9 尿便	尿一般同時依頼時は10ml、単独依頼時は3ml
18610	VMA定量 (バニリルマンデル酸)	酸性蓄尿 1.5	32	凍結	HPLC	1.5~4.3 mg/day	4~7	90 生II	酸性蓄尿。6N塩酸約20mlを入れた蓄尿瓶の中へ尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量を提出して下さい。尚、尿量が少なからず想定される場合は尿100mlに対し6N塩酸1mlの割合で入れて下さい。 酸性蓄尿されていないものはデータ低下が見られますので必ず酸性蓄尿(pH1.0~3.0)して下さい。 MN:メタネフリン NMN:ノルメタネフリン
18620	5-HIAA (5-ヒドロキシインドール酢酸)	酸性蓄尿 1	32	凍結	HPLC	1.0~6.0 mg/day	4~7	95 生II	
18630	HVA (ホモバニール酸)	酸性蓄尿 1.5	32	凍結	HPLC	2.1~6.3 mg/day	4~7	70 生II	
18570	メタネフリン総	酸性蓄尿 5	32	凍結	HPLC	0.13~0.52 mg/day	4~7	240 生II	
18580	メタネフリン2分画	酸性蓄尿 5	32	凍結	HPLC	MN:0.04~0.19 NMN:0.09~0.33 mg/day	4~7	240 生II	

腎・副腎皮質 関連

610	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	血清 0.5	01	凍結	ELISA	6.2未満 ng/ml	5~8	150 生I	
3480	ACE (アンジオテンシンI 転換酵素)	血清 0.5	01	冷蔵	比色法	7~25 u/l	3~5	160 生I	血漿不可
18670	コルチゾール	血清 0.2	01	凍結	RIA固相法	4.0~18.3 μg/dl	3~6	140 生II	
18710	11-デオキシコルチゾール(11-DOF)	血清 0.5	01	凍結	RIA 硫酸塩析法	M:0.04~1.16 F:0.11~0.60 ng/ml	11~18	-	
18730	コルチゾン	血清 0.5	01	絶対凍結	RIA 硫酸塩析法	(健康成人午前9時~12時) M: 14.3~35.1 F: 10.4~35.0 ng/ml	9~23	-	
18740	コルチコステロン	血清 0.5	01	絶対凍結	RIA 硫酸塩析法	M:0.38~8.42 F:0.21~8.48 ng/ml	10~16	-	
18750	レニン活性 (PRA)	EDTA2Na 血液 0.3	07	絶対凍結	RIA2抗体法	臥位:0.3~2.9 立位:0.3~5.4 ng/ml/hr	4~7	115 生II	
18760	レニン定量 (活性型)	EDTA2Na 血液 0.5	07	絶対凍結	RIA固相法	随時:3.2~36 臥位:2.5~21 立位:3.6~64 pg/ml	3~7	115 生II	
18770 18771	アルドステロン	血清 0.5 EDTA2Na 血液 0.5	01 07	凍結	RIA固相法	随時:35.7~240 臥位:29.9~159 立位:38.9~307 pg/ml	4~7	140 生II	
18772		蓄尿 1.5	32			10以下 μg/day	4~9	140 生II	
18780	アンドロステロン	血清 1.0	01	絶対凍結	RIA 硫酸塩析法	M:0.18~0.91 F:0.14~1.03 ng/ml	9~16	-	
18790	アンドロステンジオン	血清 0.4	01	凍結	RIA固相法	P84参照 ng/ml	3~10	-	性別、年齢を明記して下さい
18830	17-OHCS	蓄尿 8	32	冷蔵	比色法(酵素水解法)	M:3.4~12.0 F:2.2~7.3 mg/day	4~7	60 生II	

内分泌学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存方法	検査法	基準値・単位	所要日数	実施料判断料	備考
腎・副腎皮質 関連									
18840	17-KS (総)	蓄尿 8	32	冷蔵	比色法(酵素水解法)	M: 4.6~18.0 F: 2.4~11.0 mg/day	4~7	70 生 II	酸性蓄尿は避けて下さい
18850	17-KS7分画	蓄尿 12	32	冷蔵	GC/MS法(酵素水解法)	P83参照 mg/day	7~9	220 生 II	酸性蓄尿は避けて下さい
18860	11-OHCS	血清 0.5	01	凍結	蛍光法(De Moor変法)	(午前10時採血) 7.0~23.0 μg/dl	3~6	60 生 II	
18870	アンギオテンシン I	EDTA2Na 血液 0.2	07	絶対凍結	RIA2抗体法	110以下 pg/ml	6~9	—	
18880	アンギオテンシン II	EDTA2Na 血液 0.3	07	絶対凍結	RIA2抗体法	22以下 pg/ml	6~9	—	
18910	DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	血清 0.5	01	凍結	CLEIA	P84参照 μg/dl	3~6	190 生 II	性別、年齢を明記して下さい
18920	ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド (HANP)	EDTA加 血液 0.5	08	絶対凍結	CLEIA	43.0以下 pg/ml	3~6	240 生 II	
18930	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP)	EDTA2Na 血液 0.3	07	凍結	CLEIA	18.4以下 pg/ml	3~5	140 生 II	採血後冷蔵保存にて24時間以内に血漿分離し、速やかに凍結保存して下さい。

性腺・胎盤 関連

19010	HCG定性	血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	(-)	2	55 生 II	
19020	HCG (ヒト胎盤絨毛性ゴナドトロピン)	血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	10以下 mIU/ml	2	150 生 II	
19021		尿 1	32	冷蔵	FEIA	P86参照 mIU/ml	3~5	150 生 II	
19030	HCG-βサブユニット	血清 0.3	01	凍結	RIA固相法	0.1以下 ng/ml	3~7	150 生 II	遊離のHCG-βサブユニットを測定しています。抗体は遊離のHCG-βを認識しています。絨毛性及び非絨毛性HCG産生腫瘍のマーカーとして有用です。
19031		部分尿 0.3	32			0.1以下 ng/ml		150 生 II	
19040	HPL (ヒト胎盤性ラクタゲン)	血清 0.6	01	凍結	ラテックス凝集免疫法	μg/ml	3~6	150 生 II	妊婦の場合は、妊娠週数を明記して下さい
19050	エストロゲン(総)非妊婦	蓄尿 5	32	凍結	RIA 硫酸塩析法	P84参照 μg/day	11~18	—	冷蔵所にて24時間蓄尿し、よく混和し、必要量を提出して下さい。性別(性周期)を記入して下さい。
19081	エストロン (E ₁)	蓄尿 5	32	凍結	RIA 硫酸塩析法	P85参照 μg/day	9~16	—	
19090	エストラジオール (E ₂)	血清 0.4	01	凍結	ECLIA	P84参照 pg/ml	3~6	200 生 II	性別を明記して下さい。また妊婦の場合は妊娠週数を明記して下さい。
19091		蓄尿 3	32		RIA 硫酸塩析法	P85参照 μg/day	9~16	—	
19101	エストリオール (E ₃)	蓄尿 5	32	凍結	RIA 硫酸塩析法	P85参照 μg/day	9~16	—	
19150	プロゲステロン	血清 0.5	01	凍結	ECLIA	P85参照 ng/ml	3~6	170 生 II	
19160	テストステロン	血清 0.4	01	凍結	ECLIA	M: 2.07~7.61 F: 0.13~0.69 ng/ml	3~6	140 生 II	性別を明記して下さい
19170	フリーテストステロン	血清 0.3	01	絶対凍結	RIA固相法	P85参照 pg/ml	3~10	170 生 II	午前中に採血して下さい。性別・年齢を明記して下さい。

内分泌学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
性腺・胎盤 関連									
19180	17 α -OHプロゲステロン	血清 0.4	01	凍結	RIA固相法	成人:0.2~4.5 小児:0.6以下 ng/ml	3~8	220 生II	
19190	5 α -ジヒドロテストステロン (DHT)	血清 1.2	01	凍結	RIA 硫酸塩析法	M:0.2~1.0 F:0.05~0.3 ng/ml	9~16	—	
19200	プレゲネノロン	血清 0.5	01	凍結	RIA 硫酸塩析法	M:0.1~1.0 F:0.2~1.5 ng/ml	9~23	—	
19210	17 α -ヒドロキシプレゲネノロン	血清 0.9	01	凍結	RIA 硫酸塩析法	ng/ml	9~23	—	
19220	プレゲナンジオール	蓄尿 12	32	冷蔵	GC/MS法(酵素水解法)	mg/day	7~9	220 生II	性別を明記して下さい
19230	プレゲナントリオール	蓄尿 12	32	冷蔵	GC/MS法(酵素水解法)	mg/day	7~9	250 生II	性別を明記して下さい
20560	ヒト癌胎児性フィブロネクチン	腔分泌物	46	絶対凍結	ELISA	(—)	3~6	210 免疫	
20590	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	子宮頸管粘液	49	凍結	ラテックス凝集免疫法	1.60以下 μ g/ml	3~6	135 尿便	

内分泌学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
膵・消化管 関連									
3440	トリプシン	血清 0.4	01	冷蔵	RIA2抗体法	100～550 ng/ml	4～7	200 生 I	
18030	VIP (バソアクティブ腸管ペプチド)	血漿 0.6	08	凍結	RIA2抗体法	100以下 pg/ml	5～12	—	
19310	C-ペプチド (CPR)	血清 0.2	01	絶対凍結	CLIA	負荷前0.74～3.48 ng/ml	2	125 生 II	重複依頼不可。蓄尿は冷所にて行うか予め専用保存剤を蓄尿容器に一袋全量(10g/袋、最終濃度約0.5%)を入れて蓄尿を行って下さい。
19350		蓄尿 1	32	凍結	CLEIA	29.2～167 μg/day	3～6		
19400	PSTI (膵分泌性トリプシンインヒビター)	血清 0.2	01	冷蔵	RIA固相法	20.0以下 ng/ml	3～6	100 生 I	
19410	抗GAD抗体	血清 0.3	01	凍結	RIA	1.5未満 U/ml	3～6	140 生 II	ヒト由来抗原を使用しています
19420	グルカゴン (IRG)	血漿 1.0	08	絶対凍結	RIA2抗体法	負荷前40～180 pg/ml	5～8	150 生 II	
19430	インスリン	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	負荷前2.2～12.4 μU/ml	2	120 生 II	フッ化Na血漿及び溶血検体は低値
19450	インスリン抗体	血清 0.3	01	凍結	RIA PEG法	結合率7.0以下 %	4～9	110 免疫	
19480	ガストリン	血清 0.5	01	凍結	RIA PEG法	負荷前200以下 pg/ml	3～6	115 生 II	負荷試験の場合は負荷時間を明記
19490	PFDテスト (PABA排泄率)	投与前尿と6時間蓄尿5	32	凍結	DACA法	6時間蓄尿 73.4～90.4 %	3～6	100	1.PFD内服液服用前に採尿する。 2.PFD内服液服用後6時間目まで蓄尿する(6時間蓄尿)必ず蓄尿時間と蓄尿量を明記し、投与前尿とペアで検体をご提出下さい。
19500	膵フォスホオリパーゼA ₂ (膵PLA ₂)	血清 0.2	01	冷蔵	RIA固相法	130～400 ng/dl	3～5	210 生 I	長時間保存する場合は凍結して下さい

生理活性物質

19520	エリスロポエチン	血清 0.5	01	凍結	RIA2抗体法	9.1～32.8 mIU/ml	4～8	220 生 II	
19530	サイクリック-AMP	EDTA2Na 血液 0.3	07	絶対凍結	RIADCC法	11～21 pmol/ml	6～9	180 生 II	トルエン1～2mlを入れて冷暗所にて24時間蓄尿し、よく混和し必要量をご提出下さい。
19540		蓄尿 2	32			1.8～6.3 μmol/day		180 生 II	
19550	サイクリック-GMP	血漿 0.3	07	絶対凍結	RIADCC法	1.8～4.8 pmol/ml	6～13	—	

腫瘍関連検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
腫瘍マーカー									
3410	フェリチン	血清 0.6	01	冷蔵	CLIA	M: 12~302 F: 5~178 ng/ml	2	120 生 I	
4520	α_1 -アシドグロブリン (α_1 AG)	血清 0.3	01	凍結	ネフェロトリ-	M: 45~98 F: 39~86 mg/dl	3~6	—	
4550	β_2 -マイクログロブリン (β_2 MG)	血清 0.6	01	冷蔵	EIA	0.7~2.0 mg/l	2	115 免疫	尿はpH5.5~7.5である事を確認の上提出して下さい
4551		尿 3	32	冷蔵		200以下 μ g/l		115 免疫	
11740	抗p53抗体	血清 0.2	01	冷蔵	ELISA	1.30以下 U/ml	3~10	170 生 II	
20010	α -フェトプロテイン (定性)	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	(—)	2	—	判定基準 (—)10ng/ml以下
20030	α -フェトプロテイン (定量)	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	10以下 ng/ml	2	115 生 II	
20040	AFP-L ₃ 分画比 (AFPレクチン分画)	血清 0.5	01	凍結	レクチン親和 電気泳動法	L3分画: 10.0未満 %	4~7	190 生 II	
20050	CEA (癌胎児性抗原)	血清 0.4	01	冷蔵	CLIA	5.0以下 ng/ml	2	115 生 II	
20100	CA19-9	血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	37以下 U/ml	2	150 生 II	
20140	PA(PSA) 前立腺特異抗原	血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	4.0以下 ng/ml	2	140 生 II	前立腺肥大症と前立腺癌の判別に用いるcut off値は10.0ng/mlが推奨されます。
20160	高感度PSA F/T比タンデム	血清 0.2	01	絶対凍結	CLEIA	グレーゾーン cut off値 25 %	3~6	170 生 II	CLEIA法のグレーゾーン(4.0~10.0ng/ml)における前立腺肥大症と前立腺癌の判別に用いるカットオフ値です。(低値ほど前立腺癌の確立が高くなります。)
20190	高感度PSA タンデム	血清 1.0	01	凍結	CLEIA	4.00以下 ng/ml	3~6	140 生 II	測定レンジ: 0.003ng/ml~。前立腺癌診断の判別に用いるcut off値は10.0ng/mlが推奨されます。
20170	PSA-ACT	血清 0.5	01	凍結	CLIA	3.4以下 ng/ml	3~6	140 生 II	良性の前立腺疾患と前立腺癌の判別に用いるcut off値は7.0ng/mlが推奨されます。
20220	PAP (前立腺酸性フォスファターゼ)	血清 0.3	01	凍結	RIA二抗体法	3.0以下 ng/ml	4~7	140 生 II	採血後、速やかに血清分離して凍結保存。溶血注意
20250	CA125	血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	35以下 U/ml	2	160 生 II	
20280	CA15-3	血清 0.4	01	凍結	CLEIA	25.0以下 U/ml	3~6	130 生 II	
20290	CA72-4	血清 0.5	01	凍結	RIA固相法 (IRMA)	4.0以下 U/ml	4~7	150 生 II	
20300	CA54/61 (CA546)	血清 0.5	01	凍結	ELISA	12以下 U/ml	4~8	190 生 II	
20310	CA50	血清 0.4	01	凍結	EIA	40以下 U/ml	不定期	150 生 II	
20330	CA602	血清 0.5	01	凍結	ELISA	63以下 U/ml	4~8	190 生 II	
20350	エラスターゼ1	血清 0.5	01	凍結	RIA2抗体法	100~400以下 ng/dl	3~6	135 生 II	

※ 腫瘍関連検査の臨床的有用性一覧表: 76ページ参照

腫瘍関連検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
腫瘍マーカー									
20370	NCC-ST-439	血清 0.5	01	凍結	EIA	7.0以下 U/ml	4~7	130 生Ⅱ	
20380	NSE (神経特異エノラーゼ)	血清 0.2	01	凍結	RIA固相法	10以下 ng/ml	3~6	150 生Ⅱ	溶血でのご依頼は避けて下さい。(溶血の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値となります)
20390	塩基性フェトプロテイン (BFP)	血清 0.3	01	凍結	EIA	75以下 ng/ml	3~6	150 生Ⅱ	採血後、2時間以内に血清分離。溶血検体不可。
20400		尿 3	19	冷蔵	ラテックス凝集 免疫法	10以下 ng/ml	3~7	150 生Ⅱ	重複依頼不可。 検体採取後速やかに遠心し、その上清を専用容器に入れて下さい。凍結保存は避けて下さい。
20410	シアリルLex-i抗原 (SLX)	血清 0.2	01	凍結	RIA固相法	38以下 U/ml	3~6	160 生Ⅱ	溶血でのご依頼は避けて下さい
20420	γ-Sm (γ-セミノプロテイン)	血清 0.5	01	絶対凍結	EIA	4.0以下 ng/ml	4~7	200 生Ⅱ	4.0ng/mlは、前立腺肥大症と前立腺癌の判別に用いる上でのカットオフ値です。
20430	シフラ (サイトケラチン19フラグメント)	血清 0.2	01	冷蔵	ECLIA	3.5以下 ng/ml	3~5	180 生Ⅱ	
20440	SPan-1	血清 0.2	01	凍結	RIA固相法 (IRMA)	30以下 U/ml	3~6	150 生Ⅱ	
20450	PIVKA-II	血清 0.5	01	凍結	ECLIA	40未満 mAU/ml	3~6	150 生Ⅱ	
20460	DUPAN-2	血清 0.2	01	凍結	EIA	150以下 U/ml	3~6	130 生Ⅱ	
20470	TPA (組織ポリペプチド抗原)	血清 0.3	01	凍結	RIA固相法	70以下 U/l	3~6	115 生Ⅱ	
20480	SCC (扁平上皮癌関連抗原)	血清 0.2	01	冷蔵	CLIA	1.5以下 ng/ml	3~5	115 生Ⅱ	唾液、フケ、皮膚等の混入により高値傾向を示す場合があります。
20490	BCA225	血清 0.2	01	凍結	EIA	160以下 U/ml	4~7	170 生Ⅱ	
20500	シアリルTn抗原 (STN)	血清 0.3	01	凍結	RIA固相法	45以下 U/ml	3~6	150 生Ⅱ	
20510	プロコラーゲンⅢヘパチド (P-Ⅲ-P)	血清 0.3	01	凍結	RIA固相法	0.3~0.8 U/ml	3~6	150 生Ⅰ	
20520	Ⅳ型コラーゲン	血清 0.3	01	冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	150以下 ng/ml	3~5	150 生Ⅰ	
20540	Ⅳ型コラーゲン・7S	血清 0.5	01	凍結	RIA2抗体法	6以下 ng/ml	4~7	160 生Ⅰ	
20550	尿中HCG β-コアフラグメント	部分尿 0.5	32	凍結	EIA	CRE換算値 50.0以下 pg/mg・CRE	3~8	210 生Ⅱ	早朝一番尿または午前中尿をご提出下さい。妊婦の場合は、その旨を明記して下さい。
20570	ProGRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	血清 0.3	01	絶対凍結	ELISA	46.0未満 pg/ml	4~7	180 生Ⅱ	
20600	可溶性IL-2レセプター	血清 0.4	01	絶対凍結	ELISA	145~519 U/ml	3~6	460 生Ⅱ	
20620	尿中核マトリックスプロテイン22 (NMP22)	尿 5	39	冷蔵	ELISA	12.0未満 U/ml	4~7	160 生Ⅱ	重複依頼不可。 検体採取後速やかに遠心し、その上清を専用容器に入れて下さい。凍結保存は避けて下さい。

※ 腫瘍関連検査の臨床的有用性一覧表:76ページ参照

腫瘍関連検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容 器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
腫瘍マーカー									
20630	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)	早朝二番尿 3	32	凍結	ELISA	P83参照 nMBCE/mMcr	4~7	160 生II	
20660	デオキシピリジリン (DPD) (骨粗鬆症)	早朝二番尿 3	32	凍結	EIA	(CRE換算値) M: 2.1~5.4 F: 2.8~7.6 nmol/mmol・CRE	4~7	200 生II	薬剤治療の指標:P81参照
20680	癌関連ガラクトース転移酵素 (GAT)	血清 0.3	01	凍結	EIA	13.6未満 U/ml	3~6	190 生II	
20690	TK活性 (チミジンキナーゼ活性)	血清 0.3	01	凍結	Radioenzyme Assay	5.0以下 U/l	4~9	240 血液	

※ 腫瘍関連検査の臨床的有用性一覧表:76ページ参照

血液学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考	
血液一般										
30010	末梢血一般	白血球数 (WBC)	EDTA-2K 血液 2.0	03	冷蔵	電気抵抗検出法	35~95 $\times 10^2 / \mu\text{l}$	2	22 血液	
		赤血球数 (RBC)				シスフロ-電気抵抗検出法	M: 420~570 F: 380~500 $\times 10^4 / \mu\text{l}$			
		ヘモグロビン量 (Hb)				SLS-Hb法	M: 13.0~17.0 F: 11.5~15.0 g/dl			
		ヘマトクリット値 (Ht)				赤血球ハルス波高値検出法	M: 38.0~51.5 F: 34.0~45.0 %			
		血小板数 (PLT)				シスフロ-電気抵抗検出法	13.0~37.0 $\times 10^4 / \mu\text{l}$			
		MCH (平均赤血球色素量)				RBC及びHbより算出 (MCH=Hb/RBC $\times 10^3$)	M: 28.0~34.5 F: 27.0~34.0 pg			
		MCV (平均赤血球容積)				RBC及びHtより算出 (MCV=Ht/RBC $\times 10^3$)	M: 85.0~101.0 F: 80.0~100.0 fl			
		MCHC (平均赤血球色素濃度)				Ht及びHbより算出 (MCHC=Hb/Ht $\times 10^2$)	M: 31.5~36.0 F: 31.0~35.5 %			
30030	網状赤血球数	EDTA-2K 血液 2.0	03	冷蔵	フローサイトメトリー法	2~27 %	2	12 血液		
30040	赤血球像	EDTA-2K 血液 2.0 又は 塗抹標本 (未固定)	03	冷蔵・ 塗抹 標本 室温	RF/DC検出法及びメイギムサ [*] 染色鏡検	赤血球形態(一)	2	18 血液	EDTA-2K血液は採血当日中にラポ到着のこと。採血日以降の提出の際は、塗抹標本にてお願いします。	
	白血球像					Ba.: 0.0~2.0 Eo.: 0.0~10.0 Neu.: (36.0~77.0) St.: 0.0~10.0 Seg.: 36.0~77.0 Lym.: 19.0~55.0 Mon.: 1.0~12.0 %				
30220	全血比重	EDTA-2K 血液 2.0	03	冷蔵	ヘモグロビン計算法	M: 1.055~1.063 F: 1.052~1.060	2	—		
30240	好酸球数	EDTA-2K 血液 2.0	03	冷蔵	RF/DC検出法及びメイギムサ [*] 染色鏡検	70~440 / μl	2	17 血液		
30250	血中原虫 (マラリア原虫・フィラリア原虫)	EDTA-2K 血液	03	冷蔵	鏡検	(一)	2	40 血液	マラリア原虫: 発熱時採血が良 フィラリア原虫: 午後8時以降夜半までに採血が良	
30260	LE細胞	EDTA-2K 血液 2.0	38	室温	凝血法 (Zimmer-Hargraves法)	(一)	2~3		採血当日中にラポ到着のこと	
30271	赤血球沈降速度 (赤沈)	クエン酸Na 血液 2.0	14	冷蔵	Wester-gren法	M: 10以下 F: 15以下 (1時間値) mm	2	9 血液		
30330	骨髓像	塗抹標本 (未固定) 3枚	38	室温	鏡検		3~7	500 血液	末梢血(EDTA-2K)を添えて下さい。又、ご依頼の際、骨髓像検査依頼書を併せて提出して下さい	

血液学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考						
凝固・線溶															
30410	線維素分解産物 (FDP)	抗プラスミン 剤血清 0.3	33	絶対 凍結	ラテックス凝集 反応	10未満 μg/ml	2	80 血液							
30420		部分尿 上清 0.5	51	絶対 凍結	LPIA	100以下 ng/ml	3~8	72 尿便							
31010	フィブリノーゲン	クエン酸Na 血漿 0.1	16	凍結	光散乱測光 方式	160~400 mg/dl	2	23 血液							
31020	プロトロンビン時間 (PT)	クエン酸Na 血漿 0.2	16	凍結	光散乱測光 方式	10.0~13.0 秒	2	15 血液	PT活性値:65~110%、 PT比:0.85~1.20、 PT-INR:0.85~1.20 (INR:下記参照)						
31030	活性化部分トロンボプ ラスチン時間 (APTT)	クエン酸Na 血漿 0.2	16	凍結	光散乱測光 方式	25.0~40.0 秒	2	29 血液							
31040	トロンボテスト	クエン酸Na 血漿 0.1	16	凍結	光散乱測光 方式	70以上 %	2	29 血液							
31050	βトロンボグロブリン (β-TG)	乏血小板 血漿 0.3	24	絶対 凍結	EIA	50以下 ng/ml	3~6	180 血液							
31060	血小板第4因子 (PF-4)	乏血小板 血漿 0.3	24	絶対 凍結	EIA	20以下 ng/ml	3~6	180 血液							
31080	ヘパプラスチンテスト (HPT)	クエン酸Na 血漿 0.5	16	凍結	Owren法	70~130 %	3~6	29 血液							
31100	凝固 因子 活性 検査	クエン酸Na 血漿 0.3	16	絶対 凍結	凝固時間法	75~135 %	3~10	240 血液	採血後、速やかに血漿分 離して下さい						
31110						第Ⅴ因子定量		70~135 %		240 血液					
31120						第Ⅶ因子定量		75~140 %		240 血液					
31130						第Ⅷ因子定量		60~150 %		3~7	240 血液				
31140						第Ⅸ因子定量		70~130 %		3~8	240 血液				
31150						第Ⅹ因子定量		70~130 %		3~10	240 血液				
31160						第ⅩⅠ因子定量		75~145 %			240 血液				
31170						第ⅩⅡ因子定量		50~150 %			240 血液				
31180						第ⅩⅢ因子抗原量		クエン酸Na 血漿 0.4				合成基質法	70~140 %	3~6	240 血液
31190						凝固抑制因子検査 第Ⅷ因子		クエン酸Na 血漿 1.0		17	絶対 凍結	ベセスダ法	検出せず ベセスダU/ml	3~7	160 血液
31200	凝固抑制因子検査 第Ⅸ因子						3~8	160 血液							
31210	第Ⅷ因子様抗原定量 (フォン・ウィルブラント因子 抗原定量)	クエン酸Na 血漿 0.2	16	絶対 凍結	ラテックス凝集 反応	50~155 %	3~6	140 血液							
31220	フォン・ウィルブラント因子 活性	クエン酸Na 血漿 0.5	16	絶対 凍結	固定血小板 凝集法	60~170 %	3~6	140 血液							
31230	アンチトロンビンⅢ活性値 (AT-Ⅲ活性値)	クエン酸Na 血漿 0.2	16	絶対 凍結	発色性合成 基質法	80~130 %	2~3	70 血液							

INR(International Normalized Ratio,国際基準比)

PTの測定値は各試薬の感受性差や機種間差による施設間差が大きいため、共通の物差しで比較できるようにしたWHOが推奨している表現方法である。

(INRの算出方法) $INR = PR^{ISI}$

$$PR = \frac{ISI: International Sensitivity Index, 国際感受性指数 \times \text{患者血漿の凝固時間(秒)}}{\text{正常標準血漿の凝固時間(秒)}}$$

血液学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
凝固・線溶									
31250	プラスミノーゲン	クエン酸Na 血漿 0.5	16	絶対 凍結	発色性合成 基質法	75~125 %	3~6	100 血液	
31260	アンチプラスミン (α_2 プラスミンインヒビター)	クエン酸Na 血漿 0.5	16	絶対 凍結	発色性合成 基質法	85~115 %	3~6	140 血液	採血後、速やかに血漿分 離して下さい
31270	D-ダイマー	クエン酸Na 血漿 0.5	16	絶対 凍結	ラテックス免疫 比濁法	1.0未満 $\mu\text{g/ml}$	3~6	150 血液	
31280	トロンビンアンチトロンビン Ⅲ複合体 (TAT)	クエン酸Na 血漿 0.5	16	絶対 凍結	EIA	3.0以下 ng/ml	3~6	200 血液	
31290	PIVKA-II	クエン酸Na 血漿 0.1	16	絶対 凍結	ラテックス凝集 反応	1未満 $\mu\text{g/ml}$	4~9	150 血液	採血後、速やかに血漿分 離して下さい
31300	可溶性フィブリンモノマー 複合体 (SFMC)	クエン酸Na 血漿 0.3	16	絶対 凍結	凝集反応	陰性	3~6	100 血液	
31310	α_2 プラスミンインヒビター-プ ラスミン複合体 (PIC)	クエン酸Na 血漿 0.2	16	絶対 凍結	LPIA	0.8以下 $\mu\text{g/ml}$	3~6	170 血液	採血後、速やかに血漿分 離して下さい
31340	ループスアンチコアグラ ント	クエン酸Na 血漿 1.0	17	絶対 凍結	希釈ラッセル 蛇毒時間法	1.3未満	3~6	290 免疫	
31350	t-PA・PAI複合体	クエン酸Na 血漿 0.4	16	絶対 凍結	EIA	M:15以下 F:11以下 ng/ml	3~10	260 血液	
31380	プロテインS抗原量 (フリー)	クエン酸Na 血漿 0.2	16	絶対 凍結	ラテックス凝集 反応	60~150 %	3~8	170 血液	採血後、速やかに血漿分 離して下さい
31390	プロテインS抗原量 (トータル)	クエン酸Na 血漿 0.2	16	絶対 凍結	EIA	65~135 %	3~8	170 血液	
31400	プロテインC活性	クエン酸Na 血漿 0.2	16	絶対 凍結	APTT凝固 時間法	64~146 %	3~7	260 血液	
31430	トロンボモジュリン	血清 0.3	01	絶対 凍結	EIA	M:2.1~4.1 F:1.8~3.9 FU/ml	3~6	215 血液	
31440	フィブリンモノマー-複合体 (定量)	クエン酸Na 血漿 0.5	16	絶対 凍結	ラテックス免疫 比濁法	6.1以下 $\mu\text{g/ml}$	3~6	240 血液	採血後、速やかに血漿分 離して下さい

一般検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考	
尿一般										
35010	尿一般	比重	尿 10	32	冷蔵	屈折計法	1.005~1.030	2	26 尿便	原則として早朝空腹時の尿を採取して下さい。激しい運動時の採尿はお避け下さい。
		pH				試験紙法	5.0~7.5			
		ウロビリノーゲン					(±)			
		ビリルビン					(-)			
		ケトン体					(-)			
		蛋白定性					(-)			
		糖定性					(-)			
		潜血反応					(-)			
		亜硝酸塩					(-)			
35030	尿蛋白定量	随時尿 2	32	冷蔵	ヒロカロールレッド法	10未満 mg/dl	2	7 尿便	蓄尿の際は全尿量を必ず記載して下さい	
35031		蓄尿 2				120以下 mg/day				
35040	尿糖定量	随時尿 2	32	冷蔵	酵素法 (ヘキソキナーゼ G-6-PDH)	0.02以下 g/dl	2	9 尿便		
35041		蓄尿 2				0.09以下 g/day				
35070	尿沈渣	尿 10	32	冷蔵	フローサイトメトリ法又は鏡検法		2	25 尿便	原則として早朝空腹時の尿を採取して下さい。激しい運動時の採尿はお避け下さい。	
35140	PSPテスト	排出全量	32	冷蔵	Chapman Halsted変法	25~55以上 (15分値) %	2	150	全尿量を必ず記載して下さい	
35150	ベンス・ジョーンズ蛋白 (B-J蛋白)	尿 10	32	冷蔵	Putnum法	(-)	2	9 尿便		

一般検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
便検査									
15350	ロタウイルス抗原	糞便	26	冷蔵	イムノクロマト法	(-)	2	65 免疫	シードスワブでの検査は不可
35510	虫卵検査	糞便 小指頭大	26	室温	セロファン厚層 塗抹法	(-)	2	20 尿便	
35520					浮遊法	(-)	2	15 尿便	
35530					沈殿法	(-)	2	15 尿便	
35550	蟻虫卵セロテープ	セロテープ	41	室温	セロテープ法	(-)	2	20 尿便	
35590	虫体検出	糞便小指大 又は寄生虫	26	室温	鏡検法		2	23 尿便	
35620	便潜血反応	糞便 小指頭大	26	冷蔵	オルトリジン法	(-)	2	9 尿便	
35640	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン (H B-TF)	糞便 専用容器	52	冷蔵	ラテックス凝集法	(-)	2	60 尿便	経時的にヘモグロビン量が低下しますので、必ず専用容器にて採取して下さい。
35650	便ヘモグロビン	糞便 専用容器	35	冷蔵	ラテックス凝集法	(-)	2	37 尿便	
35670	便ヘモグロビン定量 (ヘモグロビン精密測定)	糞便 専用容器	35	冷蔵	ラテックス凝集法	100未満 ng/dl	2	42 尿便	基準値は便ヘモグロビン定性での陰性・陽性カットオフ値です。
35680	便脂肪染色	糞便 小指頭大	26	室温	スダンⅢ染色法	(-)	2	20 尿便	

髄液

36010	髄液一般	比重	髄液 3	32	冷蔵	屈折計法	1.005~1.007	2	65 尿便	
		pH				試験紙法	7.4~7.6			
		ノンネアペルト反応				Nonne-Apelt法	(-)			
		パンディー反応				Pandy反応	(-)~(+)			
		トリプトファン反応				里見変法	(-)			
		細胞数				FuchsRosenthal法	5以下 /μl			
		細胞種類(N/L比)				鏡検				
36030	髄液	蛋白定量	髄液 2	32	冷蔵	ビロカロールレット法	10~40 mg/dl	2	11 生 I	
36040		糖定量	髄液 1	32	冷蔵	酵素法(ヘキソキナーゼ-G-6-PDH)	50~75 mg/dl	2	11 生 I	
36050		クロール定量	髄液 1	32	冷蔵	電極法	120~130 mEq/l	2	11 生 I	

一般検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考	
胸水・腹水・関節液										
36200	胸水 一般	比重	胸水 5.0	32	冷蔵	屈折計法		2	—	フィブリンの析出で凝固しますので容器に予め、ヘパリン、EDTAなどの抗凝固剤を入れて採取して下さい。
		細胞数				FucksRosen thal法				
		細胞種類				MayGiemsa 染色・鏡検				
		リバルタ反応				Rivalta反応 法				
36300	腹水 一般	比重	腹水 5.0	32	冷蔵	屈折計法		2	—	
		細胞数				FucksRosen thal法				
		細胞種類				MayGiemsa 染色・鏡検				
		リバルタ反応				Rivalta反応 法				
36230 36330	胸水 腹水	蛋白定量	胸水 2.0 腹水 2.0	32	冷蔵	屈折計法		2	11 生 I	
36240 36340	胸水 腹水	糖定量	胸水 1.0 腹水 1.0	32	冷蔵	酵素法(ヘキソ キナーゼG-6- PDH)		2	11 生 I	
36410	関節液 一般	比重	関節液 2.0	32	冷蔵	屈折計法		2	—	
		pH				試験紙法				
		リバルタ反応				Rivalta反応 法				
36450	関節液一般 沈渣(結晶の有無)	関節液 10.0	32	冷蔵	鏡検(偏光 顕微鏡)		2	—		

精液

36610	精液	量	精液 排出全量	40	室温	重量法	2.0以上	2	70 尿便	採取時間を明記して下さい。コンドームでの提出は検査不可。
		運動率				50以上	ml			
		正常形態率				15以上	%			
		精子数				20以上	%			
		pH				7.2以上				
		Mac Comber Sanders法	$20 \times 10^6 / \text{ml}$							

その他

35720	鼻汁好酸球	鼻汁 塗抹標本 1~2枚	38	室温	ハンセル染色	(-)	2	15 血液	標本は新鮮鼻汁で作成し 提出して下さい。
37010	尿素呼気試験 (ユービット)	呼気	専用	室温	赤外分光法	$\triangleleft^{13}\text{CO}_2$ 2.5未満	2	70 微生	
37020	尿素呼気試験 (ピロニック)					$\triangleleft^{13}\text{CO}_2$ 6.0未満			

微生物学的検査

コード	項目名	検査材料	保存方法	検査法	判定基準	所要日数	実施料判断料	備考
一般細菌								
70010	塗抹鏡検	各種材料	冷蔵	グラム染色等	P47参照	2~3	25 微生物	糞便材料、血液ポル不可
70110	一般細菌培養・同定	口腔・気道・呼吸器	冷蔵	培養・同定	P47参照	3~5	130 微生物	
70120		消化器	冷蔵	培養・同定		3~5	130 微生物	
70130		泌尿器・生殖器	冷蔵又は室温	培養・同定		3~5	120 微生物	目的菌が淋菌の場合は室温保存
70140		血液・穿刺液	冷蔵又は室温	培養・同定		3~8	130 微生物	血液ポル又は、目的菌が髄膜炎菌の場合は室温保存
70150		その他	冷蔵	培養・同定		3~8	110 微生物	
70220	嫌気性培養	各種材料	冷蔵	嫌気培養・同定		3~10	70 微生物	必ず細菌培養・同定と同時依頼して下さい
70710	薬剤感受性	1菌種	培養・同定に準じる	ディスク拡散法(NCCLS準拠法)	P47参照	4~7	130 微生物	
70720		2菌種					170 微生物	
70730		3菌種以上					220 微生物	
70610	便培養検査(3菌種)	糞便	冷蔵	培養・同定	P47参照	3~5	—	同定対象菌：赤痢、サルモネラ、O-157
70620	便培養検査(4菌種)						—	同定対象菌：赤痢、サルモネラ、O-157、ピブリオ
70920	(病原性大腸菌関連)ベロ毒素	菌株	室温	RPLA法		5~7	200 微生物	
70930	(病原性大腸菌関連)血清型別判定		冷蔵	凝集法		4~8	—	

抗酸菌

73010	抗酸菌塗抹鏡検	喀痰、胃液、穿刺液、尿等	冷蔵	チール・ネルセン染色	P47参照	2~3	25 微生物	
73110	抗酸菌分離培養検査		冷蔵	小川培地法		~8週	140 微生物	陽性になり次第報告、陰性の場合8週まで培養(4週で中間報告)
73120			冷蔵	MGIT法		~6週	150 微生物	陽性になり次第報告、陰性の場合6週まで培養(3週で中間報告)。検査材料便は検査不可
73150	結核菌群DNA (PCR)	喀痰、尿、糞便等	冷蔵	PCR		3~6	410 微生物	単独検体にて依頼して下さい
73170	アビウム・イントラセラーPCR (MAC・DNA)		冷蔵	PCR		3~6	430 微生物	
73180	抗酸菌属核酸同定精密測定 (DDH)	一般細菌に準じる	冷蔵	マイクロプレートハイブリダイゼーション		8~12	410 微生物	
73190	抗酸菌同定 (ナイアシントテスト)		冷蔵	アニリン・エタール法		4週~	—	増菌操作を含めた日数になります。(菌の発育状況により所要日数は変わります) 必ず抗酸菌分離培養と同定に依頼して下さい。
73210	抗酸菌薬剤感受性 3薬剤以下			マイクロタイター法		~8週	200 微生物	
73220	抗酸菌薬剤感受性 4薬剤以上						230 微生物	

感受性薬剤一覧表

略号	薬剤名
ペニシリン系	
ASPC	アスポキシシリン
AMPC	アモキシシリン
ABPC	アンピシリン
AMPC/CVA	クラブラン酸・アモキシシリン
MPIPC	オキサシリン
PIPC	ピペラシリン
PCG	ベンジルペニシリン
ABPC/SBT	アンピシリン/スルバクタム
セフェム系	
CEZ	セファゾリン
CTM	セフォチアム
CMZ	セフメタゾール
CFIX	セフィキシム
CDZM	セフォジジム
CZOP	セフォゾプラン
CPZ	セフォペラゾン
CPZ/SBT	セフォペラゾン/スルバクタム
CAZ	セフトジジム
CTRX	セフトリアキソン
CPM	セフピラミド
CMX	セフメノキシム
FMOX	フロモキシセフ
LMOX	ラタモキシセフ
CCL	セファクロル
CEX	セファレキシシ
CFPM	セフェピム
CFPN	セフカペンピボキシル
CFDN	セフジニル
CDTR	セフジトレンピボキシル
CFTM	セフテラムピボキシル
CPR	セフピロム
CPDX	セフポドキシムプロキシセチル
カルバペネム系	
IPM	イミペネム
PAPM	パニペネム
MEPM	メロペネム
その他のβ-ラクタム系	
AZT	アズトレオナム
FRPM	ファロペネム

略号	薬剤名
アミノグリコシド系	
AMK	アミカシン
ABK	アルベカシン
ISP	イセバマイシン
GM	ゲンタマイシン
DKB	ジベカシン
TOB	トブラマイシン
マクロライド系	
EM	エリスロマイシン
CAM	クラリスロマイシン
RXM	ロキシスロマイシン
RKM	ロキタマイシン
AZM	アジスロマイシン
テトラサイクリン系	
TC	テトラサイクリン
DOXY	ドキシサイクリン
MINO	ミノサイクリン
キノロン系	
ENX	エノキサシン
OFLX	オフロキサシン
GFLX	ガチフロキサシン
CPFX	シプロフロキサシン
TFLX	トスフロキサシン
NFLX	ノルフロキサシン
PZFX	パズフロキサシン
LVFX	レボフロキサシン
LFLX	ロメフロキサシン
MFLX	モキシフロキサシン
ポリペプチド系	
CL	コリスチン
TEIC	テイコブラニン
VCM	バンコマイシン
PL-B	ポリミキシンB
その他の抗生物質	
CLDM	クリンダマイシン
CP	クロラムフェニコール
FOM	ホスホマイシン
LCM	リンコマイシン
ST	スルファメトキサゾール・トリメプリーム
SPCM	スペクチノマイシン

※ 上記にないその他の薬剤につきましてはお問合せ下さい

一般細菌薬剤感受性試験(標準パターン)一覧

※検出された菌により、効力の高い薬剤の組み合わせが自動的に選択されます

菌 群		ブドウ球菌	腸球菌	連鎖球菌	肺炎球菌	グラム陰性桿菌	緑膿菌	淋菌	ブランハメラ	グラム陽性桿菌	嫌気性菌	カンピロバクター
薬 剤												
ペニシリン系	PCG		●	●	●			●				
	ABPC	●	●	●		●			●	●	●	●
	PIPC					●	●				●	
	MPIPC	●										
セフェム系	CCL	●		●		●			●	●		
	CTM								●	●		
	CEZ					●						
	CDZM							●				
	CAZ					●	●					
	CTRX							●				
	CFPM			●								
	CMZ										●	
LMOX					●			●		●		
アミノグリコシド系	GM	●				●	●			●		●
	ABK	●										
	AMK					●	●		●	●		
	ISP						●					
マクロライド系	EM	●		●	●							
	CAM								●	●	●	●
	AZM				●							
テトラサイクリン系	MINO	●	●	●		●	●	●	●	●	●	
	TC				●							
クロラムフェニコール系	CP									●	●	
その他	FOM					●	●					●
	VCM	●	●		●							
	ST				●							
	IPM	●	●	●		●	●		●	●	●	
	CLDM	●		●	●						●	
	AZT						●					
	LVFX	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
	OFLX							●				
	CPFX							●				
	TEIC	●	●									
SPCM							●					

病原性大腸菌O血清群別試験判定表

混合血清	単 味 血 清						
	O 1	O 26	O 86a	O 111	O 119	O 127a	O 128
混合 1	O 1	O 26	O 86a	O 111	O 119	O 127a	O 128
混合 2	O 44	O 55	O 125	O 126	O 146	O 166	
混合 3	O 18	O 114	O 142	O 151	O 157	O 158	
混合 4	O 6	O 27	O 78	O 145	O 159	O 168	
混合 5	O 20	O 25	O 63	O 153	O 167		
混合 6	O 8	O 15	O 115	O 169			
混合 7	O 28ac	O 112ac	O 124	O 136	O 144		
混合 8	O 29	O 143	O 152	O 164			
混合 9	O 74	O 91	O 103	O 121	O 145	O 161	O 165

(はこれまでにベロ毒素が検出された血清型を示します)

一般細菌及び抗酸菌結果判定基準

一般細菌

下記項目の検査結果は、次の当社基準に基づき報告書へ表示しております。

項目名	区分及び鏡検倍率	表示方法	細菌数/細胞数	備考
塗抹鏡検	細菌数(鏡検倍率1000倍)	—	菌がみられない	
		少数	1視野に1個未満	
		1+	1視野に1個	
		2+	1視野に2~10個	
		3+	1視野に10個超	

項目名	表示方法	培地発育状態	備考
培養同定	—	菌の発育が認められない場合	
	少数	培地の1/3未満に菌が認められた場合	
	1+	培地の1/3に菌が認められた場合	
	2+	培地の2/3に菌が認められた場合	
	3+	培地の全体に菌が認められた場合	

項目名	表示方法	内容	備考
薬剤感受性検査	S	Susceptible(感受性)	NCCLSの基準に基づき表示します。
	I	Intermediate(中間)	
	R	Resistant(耐性)	

抗酸菌

下記項目の検査結果は、次の当社基準に基づき報告書へ表示しております。

項目名	表示方法	ガフキー号数	検出菌数	
塗抹鏡検	—	0	0 / 全視野	
	陽性	1	1~4	/ 全視野
		2	1	/ 数視野
		3	1	/ 毎視野
		4	2~3	/ 毎視野
		5	4~6	/ 毎視野
		6	7~12	/ 毎視野
		7	やや多数	/ 毎視野
		8	多数	/ 毎視野
		9	はなはだ多数	/ 毎視野
		10	無数	/ 毎視野

一般細菌目的菌及び検体中の主な菌種

菌名	検査材料	保存条件	検査方法	所要日数
MRSA	各種材料	冷蔵	培養・同定	3～5
溶連菌				3～5
B群溶連菌				3～5
淋菌				3～5
カンジダ				3～7
白癬菌				3～7
緑膿菌				3～5
トリコモナス	腔分泌物など	室温		3～5
ヘリコバクターピロリ	胃生検など	冷蔵		10～13
赤痢菌	消化器系材料			3～5
サルモネラ菌				3～5
腸チフス				3～5
パラチフス				3～5
ビブリオ				3～5
コレラ			3～5	
カンピロバクター			3～7	
O-157			3～5	
病原性大腸菌(ベロ毒素試験)			3～5	

材 料	検体中にみられる主な菌種
血液	ブドウ球菌、連鎖球菌(β溶血性及びα溶血性のいわゆる緑膿菌を含む)肺炎球菌、腸球菌、ヘモフィリス、サルモネラ(腸チフス菌など)、大腸菌、緑膿菌、嫌気性菌(バクテロイデス、ペプトストレプトコッカスなど)、カンピロバクター、ブルセラ
髄液	髄膜炎菌、ブドウ球菌、連鎖球菌(β溶血性)、肺炎球菌、ヘモフィリス、結核菌、リステリア、クリプトコッカス、緑膿菌、大腸菌などの腸内細菌
漿膜腔液	連鎖球菌(β溶血性)、肺炎球菌、ブドウ球菌、結核菌、嫌気性菌、大腸菌などの腸内細菌、緑膿菌
尿	大腸菌、クレブジエラ、プロテウスなどの腸内細菌、緑膿菌、腸球菌、ブドウ球菌、淋菌、カンジダ、レプトスピラ、セラチア
膿	ブドウ球菌、連鎖球菌(β溶血性)、肺炎球菌、プロテウス、セラチアなどの腸内細菌、緑膿菌、嫌気性菌(バクテロイデス、ペプトストレプトコッカス、クロストリジウムなど)、放線菌
咽頭・口腔・鼻腔・副鼻腔の分泌物	連鎖球菌(β溶血性)、肺炎球菌、ブドウ球菌、髄膜炎菌、ジフテリア菌、カンジダ
喀痰・気管分泌物	肺炎球菌、連鎖球菌(β溶血性)、ヘモフィリス(インフルエンザ菌)、クレブジエラ、百日咳菌、カンジダ、アスペルギルス、放線菌、マイコプラズマ、結核菌
耳及びその周囲からの材料	ブドウ球菌、肺炎球菌、連鎖球菌(β溶血性)、ヘモフィリス(インフルエンザ菌)、緑膿菌、プロテウスなどの腸内細菌、カンジダ、アスペルギルス、放線菌
胃液	結核菌の検出を目的とする。ヘリコバクターピロリ(胃内視鏡生検材料)
胆汁	大腸菌などの腸内細菌、腸球菌、サルモネラ(腸チフス、パラチフスの保菌者検査)
糞便	サルモネラ、赤痢菌、下痢原性大腸菌(EPEC, ETEC, EIEC, EHE, EAECなど)、エルシニア、ビブリオ(コレラ菌)、NAG(NCV)ビブリオ、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、嫌気性菌(ウエルシュ菌、ディフィシル菌)、ブドウ球菌、セレウス菌
腔・子宮・尿道分泌物	連鎖球菌(β溶血性)、腸球菌、淋菌、ブドウ球菌、大腸菌などの腸内細菌、軟性下疳菌、嫌気性菌(ペプトストレプトコッカスなど)、カンジダ、梅毒トレポネーマ
皮膚よりの材料	ブドウ球菌、連鎖球菌(β溶血性)、コリネバクテリウム、結核菌、放線菌、真菌
眼結膜分泌物	ブドウ球菌、連鎖球菌(β溶血性)、ヘモフィリス(インフルエンザ菌)、モラクセラ、肺炎球菌、淋菌

尿検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
尿中特殊物質定性定量									
1131	浸透圧 (OSMO)	部分尿 1	32	冷蔵	氷点降下法	濃縮時 850以上 希釈時 40~85 (Fishberg試験時) mOsm/kg・H ₂ O	3~6	16 尿便	
1140	N-アセチルグルコサミンダーゼ(NAG)	尿 0.5	32	凍結	比色法	7.0以下 U/l	3~6	41 尿便	
3020	コプロポルフィリン (定性)	尿 2	30	遮光 凍結	HPLC	(-)	4~8	10 尿便	
3030	コプロポルフィリン (定量)	尿 2	30	遮光 凍結	HPLC	170以下 μg/g・CRE	4~8	150 尿便	
3050	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	尿 2	32	冷蔵	HPLC	mg/l	4~7	115 尿便	
3060	ポルフォビリノーゲン	蓄尿 3	30	遮光 凍結	比色法(M・G 変法)	2.0以下 mg/day	4~8	200 尿便	
3070	ウロポルフィリン	尿 2	30	遮光 凍結	HPLC	36以下 μg/g-CRE	4~8	115 尿便	
4380	尿蛋白免疫電気泳動 (尿中ベンスジョーンズ 蛋白同定)	部分尿 10	32	凍結	免疫電気泳 動法		4~7	220 免疫	カラープリントにて報告。 病名又は主症状、年齢を ご記入下さい。
4650	尿中アルブミン (クレアチニン換算値)	部分尿 10	32	冷蔵	免疫比濁法	(ALB濃度)30以下 mg/l (CRE換算)10以下 mg/g・CRE	2	115 尿便	
4660	尿中アルブミン	蓄尿 2	32	冷蔵	免疫比濁法	2~20 mg/day	2	115 尿便	
18340	尿中GH	尿 5	45	凍結	CLEIA	ng/g Cr	4~8	125 生Ⅱ	早朝一番尿を提出して下 さい
18600	VMA定性 (バニリルマンデル酸)	部分尿 10	32	冷蔵	試験管法(佐 藤らの方法)	(-)	2	9 尿便	尿一般同時依頼時は 10ml、単独依頼時は3ml

薬物検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
抗てんかん剤									
21010	フェノバルビタール (PB)	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	15~40 μg/ml	2	特薬	フェノバル、ルピアール、ワコピタール 採血時刻: 次回投与直前 (Trough濃度)
21020	フェニトイン (PHT)	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	10~20 (小児5~15) μg/ml	2	特薬	アレリアチン、ヒダントール、ジェフェニルヒダントイン 採血時刻 経口: 次回投与直前 (Trough濃度) 静注: 投与後2~4時間
21030	カルバマゼピン (CBZ)	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	4~10 μg/ml	2	特薬	テグレート、テレスミン、レキシ 採血時刻: 次回投与直前 (Trough濃度)
21040	バルプロ酸 (VPA)	血清 0.2	01	冷蔵	FPIA	50~100 μg/ml	2	特薬	エスタブル、エヒレナート、サノテン、セボトボル、セレニカR、デパケン、ハイセレニン、パトロス、パレリン 採血時刻: 次回投与直前 (Trough濃度)
21070	プリミドン (PR)	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	5~10 μg/ml	3~5	特薬	マイソリン 採血時期: 投与直前 (トラフ)
21080	エトスクシミド (ESM)	血清 0.4	01	冷蔵	EIA	40~100 μg/ml	3~5	特薬	エヒレオプチマル、ザロンチン 採血時期: 投与直前 (トラフ)
21090	アセタゾールアミド (AZA)	血清 0.3	01	凍結	HPLC	μg/ml	4~11	特薬	ダイアモックス
21110	クロナゼパム (CZP)	血清 0.7	01	凍結	HPLC	10~70 ng/ml	4~6	特薬	ランドセン、リボトリール 採血時期: 投与直前 (トラフ)
21120	ニトラゼパム (NZP)	血清 0.7	01	凍結	HPLC	20~100 ng/ml	4~6	特薬	ネルボン、ベンザリン 採血時期: 投与直前 (トラフ)
21130	ジアゼパム (DZP)	血清 1.0	※	凍結	GC-MS	有効治療濃度 200~500 中毒域1,000以上 ng/ml	4~7	特薬	血清分離剤入り採血管での採血は避けて下さい。 セルシン、ソナコン、ホリゾン、ダイアップ、デスメチルジアゼパムも同時報告いたします。 採血時期: 投与直前 (トラフ)
21150	ゾニサミド	血清 0.3	※	冷蔵	EIA	10~30 μg/ml	3~5	特薬	血清分離剤入り採血管での採血は避けて下さい。 エクセグラ 採血時期: 投与直前 (トラフ)

ジギタリス製剤

21050	ジゴキシン	血清 0.6	01	冷蔵	EIA	0.8~2.0 ng/ml	2	特薬	ジゴシン
21160	ジギトキシン	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	10.0~25.0 ng/ml	3~5	特薬	ジギトキシン 採血時期: 投与直前 (トラフ) または 投与後12時間以降

特薬: 特定薬剤治療管理料 (77ページ参照)

薬物検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
不整脈治療剤									
21170	リドカイン	血清 0.3	※	冷蔵	FPIA	1.4~6.0 μg/ml	3~6	特薬	血清分離剤入り採血管での採血は避けて下さい。 キシロカイン 採血時期 静注:投与後2時間 点滴静注:終了後6~12時間
21180	プロカインアミド	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	4~8 μg/ml	3~6	特薬	アミサリン 採血時期:投与直前(トラフ)
21190	N-アセチルプロカインアミド	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	5~30 μg/ml	3~6	特薬	プロカインアミドの活性代謝物 採血時期:投与直前(トラフ)
21200	ジソピラミド	血清 0.4	01	冷蔵	EIA	2~5 μg/ml	3~5	特薬	リスモダン、ノルベース、カフィール 採血時期 カプセル:投与直前(トラフ)及び投与後2~4時間(ピーク) 徐放錠:投与直前(トラフ)及び投与後4~7時間(ピーク) 注射剤:投与直前(トラフ)
21210	キニジン	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	2.3~5.0 μg/ml	3~6	特薬	硫酸キニジン 採血時期:投与直前(トラフ)
21320	フレカイニド	血清 0.3	01	凍結	HPLC	200~1000 ng/ml	4~8	特薬	タンボコール 採血時刻:随時
21370	プロプラノロール	血清 0.3	※	凍結	HPLC	50~100 ng/ml	7~14	—	血清分離剤入り採血管での採血は避けて下さい。 インデラル、ノルメテンス 採血時期:投与直前(トラフ)
21410	メキシレチン	血清 0.5	01	凍結	HPLC	0.75~2.00 μg/ml	4~6	特薬	メキシチール 採血時期:投与直前(トラフ)又は投与後3時間(ピーク)
21430	塩酸ピルジカイニド	血清 0.5	01	凍結	HPLC	Peak濃度0.2~0.9 μg/ml	4~7	特薬	サンリズム 採血時刻 経口:投与後1~2時間
21450	アプリンジン	血清 0.3	※	冷蔵	FPIA	0.25~1.25 μg/ml	3~6	特薬	血清分離剤入り採血管での採血は避けて下さい。 アスベノン 採血時期 静注:投与直前(トラフ) 経口:投与直前(トラフ)及び投与後2~4時間(ピーク)
21480	プロパフェノン	ヘパリン加血漿 1.0	09	凍結	HPLC	50~1500 ng/ml	4~8	特薬	ブロン 5-OHプロパフェノン同時報告いたします。有効治療濃度は、プロパフェノンと5-OHプロパフェノンとの総量値です。 採血時期:経口 投与直前(トラフ)
21500	コハク酸シベンゾリン	血清 0.5	01	凍結	HPLC	Trough濃度 70~250 ng/ml	4~7	特薬	シベンノール 採血時刻:朝投与直前(Trough濃度)
21540	ピルメノール	ヘパリン加血漿 0.5	09	凍結	HPLC	μg/ml	4~8	特薬	ピメノール 採血時期:投与直前(トラフ)

精神神経用剤

21240	ハロペリドール	血清 0.4	※	冷蔵	EIA(CEDIA法)	3~17 ng/ml	3~5	特薬	血清分離剤入り採血管での採血は避けて下さい。 セレネース、ハロステン、ケセラン、プロボン 採血時期:投与直前(トラフ)
21250	炭酸リチウム	血清 0.5	01	冷蔵	原子吸光法	0.40~1.00 mEq/l	3~5	特薬	リーマス、リチオマール 採血時期:投与直前(トラフ)
21390	プロムペリドール	血清 0.4	※	冷蔵	EIA	15以下 ng/ml	3~5	特薬	血清分離剤入り採血管での採血は避けて下さい。 インプロモン 採血時期:投与直前(トラフ)

特薬:特定薬剤治療管理料(77ページ参照)

薬物検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容 器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
抗生物質									
21270	アミカシン (AMK)	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	Peak 20~25 Trough 10以下 μg/ml	3~6	特薬	硫酸アミカシン、アミカマイシン、ピクリン 採血時期:点滴静注:投与直前(トラフ)及び終了直後(ピーク) 筋注:投与後0.5~1時間
21280	ゲンタマイシン (GM)	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	Peak 5~10 Trough 2以下 μg/ml	3~6	特薬	ゲンタシン 採血時期:筋注:投与後0.5~1時間 投与直前(トラフ)及び点滴静注後(ピーク)
21290	トブラマイシン (TOB)	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	Peak 5~8 Trough 2以下 μg/ml	3~6	特薬	トブラシン 採血時期:筋注:投与後0.5~1時間 点滴静注:終了直後(ピーク)及び次回投与直前(トラフ)
21400	バンコマイシン	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	Peak 30~40 Trough 5~10 μg/ml	3~5	特薬	塩酸バンコマイシン 採血時期:投与直前(トラフ)及び点滴終了後1~2時間(ピーク)
21440	テイコプラニン	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	(管理目標値) Trough 5~10 μg/ml	3~5	特薬	タゴシッド 採血時期:投与直前(トラフ) テイコプラニンのトラフレベルの血中濃度は、敗血症などの重症感染症においては確実な臨床効果を得るために10μg/ml以上を保つこと。但し、トラフレベルの血中濃度が60μg/ml以上になった場合には腎障害、聴覚障害等の副作用の発現に注意すること。また、トラフレベルの血中濃度が20μg/ml以上で一過性に肝機能検査値が軽度上昇したとの報告がある。 (医薬品添付文書・2003年1月改訂第8版より)
21460	アルベカシン	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	有効治療濃度 Peak 9~20 副作用発現域 Trough 2以上 μg/ml	3~6	特薬	ハベカシン 採血時期:点滴静注終了時(ピーク)及び次回投与直前(トラフ)、筋注:投与後0.5時間

特薬:特定薬剤治療管理料(77ページ参照)

薬物検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
その他									
21060	テオフィリン	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	10~20 μg/ml	2	特薬	アーデフィリン、スローピット、テオスロー、テオドール、テオロング、フレムフィリン、ユニフィル 採血時刻 経口：除放射性製剤では投与後4時間、標錠では投与後2時間(Peak濃度)。 次回投与直前(Trough濃度)。静注：負荷投与後30分、点滴開始後4~6及び12~18時間。
21300	メトレキサート	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	中毒域(大量投与時) 24時間後 10以上 48時間後 1以上 72時間後 0.1以上 μmol/l	3~5	特薬	メトレキサート 採血時期：ロイコボリン救療療法時24、48、72時間後
21330	シクロスポリン	EDTA加 血液 2.0	34	冷蔵	FPIA	ng/ml	3~5	特薬	サンディミュン 採血時期：経口投与直前(トラフ) 静注：投与直前(トラフ)必要に応じて投与直後(ピーク) ※ヘパリン加血液は不可
21340	サリチル酸	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	抗リウマチ薬として 150~300 μg/ml	3~6	特薬	アスピリン、パフアリン、ミニマックス 採血時期：投与直前(トラフ)
21350	アセトアミノフェン	血清 0.3	01	冷蔵	FPIA	肝障害域 300以上/4hr後 50以上/12hr後 μg/ml	3~6	190 生I	カロナル、ピリナジン 採血時期：投与直前(トラフ) 大量に服薬した患者においては中毒発現が疑われる場合に随時
21360	エタノール	ヘパリン加 血液 1.0	09	絶対凍結	GC法	0.1未満 mg/ml	7~9	120 生I	検出限界未満を基準値とします。 血液はポリチューブに移し替え、必ず凍結保存にてご提出下さい。
21510	タクロリムス	EDTA加 血液 0.5	34	冷蔵	MEIA	5~20 ng/ml	3~5	特薬	専用試験管に規定量を採血し、必要検体量をご提出下さい。 プログラフ 採血時期：経口：投与直前(トラフ) 静注：投与直前(トラフ)必要に応じて投与直後(ピーク)

特薬：特定薬剤治療管理料(77ページ参照)

病理学的検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
-----	-----	-------------	----	----------	-----	--------	----------	------------	----

病理組織

78010	病理組織検査	ホルマリン固定組織 (パラフィンブロック可) 1×1×1mm以上 10×10×5mm以下	専用	室温	HE染色		6~8	880 病理	
78111	免疫抗体染色 (病理組織検査)	ホルマリン固定組織 パラフィンブロック 1×1×1mm以上		室温			7~14	350 病理	

細胞診検査

78310	細胞診(婦人科材料) 膣部・頸部・子宮内膜	塗抹スライド 1~3枚		室温	Papanicolaou染色		4~7	150 病理	
78320	細胞診(液状検体)	尿、腹水、胸水等 10ml以上			Papanicolaou染色、Giemsa染色、PAS染色			190 病理	
78320	細胞診(呼吸器材料)	喀痰、気管支擦過、気管支洗浄液、咽頭粘液 1~5ml		冷蔵	Papanicolaou染色		4~7	190 病理	指導医の判定が必要な場合(原則的にClass III a以上)は通常日数より遅れる場合があります
78320	細胞診(蓄痰法) (ポストチューブ)	3日間連続 早朝喀痰 1~5ml	専用	室温				190 病理	

病理・細胞診検査の依頼方法

病理組織検査の依頼方法

病理組織検査専用依頼書 必要事項の記入要領

- 1) 提出日
- 2) 氏名、性別、年齢
- 3) 科名、担当医、カルテ No.
- 4) 臓器・組織の種類
- 5) 臨床診断 臨床経過 治療 その他臨床所見
(婦人科材料の場合は、月経周期や妊娠・授乳の有無等)
- 6) 前回提出日および整理番号

病理検査材料の提出方法

病理学的検査のご提出の際は 10%ホルマリン固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライド、染色済標本でお願い致します。

■10%ホルマリン固定組織

- 1) 摘出した組織を自家融解、乾燥から防ぐため、直ちに 10%ホルマリン入り容器に入れ固定してください。
- 2) 固定液は、10%ホルマリン液を使用し、組織の 10 倍を目安とし十分量を使用してください。検体容器は、ゆったりしたものをご使用ください。
- 3) 胃生検等の微小組織片をご提出の場合は、濾紙等に張りつけ 10%ホルマリン液へ入れてください。
- 4) 1 容器に 1 臓器 1 種類の臓器を入れて提出してください。なお、大きさが著しく異なる臓器は必ず容器を分けてください。

組 織	注 意 点
消化管・胆嚢	薄い板に粘膜面を上にして、虫ピンでとめ、10%ホルマリン液に入れてください。
肺	切り出した面の気管支断端から 10%ホルマリン液を注入し、できるだけ肺胞をふくらませ空気を追い出したのちに組織を 10%ホルマリン液に浸してください。
子宮・乳房・腎	子宮などの大きい臓器は、固定が不十分になることが多いので、あらかじめ断面を入れてから固定してください。
胃、腸などのパンチバイオプシー(濾紙につける場合)	生検材料の水分をよく取りのぞき、濾紙の上に 10 秒程度のせたのちにそのまま 10%ホルマリン液に入れてください。(組織を乾燥させないように十分注意してください。)

細胞診検査の依頼方法

細胞診検査専用依頼書 必要事項の記入要領

- 1) 提出日
- 2) 氏名、性別、年齢
- 3) 科名、担当医、カルテ No.
- 4) 検査材料の種類
- 5) 臨床診断 臨床経過 治療 その他臨床所見
 - ・婦人科材料の場合は、月経周期や妊娠・授乳の有無等
 - ・胸部 X 線像、喫煙歴等
 - ・前回提出日

細胞診検査材料の提出方法

- 1) 婦人科材料〔湿固定〕
 - ・乾燥しやすいので塗抹後直ちに湿固定してください。
- 2) 喀痰材料〔湿固定〕
 - ・細胞診容器に採痰し、容器ごと提出してください。
- 3) 液体材料
 - ・すみやかに遠心(1,500rpm、5～10min)をして沈渣を塗抹固定して下さい。
 - ・胸水、腹水、関節液等はフィブリンが析出しやすいので抗凝固剤を加えた容器に採取してください。
- 4) 擦過材料(気管支等)〔湿固定〕
 - ・ブラシ、綿棒等により病巣などを擦過しスライドガラスに塗抹固定してください。
 - ・擦過物は非常に乾燥しやすいので塗抹固定を迅速に行うことが必要です。
- 5) 針穿刺吸引材料(乳腺・甲状腺・肺・リンパ節・軟部腫瘍)〔湿固定・乾燥固定〕
 - ・穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス中央に静かに吹きだし、塗抹・固定してください。
 - 検体が微量なときは、もう1枚のスライドガラスを合わせてからはがし、2枚作製してください。
 - 検体が多量の場合は、引きガラス法で塗抹してください。

■標本の固定

固定は細胞の変性・融解などの変化を停止させる作業ですので、塗抹後直ちに固定する必要があります。

湿固定はパパニコロウ染色、PAS 染色などのための固定法で、乾燥固定はギムザ染色などのための固定法です。

固定の良否は採取部位・方法とともに細胞診判定内容を左右する重要な因子の一つですので、迅速な固定をお願いいたします。

- 1) 湿固定
 - ・塗抹したスライドガラスを95%エタノールに30分以上浸漬して固定してください。
 - ・湿固定にはコーティング固定法もあります。コーティング固定剤を使用する場合は、ムラが生じないように固定液を塗抹全面に十分に噴霧または滴下してください。
- 2) 乾燥固定
 - ・塗抹後直ちに、塗抹面を冷風ドライヤーなどで急速に乾燥させます。自然乾燥は乾燥ムラを生じるので不十分です。

特殊健診検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
-----	-----	-------------	----	----------	-----	--------	----------	------------	----

有機溶剤 関連

21730	尿中馬尿酸	尿 1	32	冷蔵	HPLC	g/l	5~7	—	トルエン
21740	メチル馬尿酸	尿 1	32	冷蔵	HPLC	g/l	5~7	—	キシレン
21750	マンデル酸	尿 1	32	冷蔵	HPLC	g/l	5~7	—	スチレン
21760	トリクロル酢酸 (テトラクロルエチレン)	尿 1	32	冷蔵	ガスクロマトグラ フィー法	mg/l	5~7	—	テトラクロルエチレン、 1,1,1-トリクロルエタン、 トリクロルエチレン
21770	トリクロル酢酸 (1,1,1-トリクロルエタン)					mg/l		—	
21780	トリクロル酢酸 (トリクロルエチレン)					mg/l		—	
21790	総三塩化物 (テトラクロルエチレン)	尿 1	32	冷蔵	ガスクロマトグラ フィー法	mg/l	5~7	—	
21800	総三塩化物 (1,1,1-トリクロルエタン)					mg/l		—	
21810	総三塩化物 (トリクロルエチレン)					mg/l		—	
21820	N-メチルホルムアミド	尿 2	32	冷蔵	ガスクロマトグラ フィー法	mg/l	5~7	—	NN-ジメチルホルムアミド
21830	2, 5-ヘキサンジオン	尿 3	32	冷蔵	ガスクロマトグラ フィー法	mg/l	5~7	—	ノルマルヘキサン

鉛 関連

1160	Pb(鉛)	ヘパリン加 血液 1.0	09	冷蔵	原子吸光分 析法	μ g/dl	5~7	—	特殊健康診断の場合、 基準値は設定されていま せん。
3050	δ -アミノレブリン酸 (δ -ALA)	尿 2	32	冷蔵	HPLC	mg/l	4~7	—	
3080	赤血球遊離プロトポル フィリン	ヘパリン加 血液 1.0	10	遮光 冷蔵	蛍光法 (Piomelli法)	μ g/dl·RBC	4~8	—	

※ 有機溶剤・鉛関連検査の測定値は、体内に有機溶剤・鉛の曝露の程度を見るものであり、通常の「正常値」・「異常値」の概念とは異なります。

遺伝子関連

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
HLA									
40310	HLA-A, B (血清 対応型タイピング)	EDTA2Na 血液 2.0	07	冷蔵	PCR-rSSO 法		4~7	—	曜日指定: 受託可能日は 月~金曜日までです。 続柄・臨床診断名・投与 薬剤名・輸血歴・移植歴 は必ず明記して下さい。 HLA検査2項目以上同時 依頼の場合は血液 2.0mlで検査可能です。 本検査方法ではコンタミ ネーションの影響がより大 きくなりますので検体採取 にあたっては、取り扱いに 十分ご注意ください。
40320	HLA-DR (血清対 応型タイピング)							—	
40330	HLA-DRB1 (DNAタイピング)							—	
40340	HLA-DQB1 (DNAタイピング)				PCR-SBT法		7~9	—	
40350	HLA-DPB1 (DNAタイピング)							—	
40360	HLA-A (DNAタイピング)							—	
40370	HLA-B (DNAタイピング)							—	
40380	HLA-C (DNAタイピング)							—	
40390	リンパ球混合培養 (MLC)							(受給者) 血液 20.0 (提供者) 血液 10.0 (非血縁 者)血液 10.0 (全てへパ リン加)	
40400	キメリズム解析移植 後 (PCR)	骨髓液 1 EDTA2Na 血液 7.0	11 05	冷蔵	PCR	6~9	—	移植前に「キメリズム解析 移植前レシピエント、ド ナー(PCR)」の検査を実 施して下さい	
	キメリズム解析移植 前レシピエント(PC R)	EDTA2Na 血液 7.0	05	冷蔵	PCR	6~9	—	必ず受給者、提供者ペア でご提出下さい	
	キメリズム解析移植 前ドナー(PCR)	EDTA2Na 血液 7.0	05	冷蔵	PCR	6~9	—		





遺伝子関連

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存 方法	検査法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
染色体検査									
40110	G-Banding	へパリン加 血液 3.0	09	冷蔵	G-band		12~ 20	2000 + 400 血液	<p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は月～金曜日までです。依頼書に臨床診断名および臨床所見等をご記入下さい。</p> <p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は月、火、金曜日です。依頼書に臨床診断名および臨床所見等をご記入下さい。</p>
40120	C-Banding				C-band		21~ 26		
40130	Q-Banding				Q-band				
40140	R-Banding				R-band				
40150	高精度分染法				高精度分染法				
40160	脆弱X染色体				G-Bandによる脆弱X染色体の検出				
40170	17染色体 (ミラーディカー症候群)				FISH		9~12		<p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼下さい。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査ではなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。</p> <p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は月～金曜日までです</p> <p style="font-size: small; color: red;">片親性ダイソミーの検索はできません。 曜日指定: 受託可能日は月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼下さい。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査ではなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。</p> <p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は月～金曜日までです</p> <p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼下さい。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査ではなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。</p> <p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は月～金曜日までです</p>
	13染色体						8~11		
	15染色体 (アンジェルマン症候群)						9~12		
	15染色体 (プラダーウィリ症候群)								
	18染色体		8~11						
	21染色体		9~12						
	22染色体 (22q11欠失)(CATCH22)conotruncal anomaly face症候群 velo-cardio-facial症候群 DiGeorge症候群								
	7染色体 (ウリアムス症候群)								
	X染色体		8~11						
	Y染色体								
40180	血液疾患染色体 G-Banding	骨髓液 1 又は へパリン加 血液 5.0	11 09	冷蔵	G-band		13~ 20	2000 + 400 血液	<p style="font-size: small; color: red;">曜日指定: 受託可能日は(血液、骨髓共に)月～金曜日です。該当する疾患名にてご依頼下さい。</p>

細胞性免疫検査

コード	項目名	検体量 (ml)	容器	保存方法	検査法	基準値・単位	所要日数	実施料判断料	備考	
細胞性免疫検査										
40010	薬剤によるリンパ球幼若化試験 (LST)	*1 薬剤 保存液加血液 15.0 ヘパリン加血液 2.0		09 と 50	室温	³ H-サイミジン 取込み能測定法	陽性: 200以上 疑陽性: 180~199 陰性: 179以下 %	6~9	290 免疫	曜日指定: 受託可能日は月~金曜日です。1 薬剤追加ごとに「保存液加血液」6mlと「ヘパリン加血液」2mlを追加してご提出下さい。P72参照。○1回の投与量の薬剤を検体と同時に提出下さい。○依頼書に薬剤名と1回投与量を必ずご記入下さい。○LST2薬剤以上ご依頼の場合、薬剤名の記入順を優先順位として検査を行います。○白血球数が3,000/μl以下の場合、倍量採血し、ご提出下さい。※採血容器につきましてはお問い合わせ下さい。※規制対象薬剤は受託不可
40510	T細胞・B細胞百分率	ヘパリン加血液 3.0		09	室温	T: 66~89 B: 4~13 %	4~7	210 免疫	曜日指定: 受託可能日は、月~金曜日です	
40520	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgA	ヘパリン加血液 1.0	1~3 %							
	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgD		1~10 %							
	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG		1~3 %							
	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgM		3~12 %							
	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) K		3~8 %							
	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) L		1~5 %							
40530	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	ヘパリン加血液 3.0		Two-Colorフローサイトメトリ	—	—	曜日指定: 受託可能日は、月~金曜日です。10項目以上依頼の場合は血液5.0ml採血して下さい			
40540	白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング(造血器悪性腫瘍細胞検査)			フローサイトメトリ	1000 血液					
40550	PHAによるリンパ球幼若化検査	ヘパリン加血液 5.0		13	³ H-サイミジン 取込み能	PHA+20500~56800 Control 127~456 cpm	8~10	290 免疫	曜日指定: 受託可能日は、月~金曜日です。	
40560	Con-Aによるリンパ球幼若化検査		Con-A+20300~65700 Control 127~456 cpm							
40570	NK細胞活性	保存液加血液 5.0	23	冷蔵	⁵¹ Cr遊離法	18~40(参考値) %		—		
40810	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカー/CD3	ヘパリン加血液 3.0	09	室温	フローサイトメトリ	58.0~84.0 %	4~7	220 免疫	曜日指定: 受託可能日は、月~金曜日です。10項目以上依頼の場合は血液5.0ml採血して下さい。	
40820	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカー/CD4					25.0~54.0 %				
40830	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカー/CD8					23.0~56.0 %				

容器一覧

No	容 器	備 考	No	容 器	備 考																				
01 分離剤入り			02 EDTA-2K入り																						
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td><td>9ml</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td></td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td><td>室温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>1年</td></tr> <tr><td>検査項目</td><td>生化学検査 免疫血清検査 内分泌検査 腫瘍マーカー その他</td></tr> </table>	採取量	9ml	添加剤		貯蔵方法	室温	有効期間	1年	検査項目	生化学検査 免疫血清検査 内分泌検査 腫瘍マーカー その他			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td><td>2ml</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2K 2.4mg</td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td><td>室温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>2年</td></tr> <tr><td>検査項目</td><td>ヘモグロビンA1c(HbA_{1c}) ヘモグロビンF</td></tr> </table>	採取量	2ml	添加剤	EDTA-2K 2.4mg	貯蔵方法	室温	有効期間	2年	検査項目	ヘモグロビンA1c(HbA _{1c}) ヘモグロビンF
採取量	9ml																								
添加剤																									
貯蔵方法	室温																								
有効期間	1年																								
検査項目	生化学検査 免疫血清検査 内分泌検査 腫瘍マーカー その他																								
採取量	2ml																								
添加剤	EDTA-2K 2.4mg																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	2年																								
検査項目	ヘモグロビンA1c(HbA _{1c}) ヘモグロビンF																								
03 EDTA-2K入り			04 フッ化Na入り																						
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td><td>2ml</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2K 2.4mg</td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td><td>室温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>2年</td></tr> <tr><td>検査項目</td><td>末梢血液一般検査 網状赤血球数 全血比重 直接クームス試験 不規則性抗体 アンモニア</td></tr> </table>	採取量	2ml	添加剤	EDTA-2K 2.4mg	貯蔵方法	室温	有効期間	2年	検査項目	末梢血液一般検査 網状赤血球数 全血比重 直接クームス試験 不規則性抗体 アンモニア			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td><td>2ml</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg</td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td><td>室温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>2年</td></tr> <tr><td>検査項目</td><td>グリコアルブミン 血糖(グルコース)</td></tr> </table>	採取量	2ml	添加剤	フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg	貯蔵方法	室温	有効期間	2年	検査項目	グリコアルブミン 血糖(グルコース)
採取量	2ml																								
添加剤	EDTA-2K 2.4mg																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	2年																								
検査項目	末梢血液一般検査 網状赤血球数 全血比重 直接クームス試験 不規則性抗体 アンモニア																								
採取量	2ml																								
添加剤	フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	2年																								
検査項目	グリコアルブミン 血糖(グルコース)																								
05 EDTA-2Na入り			06 EDTA-2Na入り																						
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td><td>7ml</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2Na 10.5mg</td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td><td>室温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>2年</td></tr> <tr><td>検査項目</td><td>抗利尿ホルモン(ADH) (アルギニンバソプレッシン) セロトニン(血漿) カテコールアミン3分画 L-ドーパ L-CAT</td></tr> </table>	採取量	7ml	添加剤	EDTA-2Na 10.5mg	貯蔵方法	室温	有効期間	2年	検査項目	抗利尿ホルモン(ADH) (アルギニンバソプレッシン) セロトニン(血漿) カテコールアミン3分画 L-ドーパ L-CAT			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td><td>10ml</td></tr> <tr><td>添加剤</td><td>EDTA-2Na 8mg</td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td><td>室温</td></tr> <tr><td>有効期間</td><td>2年</td></tr> <tr><td>検査項目</td><td>PAIgG(血小板関連IgG)</td></tr> </table>	採取量	10ml	添加剤	EDTA-2Na 8mg	貯蔵方法	室温	有効期間	2年	検査項目	PAIgG(血小板関連IgG)
採取量	7ml																								
添加剤	EDTA-2Na 10.5mg																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	2年																								
検査項目	抗利尿ホルモン(ADH) (アルギニンバソプレッシン) セロトニン(血漿) カテコールアミン3分画 L-ドーパ L-CAT																								
採取量	10ml																								
添加剤	EDTA-2Na 8mg																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	2年																								
検査項目	PAIgG(血小板関連IgG)																								

容器一覧

No	容器	備考	No	容器	備考
07	EDTA-2Na入り		08	EDTA-2Na+トラジロール入り	
		採取量 5ml 添加剤 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年 検査項目 アンジオテンシン I・II アルドステロン(血中) レニン活性 ACTH BNP HLA関連			採取量 3ml 添加剤 EDTA-2Na 4.5mg トラジロール(1500単位) 150μl 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 検査項目 グルカゴン VIP(ハリアクティブ腸管ペプチド) ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド 副甲状腺ホルモン関連蛋白
09	ヘパリン入り		10	ヘパリン入り(遮光)	
		採取量 5ml 添加剤 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 2年 検査項目 ビルメノール 染色体 クロム マンガン カドミウム アミノ酸分析		 (遮光)	採取量 5ml 添加剤 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 2年 検査項目 赤血球遊離プロトホルフィン ビタミンB1 ビタミンB2
11	保存液入り		12	除蛋白液1.0ml	
		採取量 5ml 添加剤 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態 使用してください。 検査項目 血液疾患染色体(骨髓液)他			採取量 1.0ml 添加剤 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年 検査項目 乳酸 ピルビン酸

容器一覧

No	容器	備考	No	容器	備考
13	ヘパリン入り		14	3.8%クエン酸Na入り	
		採取量 10ml			採取量 1.6ml
		添加剤 ヘパリンNa 90IU			添加剤 3.8%クエン酸Na 0.4ml
		貯蔵方法 室温 有効期間 2年			貯蔵方法 室温 有効期間 1年
		検査項目 血中コプロポルフィリン リンパ球混合培養(MLC) リンパ球幼若化検査 (PHA、Con-A)			検査項目 赤血球沈降速度(赤沈)
15	HIV専用		16	3.13%クエン酸Na入り	
		採取量 5ml			採取量 1.8ml
		添加剤 血清分離剤 凝固促進剤			添加剤 3.13%クエン酸Na 0.2ml
		貯蔵方法 室温 有効期間 1年			貯蔵方法 室温 有効期間 1年6ヶ月
		検査項目 HIV1抗体(WB) (HIV-1抗体価精密測定) HIV2抗体(WB) (HIV-2抗体価精密測定)			検査項目 PT、APTT、TT ヘパプラスチンテスト フィブリノーゲン 凝固因子活性検査 アンチトロンビンⅢ活性 Dダイマー 他
17	3.2%クエン酸Na入り		18	保存剤入り	
		採取量 4.5ml			採取量 10ml
		添加剤 3.2%クエン酸Na 0.5ml			添加剤
		貯蔵方法 室温 有効期間 1年6ヶ月			貯蔵方法 室温 有効期間 1年
		検査項目 凝固抑制因子 第Ⅷ因子 検査 第Ⅸ因子 ループスアンチコアグラント			検査項目 ミオグロビン

容器一覧

No	容 器	備 考	No	容 器	備 考
19 保存剤入り			20 除蛋白液入り		
		採取量 5ml 添加剤 1%BSA+ 0.1M HEPES buffer 貯蔵方法 室温 有効期間 6ヶ月 検査項目 尿中塩基性 フェトプロテイン(尿中BFP)			採取量 0.5ml 添加剤 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年 検査項目 ビタミンC(アスコルビン酸)
21 ノボヘパリン入り			22 凝固促進剤+血清分離剤入り		
		採取量 2ml 添加剤 ノボヘパリン 15IU 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 検査項目 エンドキシン定量 β-D-グルカン			採取量 3mlまたは5ml 添加剤 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 検査項目 HCV RNAコアジェノタイプ HBV-DNA定量PCR
23 保存液入り			24 抗血小板剤入り		
		採取量 5ml 添加剤 保存液 0.7ml 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 1年 検査項目 NK細胞活性			採取量 〔真空採血禁止〕 添加剤 テオフィリン アデニン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸 貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 1年6ヶ月 検査項目 β-トロンボグロブリン (β-TG) 血小板第4因子(PF-4)

容器一覧

No	容 器	備 考	No	容 器	備 考
25	金属分析用凝固促進剤入り		26	糞便容器	
		採取量 2ml 添加剤 (トロンピン等) 貯蔵方法 室温保存 有効 有効期間 1年 検査項目 アルミニウム 亜鉛			採取量 添加剤 貯蔵方法 室温 有効期間 検査項目 アデノウイルスDNA ロタウイルス抗原 虫卵(塗抹、集卵) 潜血反応
27	ポリチューブ 滅菌ポリスピッツ		28	酸洗浄済のポリスピッツ	
		採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目			採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目 金属検査
29	遮光ポリチューブ		30	尿用容器(遮光)	
		採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目			採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目
				尿用 10ml用、100ml用、250ml用、 500ml用、1000ml用、2000ml用	

容器一覧

No	容 器	備 考	No	容 器	備 考										
31	ヒトパピローマウイルスDNA型判定		32	滅菌スピッツ											
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td></tr> <tr><td>添加剤 保存液</td></tr> <tr><td>貯蔵方法 室温</td></tr> <tr><td>有効期間 1年</td></tr> <tr><td>検査項目 ヒトパピローマウイルス DNA型判定</td></tr> </table>	採取量	添加剤 保存液	貯蔵方法 室温	有効期間 1年	検査項目 ヒトパピローマウイルス DNA型判定			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量 10ml</td></tr> <tr><td>添加剤</td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td></tr> <tr><td>有効期間</td></tr> <tr><td>検査項目 尿検査等</td></tr> </table>	採取量 10ml	添加剤	貯蔵方法	有効期間	検査項目 尿検査等
採取量															
添加剤 保存液															
貯蔵方法 室温															
有効期間 1年															
検査項目 ヒトパピローマウイルス DNA型判定															
採取量 10ml															
添加剤															
貯蔵方法															
有効期間															
検査項目 尿検査等															
33	トロンビン+抗プラスミン剤入り		34	EDTA-2Na入り											
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量 2ml</td></tr> <tr><td>添加剤 トロンビン 抗プラスミン剤</td></tr> <tr><td>貯蔵方法 室温</td></tr> <tr><td>有効期間 2年</td></tr> <tr><td>検査項目 FDP(血中)</td></tr> </table>	採取量 2ml	添加剤 トロンビン 抗プラスミン剤	貯蔵方法 室温	有効期間 2年	検査項目 FDP(血中)			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量 5ml</td></tr> <tr><td>添加剤 EDTA-2Na</td></tr> <tr><td>貯蔵方法 室温</td></tr> <tr><td>有効期間 2年</td></tr> <tr><td>検査項目 シクロスポリン タクロリムス</td></tr> </table>	採取量 5ml	添加剤 EDTA-2Na	貯蔵方法 室温	有効期間 2年	検査項目 シクロスポリン タクロリムス
採取量 2ml															
添加剤 トロンビン 抗プラスミン剤															
貯蔵方法 室温															
有効期間 2年															
検査項目 FDP(血中)															
採取量 5ml															
添加剤 EDTA-2Na															
貯蔵方法 室温															
有効期間 2年															
検査項目 シクロスポリン タクロリムス															
35	便中ヘモグロビン専用スティック		36	アデノクロン測定用容器											
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td></tr> <tr><td>添加剤</td></tr> <tr><td>貯蔵方法</td></tr> <tr><td>有効期間</td></tr> <tr><td>検査項目 便中ヘモグロビン(LA法)</td></tr> </table>	採取量	添加剤	貯蔵方法	有効期間	検査項目 便中ヘモグロビン(LA法)			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>採取量</td></tr> <tr><td>添加剤 リン酸バッファー</td></tr> <tr><td>貯蔵方法 冷蔵</td></tr> <tr><td>有効期間 1年</td></tr> <tr><td>検査項目 アデノウイルス抗原</td></tr> </table>	採取量	添加剤 リン酸バッファー	貯蔵方法 冷蔵	有効期間 1年	検査項目 アデノウイルス抗原
採取量															
添加剤															
貯蔵方法															
有効期間															
検査項目 便中ヘモグロビン(LA法)															
採取量															
添加剤 リン酸バッファー															
貯蔵方法 冷蔵															
有効期間 1年															
検査項目 アデノウイルス抗原															

容器一覧

No	容 器	備 考	No	容 器	備 考	
37 ウイルス抗原DNA専用			38 プレパレート(スライドグラス)			
		採取量			採取量	
		添加剤			添加剤	
		貯蔵方法 有効期間	室温		貯蔵方法 有効期間	
		検査項目	アデノウイルスDNA クラミジアトラコマチスDNA 淋菌DNA(PCR)		検査項目	血液像 骨髄像 好中球アルカリフォスファターゼ (ALP染色スコア) LE細胞 鼻汁好酸球
39 保存液入り			40 滅菌喀痰採取容器			
		採取量			採取量	
		添加剤	尿安定化剤		添加剤	
		貯蔵方法 有効期間	遮光・室温 2年6ヶ月		貯蔵方法 有効期間	
		検査項目	尿中核マトリックス プロテイン22(NMP22)		検査項目	結核菌DNA(PCR) マイコバクテリウムアビウム・ イントラセラー(PCR) 精液検査
41 ぎょう虫検査セロファン			42 抗原検査採取キット			
		採取量			採取量	
		添加剤			添加剤	
		貯蔵方法 有効期間			貯蔵方法 有効期間	
		検査項目	蟻虫卵セロテープ		検査項目	単純ヘルペス特異抗原 水痘・帯状ヘルペス抗原

容器一覧

No	容 器	備 考	No	容 器	備 考	
43	クラミジアトラコマチス抗原専用		44	クラミジア・淋菌rRNA専用		
 <p style="text-align: center;">STD-PEN (男性用) STD-EZE (女性用)</p>			 <p style="text-align: center;">(男性用) (女性用)</p>			
			採取量			
			添加剤 保存液	1ml		
			貯蔵方法 有効期間	室温 1年		
検査項目 クラミジアトラコマチス抗原〔EIA〕			検査項目 クラミジアトラコマチスrRNA 淋菌rRNA			
45	尿中GH専用		46	ヒト癌胎児性フィブロネクチン専用		
						
採取量 5ml			採取量			
添加剤			添加剤 抽出液			
貯蔵方法 有効期間			貯蔵方法 室温 有効期間 1年			
検査項目 尿中GH			検査項目 ヒト癌胎児性フィブロネクチン			
47	リアルタイムPCR専用①		48	リアルタイムPCR専用②		
						
採取量 8ml			採取量 8ml			
添加剤 凝固促進剤 血清分離剤			添加剤 EDTA-2K 血漿分離剤			
貯蔵方法 室温 有効期間 1年			貯蔵方法 室温 有効期間 1年			
検査項目 HCV-RNA定量(RT-PCR) HIV-1定量(RT-PCR)			検査項目 HBV-DNA(RT-PCR)			

容器一覧

No	容 器	備 考	No	容 器	備 考																				
49	リン酸バッファー入り		50	LST専用																					
																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">採取量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td>抽出液(リン酸バッファー)</td> </tr> <tr> <td>貯蔵方法</td> <td>室温 (抽出液は冷蔵)</td> </tr> <tr> <td>有効期間</td> <td>1年</td> </tr> <tr> <td>検査項目</td> <td>子宮頸管粘液中顆粒球 エラスターゼ</td> </tr> </table>			採取量		添加剤	抽出液(リン酸バッファー)	貯蔵方法	室温 (抽出液は冷蔵)	有効期間	1年	検査項目	子宮頸管粘液中顆粒球 エラスターゼ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">採取量</td> <td>7.5ml</td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td>CPD</td> </tr> <tr> <td>貯蔵方法</td> <td>室温</td> </tr> <tr> <td>有効期間</td> <td>1年</td> </tr> <tr> <td>検査項目</td> <td>薬剤によるリンパ球 幼若化試験(LST)</td> </tr> </table>			採取量	7.5ml	添加剤	CPD	貯蔵方法	室温	有効期間	1年	検査項目	薬剤によるリンパ球 幼若化試験(LST)
採取量																									
添加剤	抽出液(リン酸バッファー)																								
貯蔵方法	室温 (抽出液は冷蔵)																								
有効期間	1年																								
検査項目	子宮頸管粘液中顆粒球 エラスターゼ																								
採取量	7.5ml																								
添加剤	CPD																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	1年																								
検査項目	薬剤によるリンパ球 幼若化試験(LST)																								
51	抗プラスミン剤入り(尿中FDP用)		52	便中Hb-TF専用																					
																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">採取量</td> <td>2ml</td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td>アプロチニン デヒドロ酢酸ナトリウム 精製ゼラチン</td> </tr> <tr> <td>貯蔵方法</td> <td>室温</td> </tr> <tr> <td>有効期間</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>検査項目</td> <td>FDP(尿中)</td> </tr> </table>			採取量	2ml	添加剤	アプロチニン デヒドロ酢酸ナトリウム 精製ゼラチン	貯蔵方法	室温	有効期間	3年	検査項目	FDP(尿中)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">採取量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td>保存液</td> </tr> <tr> <td>貯蔵方法</td> <td>室温</td> </tr> <tr> <td>有効期間</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>検査項目</td> <td>便中ヘモグロビン及び トランスフェリン(Hb-TF)</td> </tr> </table>			採取量		添加剤	保存液	貯蔵方法	室温	有効期間	3年	検査項目	便中ヘモグロビン及び トランスフェリン(Hb-TF)
採取量	2ml																								
添加剤	アプロチニン デヒドロ酢酸ナトリウム 精製ゼラチン																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	3年																								
検査項目	FDP(尿中)																								
採取量																									
添加剤	保存液																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	3年																								
検査項目	便中ヘモグロビン及び トランスフェリン(Hb-TF)																								
53	ヒトパピローマウイルスDNA専用①		54	ヒトパピローマウイルスDNA専用②																					
																									
(一般用)			(妊婦用)																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">採取量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td>保存液</td> </tr> <tr> <td>貯蔵方法</td> <td>室温</td> </tr> <tr> <td>有効期間</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>検査項目</td> <td>ヒトパピローマウイルスDNA ハイリスクグループ ローリスクグループ</td> </tr> </table>			採取量		添加剤	保存液	貯蔵方法	室温	有効期間	3年	検査項目	ヒトパピローマウイルスDNA ハイリスクグループ ローリスクグループ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">採取量</td> <td></td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td>保存液</td> </tr> <tr> <td>貯蔵方法</td> <td>室温</td> </tr> <tr> <td>有効期間</td> <td>3年</td> </tr> <tr> <td>検査項目</td> <td>ヒトパピローマウイルスDNA ハイリスクグループ ローリスクグループ</td> </tr> </table>			採取量		添加剤	保存液	貯蔵方法	室温	有効期間	3年	検査項目	ヒトパピローマウイルスDNA ハイリスクグループ ローリスクグループ
採取量																									
添加剤	保存液																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	3年																								
検査項目	ヒトパピローマウイルスDNA ハイリスクグループ ローリスクグループ																								
採取量																									
添加剤	保存液																								
貯蔵方法	室温																								
有効期間	3年																								
検査項目	ヒトパピローマウイルスDNA ハイリスクグループ ローリスクグループ																								

容器一覧

No	容器	備考	No	容器	備考
55	STD採取セット①		56	STD採取セット②	
		採取量 2ml 添加剤 ラウリル硫酸リチウム 添加剤 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 検査項目 淋菌・クラミジアトラコマティスrRNA 同時同定			採取量 適量 添加剤 ラウリル硫酸リチウム 添加剤 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 検査項目 淋菌・クラミジアトラコマティスrRNA 同時同定
	(尿用)			(分泌物用)	
57			58		
		採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目			採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目
59			60		
		採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目			採取量 添加剤 貯蔵方法 有効期間 検査項目

専用容器の取り扱い方法

尿素呼気試験の採取説明

(準備)呼気採取前[#]の呼気採取バック2個(1回分)にご施設名と患者名を明記し、「服用前」又は「服用後」のいずれかに必ずチェックを入れて下さい。

※呼気採取後に記入されますとバックを破損する可能性がありますのでご注意願います。ボールペンなどの鋭利なものではなくサインペンなどでご記入下さい。



ヘルペスウイルス抗原検査の採取説明

該当項目

水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原
単純ヘルペスウイルス特異抗原

容器番号

No.42 抗原検査採取キット

検体の採取方法

病巣基底細胞が多数得られるように採取してください。

早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液および膿は、検体として不適當です。

- ①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剝がします。(図1)
- ②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセット等で除去します。(図2)
- ③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
- ④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3)

●注意

膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取してください。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意してください。

操作法

■検体の塗抹

- ①綿棒を回転させながら単純ヘルペス抗原(HSV-1 と HSV-2)はスライドガラス上の2個の円内に塗りつけ、水痘・帯状ヘルペス抗原(VZV)は1個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドガラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意してください。(図4)
 - ②綿棒を捨てる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
 - ③そのまま風乾します。
 - ④乾燥したスライドガラス上に十分な量(検体にゆきわたる)のアセトンを追加し、蒸発させます。
 - ⑤輸送用ケースにスライドを入れ、テープ等で固定し凍結にてご提出ください。
- 検体はスライドガラス1枚を提出してください。

図1

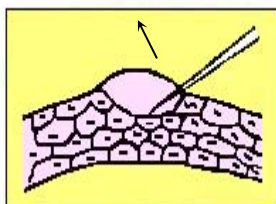


図2

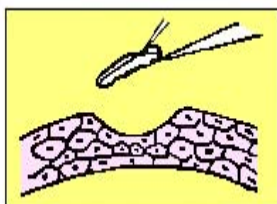


図3

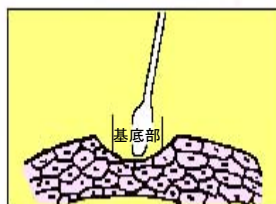
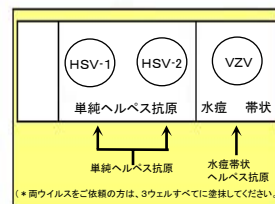


図4



専用容器の取り扱い方法

クラミジアトラコマチス抗原[EIA]の採取説明

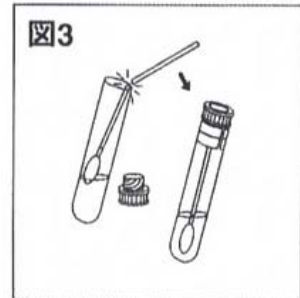
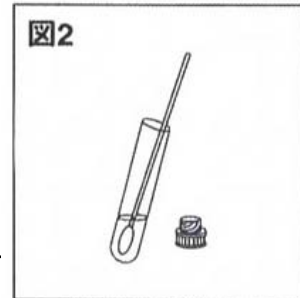
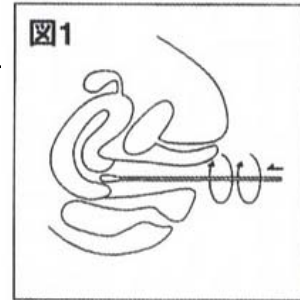
容器番号

No.43 STD-EZE(女性用)、STD-PEN(男性用)

検体の採取方法

〈子宮頸管採取法〉

- 1) 膣鏡を用いて、露出した子宮腔部(外子宮口を中心にして)をガーゼまたは綿棒で軽く清拭し、過剰な粘液を除去します。
 - 2) 専用綿棒を外子宮口部より子宮頸管内に挿入し、5~10秒間回転させて上皮細胞を採取します。(図1)
 - 3) 綿棒を腔壁に接触しないようにして、引き抜きます。
 - 4) 検体採取後、綿棒を専用容器の希釈液の中に入れます。(図2)
 - 5) 綿棒軸には綿球の先端より約5cmの位置にスリットがありますので、このスリットを容器口にあてて折り、綿球を入れたまま密栓してください。(図3)
 - 6) 密栓後、冷蔵保存してください。
- 注: 綿球の先端を子宮頸管内に強く挿入したり、押しつけながら強く擦過すると、スリットの位置で綿棒軸が折れる可能性がありますのでご注意ください。



〈男子初尿採取法〉

- 1) 検体採取の少なくとも1時間前より排尿しないでください。
 - 2) 初尿約10mlを採尿カップに採取します。
 - 3) 採尿後、1,500~2,500G(ローター回転半径15~25cmの遠心器3,000rpm)で15分間遠心分離します。
 - 4) 遠心分離後、上清を捨て沈渣を残します。
 - 5) 沈渣に専用容器中の希釈液を全て加えてよく攪拌します。
 - 6) 専用容器に移し換えて冷蔵保存してください。
- 注: 専用容器のため、他項目との重複依頼は避けてください。

薬剤によるリンパ球幼若化試験(LST)の留意点

月曜日から金曜日までの受付となります。検体量は、1薬剤につきヘパリン加血液で2ml(1本)、保存液加血液15ml(2本)をご提出下さい。又、1薬剤追加につき、ヘパリン加血液2mlと保存液加血液6mlを追加して下さい。

(本案内書表記の血液量でも、検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。特に2薬剤以上のご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示下さい。ご指示のない場合は、依頼書上にご記入頂いた順に従って検査させていただきます。)

検体と同時に1回投与量の薬剤をご提出下さい。薬剤が粉末の物は粉末を、油性薬剤でも粉末があるものは粉末を、座薬、シロップ剤で粉末またはカプセルのあるものは粉末またはカプセルをご提出下さい。

※リンパ球保存容器は、別途お届け致しますのでご連絡下さい。

専用容器の取り扱い方法

クラミジアトラコマチス・淋菌DNAの採取説明

容器番号

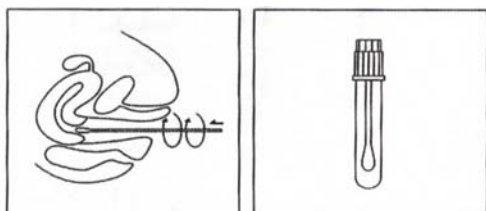
No.37 クラミジアトラコマチス・淋菌DNA(PCR)

検体の採取方法

〈子宮頸管(女性)からの採取〉

- 1) 付属の滅菌綿棒で子宮頸部入り口の粘液を除去します。
- 2) 採取容器の滅菌綿棒を用いて、子宮頸部に綿棒が見えなくなるまで挿入します。
- 3) 3～5秒回転させ、腔内壁に触れないように、綿棒を引き抜きます。
- 4) 綿棒を採取容器に入れ、固く栓をしてください。
- 5) 容器は冷蔵保存してください。

注：検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。



男性の場合には、PCR反応阻害物質の影響が稀にみられる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。

クラミジアトラコマチスrRNA・淋菌rRNAの採取説明

容器番号

No.44 クラミジアトラコマチスrRNA・淋菌rRNA

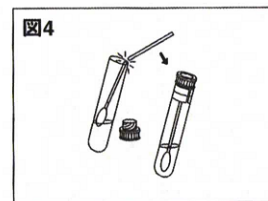
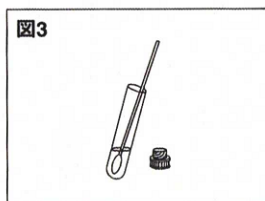
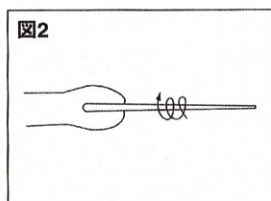
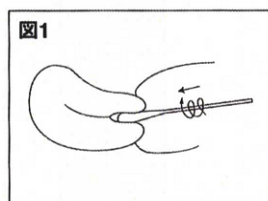
検体の採取方法

〈子宮頸管からの採取〉

- 1) 1本目のスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を取り除きます。
- 2) 2本目のスワブを子宮頸管内の1～1.5cm挿入し、10～30秒間ゆっくりと回転させ、擦過物を採取します。(図1)
- 3) 検体を採取したスワブの先が腔壁等に触れないように注意しながら取り出します。
- 4) 検体を採取したスワブを専用容器に入れます。(図3)
- 5) スワブの軸を専用容器の高さに合わせて折り(この際、液が飛散らないように注意してください)、スワブを入れたまま専用容器のキャップをしっかりと締め、冷蔵保存にてご提出ください。(図4)

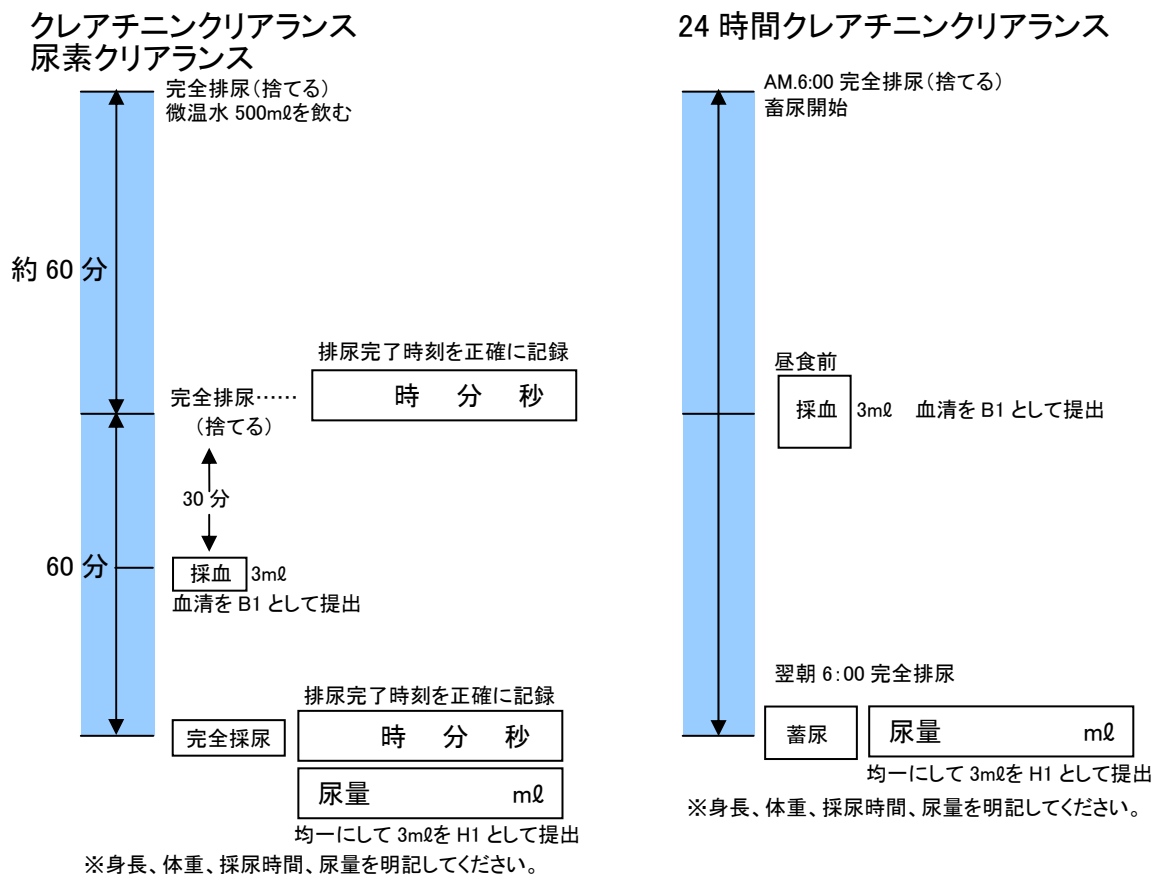
〈男子尿道からの採取〉

- 1) 検体採取1時間前までに排尿を済ませてください。
 - 2) 外尿道口部よりスワブをゆっくりと回転させ、2～4cmまで徐々に挿入します。(図2)
 - 3) スワブを2～3秒間そのままの状態に置き、擦過物を採取します。
 - 4) 検体を採取したスワブを専用容器に入れます。(図3)
 - 5) スワブの軸を専用容器の高さに合わせて折り(この際、液が飛散らないように注意してください)、スワブを入れたまま専用容器のキャップをしっかりと締め、冷蔵保存にてご提出ください。(図4)
- 注：綿棒には検体採取後の搬送のため、綿球の先端より8cmの位置にスリットが入っています。検体採取時に力を入れ過ぎますとこのスリット部分に負荷がかかり、軸が折れる可能性がありますので十分ご注意ください。



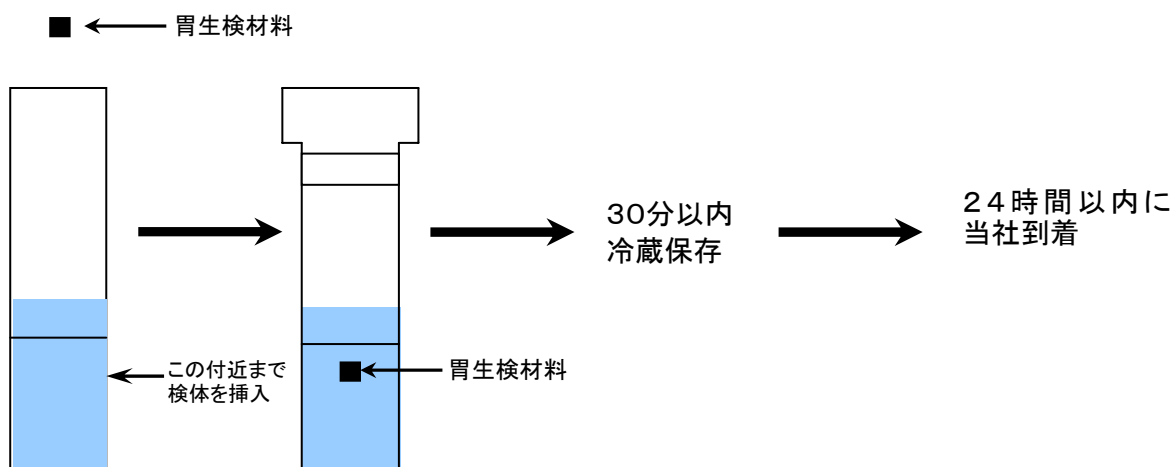
検体取り扱い方法と専用容器

クレアチニン及び尿素クリアランス検査採取方法



ヘリコバクター・ピロリ培養同定採取方法

- 採取した「胃生検材料」を直ちに培地中央部付近まで挿入してください。
- 検体は30分以内に冷蔵保存し、24時間以内に輸送してください。



動脈硬化性疾患診療ガイドライン抜粋

[高脂血症の診断基準(血清脂質値:空腹時採血)]

高コレステロール血症	総コレステロール(TCH) $\geq 220\text{mg/dl}$
高LDL-Cコレステロール血症	LDL-Cコレステロール $\geq 140\text{mg/dl}$
高HDL-Cコレステロール血症	HDL-Cコレステロール $< 40\text{mg/dl}$
高トリグリセリド血症	トリグリセリド(TG) $\geq 150\text{mg/dl}$

[患者をLDL-Cコレステロール値以外の主要冠危険因子の数により分けた6群の患者カテゴリーと管理目標値]

患者カテゴリー			脂質管理目標値(mg/dl)				その他の危険因子の管理		
			TCH	LDL-C	HDL-C	TG	高血圧	糖尿病	喫煙
A	なし	0	< 240	< 160	≥ 40	< 150	高血圧 学会の ガイドライン による	糖尿病 学会の ガイドライン による	禁煙
B1		1	< 220	< 140					
B2		2	< 200	< 120					
B3		3	< 200	< 120					
B4		4以上	< 200	< 120					
C	あり		< 180	< 100					

* 冠動脈疾患とは、確定診断された心筋梗塞、狭心症とする。

** LDL-C以外の主要冠危険因子

- ① 加齢(男性 ≥ 45 歳、女性 ≥ 55 歳)
- ② 高血圧
- ③ 糖尿病
- ④ 喫煙
- ⑤ 冠動脈疾患の家族歴
- ⑥ 低HDL-C血症($< 40\text{mg/dl}$)

- 原則としてLDL-C値で評価し、TCH値は参考値とする
- 脂質管理は先ずライフスタイルの改善から始める
- 脳梗塞、閉塞性動脈硬化症の合併はB4扱いとする
- 糖尿病があれば他に危険因子がなくともB3とする
- 家族性高コレステロール血症は別に考慮する

腫瘍関連検査の臨床的有用性

部位名または疾患名 検査項目名	肺	食道	胃	膵臓	大腸	肝臓	胆のう・胆道	乳房	卵巣	子宮	膀胱	前立腺	腎臓	甲状腺	リンパ腫	白血病	頭頸部癌	神経芽細胞腫	絨毛癌
CEA	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
塩基性フェトプロテイン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			
フェリチン	○			●		●	○	○							○	●			
β2-マイクログロブリン	○	○	●	○	●	○	○	○	○			○		○	●	●			
ポリアミン	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○		○	○			
TPA	●	○	○	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○			○	○		
抗P53抗体	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○	○								
α1-酸性糖蛋白	○		○	○	○	○	○				○	○	○		○	○			
CA19-9			○	●	○	○	●		○										
CA-50			○	●	○	○	●												
SPan-1				●		○	●												
エラスターゼ1				●															
DUPAN-2			○	●	○	●	●												
NCC-ST-439	○			●	○	○	○	●		○									
α-フェトプロテイン			○			●	○												
PIVKA II						●													
プロコラーゲンⅢペプチド	○					●													
NSE	●	○																	●
シアリルLex-i抗原	●			●	○	○	●		○	○									
サイトケラチン19フラグメント	●	○							○	○									
SCC抗原	●	●							○	●								●	
CA125	○		○	○				○	●	○									
CA72-4			○		○			○	●										
シアリルTn抗原			○		○			○	●										
BCA225								●											
CA15-3								●											
PAP												●							
PSA												●							
γ-Sm												●							
ER, PgR								●											
便潜血反応			○		●														
糞便中Hb-TF			○		●														
シアル酸	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○	○			
トリプシン				○															
PSTI	○	○	○	●		●	●		○		○	○							
HCG										○	○								●
HCG-β										○	○								●
ペプシノーゲンⅠ・Ⅱ			○																

(参考資料)

- ……臨床的有用性が高いとされているもの(陽性率60%以上、もしくは特異性の高いもの)
- ……臨床的有用性が確認されているもの(陽性率60%未満のもの)

特定薬剤治療管理料

薬剤名	検査項目	特定薬剤治療管理料 (同一患者月1回)		加算点 (初回月)	備考	
		1～3ヶ月	4ヶ月以降			
抗てんかん剤	フェノバルビタール、フェニトイン、カルバマゼピン、プリミドン、エスクシמיד、バルプロ酸、アセタゾールアミド、クロナゼパム、ニトラゼパム、ジアゼパム、ゾニサミド、クロバザム、トリメタジオン	470点	470点	280点 <small>(薬剤の投与を行った初回月のみ加算する)</small>	てんかんの患者であって2種類以上の抗てんかん剤を投与している患者について、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において2回に限り所定点数を算定できる。てんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数に関わらず1回に限り740点を算定する。	
ジギタリス製剤	ジゴキシン ジギトキシン				ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合は、所定点数に関わらず、1回に限り740点を特定薬剤治療管理料として算定する。	
不整脈用剤	プロカインアミド、N-アセチルプロカインアミド、ジソピラミド、キニジン、アプリンジン、リドカイン、塩酸ピルジカイニド、プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド、コハク酸シベンゾリン、ピルメノール			235点		
免疫抑制剤 (臓器移植)	シクロスポリン タクロリムス水和物			470点	2,740点 <small>(臓器移植を行った月を含め3月に限り加算する)</small>	
免疫抑制剤 (重症の再生不良性貧血、赤芽球癆) (パーチェット病)	シクロスポリン			470点		
アミノ配糖体 抗生物質 (入院中)	アミカシン、ゲンタマイシン、アルベカシン、トブラマイシン			235点	280点 <small>(薬剤の投与を行った初回月のみ加算する)</small>	
グリコペプチド系 抗生物質 (入院中)	バンコマイシン テイコプラニン					
テオフィリン	テオフィリン					
その他	メトトレキサート、サリチル酸、ハロペリドール、リチウム製剤、プロムペリドール					

※特定薬剤管理料は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合月1回に限り算定する。

※同一患者につき特定薬剤治療管理料を算定すべき測定および計画的な治療管理を月2回以上行った場合においては、特定薬剤治療管理料は1回とし、第1回の測定および計画的な治療管理を行った時に算定する。

※本管理料には薬剤の血中濃度測定、当該血中濃度測定に係る採血および測定結果に基づく投与量の管理に係る費用が含まれるものであり、1ヶ月のうちに2回以上血中濃度を測定した場合であっても、それに係る費用は算定できない。但し、別の疾患に対して別の薬剤を投与した場合はそれぞれ算定できる。(例: てんかんに対する抗てんかん剤と気管支喘息に対するテオフィリン製剤の両方を投与する場合)

※薬剤の血中濃度、治療計画の要点を診療録に記載する。

ウイルス検査一覧表[EIA・CF・HI・NT・FA]

数字は当社コードNoです。当社コードNo記入のある箇所が現在測定可能なウイルス検査です。

検査項目	実施料	EIA	CF	HI	NT	FA	
インフルエンザA型	80		15220	15240			
インフルエンザB型	80		15230	15250			
パラインフルエンザ1型	80			15270			
パラインフルエンザ2型	80			15280			
パラインフルエンザ3型	80			15290			
RS	80		15310		15320		
アデノ	80		15040				
アデノ 1型	80				15050		
アデノ 2型					15060		
アデノ 3型					15070		
アデノ 4型					15080		
アデノ 5型					15090		
アデノ 6型					15100		
アデノ 7型					15110		
アデノ 11型					15140		
アデノ 19型					15150		
アデノ 21型					15160		
アデノ 37型					15170		
エコー 1型		80				15410	
エコー 3型					15420	15430	
エコー 4型						15440	
エコー 6型					15460		
エコー 7型				15470	15480		
エコー 9型					15490		
エコー 11型				15510	15520		
エコー 12型				15530			
エコー 13型					15550		
エコー 16型					15570		
エコー 17型					15580		
エコー 25型					15640		
エコー 30型					15650		
コクサッキーA群 7型	80					15760	
コクサッキーA群 9型			15770		15780		
コクサッキーA群 16型					15800		
コクサッキーB群 1型			15850		15860		
コクサッキーB群 2型			15870		15880		
コクサッキーB群 3型			15890		15900		
コクサッキーB群 4型			15910		15920		
コクサッキーB群 5型			15930		15940		
コクサッキーB群 6型			15950		15960		

検査項目	実施料	EIA	CF	HI	NT	FA
ムンプス	80		16310	16320	16330	
ムンプスIgG	230	16340				
ムンプスIgM		16350				
ポリオ 1型	80		16100		16110	
ポリオ 2型	80		16120		16130	
ポリオ 3型	80		16140		16150	
日本脳炎	80		16210	16220		
風疹	80			16500		
風疹 IgG	230	16530				16510
風疹 IgM		16540				16520
麻疹	80		16410	16420	16430	
麻疹 IgG	230	16440				
麻疹 IgM		16450				
単純ヘルペス	80		16830			
単純ヘルペス 1型					16840	
単純ヘルペス 2型				16850		
単純ヘルペス IgG	230	16880				16860
単純ヘルペス IgM		16890				16870
水痘・帯状ヘルペス	80		16720			
水痘・帯状ヘルペス IgG	230	16770				16750
水痘・帯状ヘルペス IgM		16780				16760
サイトメガロ	80		17050			
サイトメガロ IgG	230	17080				17060
サイトメガロ IgM		17090				17070
EB 抗 VCA IgG	230	17410				17350
EB 抗 VCA IgM		17400				17370
EB 抗 VCA IgA	80					17360
EB 抗 EA-IgG	230	17390				
EB 抗 EA-DR IgG						17310
EB 抗 EA-DR IgM	—					17340
EB 抗 EA-DR IgA	80					17320
EB 抗 EBNA						17380
EB 抗 EBNA IgG	230	17420				
EB 抗 IgG抗体	230	17430				
EB 抗 IgM抗体		17440				
ヒトパルボB19 IgG	—	16600				
ヒトパルボB19 IgM	230	16610				

■ 同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
 同一検体についてウイルス抗体価の測定を行った場合には、8項目を限度として算定する。
 ウイルス抗体価測定とグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定とを併せて測定した場合は、いずれか一方の点数を算定する。

実施料のある項目の判断料はすべて免疫学となります。

ウイルス検査の検査法

ウイルス抗体の検査法

検査方法	特 徴
補体結合反応 (CF)	感染後の抗体価はHI法やNT法よりやや遅れて上昇し、比較的短時間に低下または消失する。ウイルス群特異的に検出されるため、スクリーニング検査として有用であるが、一般に感度が低く血清型の鑑別はできない。
赤血球凝集反応 (HI)	特異性が高く、ウイルス株特異抗体を検出することができる。感染後早期から抗体価が速やかに上昇し、長期間持続するため、患者の免疫状態の把握や疫学的調査に利用される。
中和反応 (NT)	ウイルスの感受性細胞への感染、増殖能を阻害する感染防御抗体(中和抗体)を検出する。感染後1週間ぐらいからほぼHI抗体価と並行して上昇し、長期間持続する。感度および型特異性が高く、ウイルス株の同定に使用される。
蛍光抗体法 (FA)	検出感度が高く、免疫グロブリン別(IgM、IgA、IgG [*])に測定できる。型特異性があり、ウイルス構成ペプチドに対する特異抗体の検出が可能である。
酵素免疫測定法 (EIA、ELISA)	検出感度が高く、免疫グロブリン別(IgM、IgA、IgG [*])に測定できる。他方に比べて感度が高く微量の抗体を検出することができ、しかも定量値を得ることができる。

※ IgM : 早期に出現し、短期間で消失する。

IgA : IgMよりやや遅れて出現し、IgMに比べ長期間持続する。

IgG : IgMより遅れて出現し、長期間持続する。

【ペア血清による診断】

急性期(発病後早期)と回復期(発病後 2~3 週間)にそれぞれ血液を採取し、ペア血清として同時に抗体価を測定し、特異抗体価の有意な上昇があるかどうかを確認する。一般に、ペア血清の抗体価が4倍以上上昇している場合に有意と判断し、そのウイルスによる感染があったものと判断する。

ウイルス抗体価

同一検体についてウイルス抗体価の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。ウイルス抗体価は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。

①アデノウイルス ②コクサッキーウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤エコーウイルス
⑥ヘルペスウイルス ⑦インフルエンザウイルス A 型⑧インフルエンザウイルス B 型 ⑨ムンプスウイルス
⑩パラインフルエンザウイルス I 型 ⑪パラインフルエンザウイルス II 型 ⑫パラインフルエンザウイルス III 型
⑬ポリオウイルス I 型 ⑭ポリオウイルス II 型 ⑮ポリオウイルス III 型 ⑯RSウイルス ⑰風疹ウイルス
⑱麻疹ウイルス ⑲日本脳炎ウイルス ⑳オーム病クラミジア

ウイルス抗体価にあたって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。単純ヘルペスウイルスおよび水痘・帯状疱疹ウイルス抗体価を測定した場合はそれぞれ算定できる。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定

同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。グロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価またはIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

ただし、⑦のヒトパルボウイルス B19は、紅斑が出現している妊婦について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

①水痘ウイルス ②風疹ウイルス ③サイトメガロウイルス ④EBウイルス ⑤麻疹ウイルス ⑥ムンプスウイルス ⑦ヒトパルボウイルス B19

同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体およびIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあつては、いずれか一方の点数を算定する。ウイルス抗体価と併せて測定した場合にあつては、いずれか一方の点数を算定する。

基準値一覧

リポ蛋白質分画定量

(単位 : mg/dl)

検査項目	Total	HDL	LDL	VLDL
リポ蛋白コレステロール分画定量	150 ~ 219	26.8 ~ 83.6	59.9 ~ 168.7	0.3 ~ 47.7
リポ蛋白トリグリセライド分画定量	40 ~ 170	5.8 ~ 31.8	8.8 ~ 34.8	0 ~ 151.7
リポ蛋白リン脂質分画定量	150 ~ 250	62.5 ~ 156.5	43.3 ~ 111.3	1.1 ~ 59.5

骨型アルカリフォスファターゼ

(単位 : U/L)

癌の骨転移	腎性骨異栄養症(線維性骨炎) 代謝性骨疾患	腎性骨異栄養症(無形性骨症)
男性 29.5 以上 女性 28.3 以上	男性 34.0 以上 女性 35.5 以上	男性 13.0 未満 女性 9.6 未満

ペプシノゲン

判定	測定値	
	PGI(ng/ml)	I / II 比
陰性 (-)	70.1 以上 または	3.1 以上*1
疑陽性 (±)	40.0 以下 または	2.5 以下*2
陽性 (+)	70.0 以下 かつ	3.0 以下*3
強陽性 (2+)	30.0 以下 かつ	2.0 以下

- *1 : 疑陽性 (±) 領域を除く
- *2 : 強陽性 (2+) および陽性 (+) 領域を除く
- *3 : 強陽性 (2+) 領域を除く

I 型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)(骨粗鬆症) (基準値、薬剤治療の指標)

(尿) (単位 : nmol BCE/mmol・CRE)

基準値	M	13.0 ~ 66.2	
	F	(閉経前)	9.3 ~ 54.3
		(閉経後)	14.3 ~ 89.0
指標	骨折リスクカットオフ値	54.3	
	骨量減少カットオフ値	35.3	

(血清) (単位 : nMBCE/L)

基準値	M	9.5 ~ 17.7	
	F	(閉経前)	7.5 ~ 16.5
		(閉経後)	10.7 ~ 24.0
指標	骨折リスクカットオフ値	16.5	
	骨量減少カットオフ値	13.6	

基準値一覧

デオキシピリジノリン(DPD)(骨粗鬆症)(基準値、薬剤治療の指標)

(単位 : nmol /mmol・CRE)

基準値	M	2.1 ~ 5.4
	F	2.8 ~ 7.6
指標	骨折リスクカットオフ値	7.6
	骨量減少カットオフ値	5.9

空腹時血糖値および75g糖負荷試験(OGTT)

空腹時血糖値および75g糖負荷試験(OGTT) 2時間値の判定基準 (静脈血漿値、mg/dl)

	正常域	糖尿病域
空腹時値 75gOGTT 2時間値	<110 <140	≥126 ≥200
75gOGTT の判定	両者を満たすものを正常型とする。	いずれかを満たすものを糖尿病型とする。
	正常型にも糖尿病型にも属さないものを境界型とする。	

随時血糖値≥200mg/dlの場合も糖尿病型とみなす。正常型であっても、1時間値が180mg/dl以上の場合、180mg/dl未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いので境界型に準じた取扱い(経過観察など)が必要である。

75gOGTTによる妊娠糖尿病の診断基準

	血糖値(mg/dl)		
	静脈血漿	毛細管血全血	静脈全血
空腹時値	≥100	≥80	≥80
1時間値	≥180	≥180	≥160
2時間値	≥150	≥150	≥140

以上のうち2つ以上を満たすものを妊娠糖尿病とする。

IGF-1

(単位 : ng/ml)

年齢(歳)	男子	女子
0	18~150	12~174
1~3 未満	11~172	37~229
3~5 未満	29~173	35~238
5~7 未満	64~203	74~230
7~9 未満	50~356	95~437
9~11 未満	87~405	60~514
11~13 未満	115~545	206~731
13~15 未満	178~686	216~798

年齢(歳)	男子	女子
15~17 未満	287~555	262~510
17~20 未満	219~509	264~542
20~30 未満	85~369	119~389
30~40 未満	67~318	73~311
40~50 未満	41~272	46~282
50~60 未満	59~215	37~266
60~70 未満	42~250	37~150
70 以上	75~218	38~207

基準値一覧

尿中GH (参考基準値:早朝尿)

性別	年齢(歳)	人数(人)	尿中GH濃度 (ng/g・Cr) (対数変換処理による計算値)				
			-2SD	-1SD	Mean	+1SD	+2SD
男子	2~3	15	6.0	11.5	21.9	41.7	79.4
	4~5	25	3.3	6.8	13.8	28.2	57.5
	6~7	36	6.0	10.2	17.4	29.5	50.1
	8~9	34	5.0	8.3	13.8	22.9	38.0
	10~11	33	2.7	5.6	11.7	24.5	51.3
	12~13	29	4.6	8.5	15.8	29.5	55.0
	14~15	26	3.4	6.8	13.5	26.9	53.7
	16~17	9	3.8	6.2	10.0	16.2	26.3
	18~19	8	1.8	3.4	6.3	11.7	21.9

性別	年齢(歳)	人数(人)	尿中GH濃度 (ng/g・Cr) (対数変換処理による計算値)				
			-2SD	-1SD	Mean	+1SD	+2SD
女子	2~3	8	17.0	26.9	42.7	67.6	107.0
	4~5	25	7.4	12.0	19.5	31.6	51.3
	6~7	27	8.1	12.6	19.5	30.2	46.8
	8~9	34	3.2	7.2	16.2	36.3	81.3
	10~11	37	6.0	10.2	17.4	29.5	50.1
	12~13	15	8.7	13.8	21.9	34.7	55.0
	14~15	21	2.8	5.4	10.5	20.4	39.8
	16~17	16	2.2	4.1	7.4	13.5	24.5
	18~19	9	2.5	3.6	5.3	7.6	11.0

GH(成長ホルモン) (血清)

(単位 : ng/ml)

年齢(歳)	男子	女子
0~1	0.62~4.22	0.97~5.01
2~3	0.83~2.96	0.52~3.53
4~5	0.34~3.40	0.52~3.75
6~7	0.13~2.23	0.33~3.18
8~9	0.20~2.24	0.18~2.28
10~11	0.07~1.39	0.07~1.66
12~13	0.14~2.16	0.17~1.89

年齢(歳)	男子	女子
14~15	0.08~2.25	0.06~1.43
16~17	0.03~0.61	0.02~1.54
18~19	0.03~0.95	0.08~3.07
20~29	0.13 以下	0.24~1.72
30~39	0.24 以下	0.51~1.85
40~49	0.13 以下	0.23~1.43

LH(黄体形成ホルモン)

(単位 : mlu/ml)

M:	0.8 ~ 5.7
F: 卵胞期	1.8 ~ 10.2
排卵期	2.2 ~ 88.3
黄体期	1.1 ~ 14.2
閉経後	5.7 ~ 64.3

FSH(卵胞刺激ホルモン)

(単位 : mlu/ml)

M:	2.0 ~ 8.3
F: 卵胞期	3.0 ~ 14.7
排卵期	3.2 ~ 16.6
黄体期	1.5 ~ 8.5
閉経後	157.8 以下

基準値一覧

カルシトニン (参考値)

(単位 : pg/ml)

年齢(歳)	男 子			女 子		
	平均値	標準偏差	例数	平均値	標準偏差	例数
20～29	61.8	13.7	44	49.0	9.8	26
30～49	75.5	22.3	12	37.9	10.4	35
50～69	56.0	19.7	11	37.8	8.1	47
70～89	37.6	5.7	19	36.4	9.7	56

I 型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)

(単位 : nmol BCE/mmol・CRE)

基準値(参考値)	男性	13.0 ~ 66.2
	閉経前女性	9.3 ~ 54.3
	閉経後女性	14.3 ~ 89.0
判定基準	骨吸収亢進の指標	55 以上
	副甲状腺摘出術の適応	200 以上
	悪性腫瘍(乳癌、肺癌、前立腺癌)の骨転移の指標	100 以上

骨型アルカリフォスファターゼ

(単位 : U/L)

癌の骨転移	腎性骨異栄養症(線維性骨炎) 代謝性骨疾患	腎性骨異栄養症(無形性骨症)
男性 29.5 以上 女性 28.3 以上	男性 34.0 以上 女性 35.5 以上	男性 13.0 未満 女性 9.6 未満

17-KS7 分画

(単位 : mg/day)

	男 性	女 性
アンドロステロン	1.10 ~ 4.20	0.40 ~ 3.00
エチオコラノン	0.55 ~ 2.60	0.30 ~ 2.50
デヒドロエピアンドロステロン	0.12 ~ 5.20	0.04 ~ 2.60
11-ケトアンドロステロン	0.12 以下	0.07 以下
11-ケトエチオコラノン	0.04 ~ 0.65	0.03 ~ 0.50
11-OH アンドロステロン	0.40 ~ 2.30	0.22 ~ 1.60
11-OH エチオコラノン	0.03 ~ 0.65	0.02 ~ 0.65

基準値一覧

アンドロステンジオン

(単位 : ng/ml)

年齢(歳)	男性	女性
20 ~ 29	1.2 ~ 2.5	1.1 ~ 3.9
30 ~ 39	1.0 ~ 3.2	0.9 ~ 3.5
40 ~ 49	1.0 ~ 2.9	0.6 ~ 2.2
50 ~ 59	1.0 ~ 2.5	0.3 ~ 2.1
60 以上	0.6 ~ 2.7	0.3 ~ 2.0

DHEA-S(デヒドロエピandroステロンサルフェート)

(単位 : μ g/dl)

年齢(歳)	男性	女性
18 ~ 20	24 ~ 537	51 ~ 321
21 ~ 30	85 ~ 690	18 ~ 391
31 ~ 40	106 ~ 464	23 ~ 266
41 ~ 50	70 ~ 495	19 ~ 231
51 ~ 60	38 ~ 313	8 ~ 188
61 ~ 70	24 ~ 244	12 ~ 133
71 ~	5 ~ 253	7 ~ 177

エストロゲン総(非妊婦)

(単位 : μ g/day)

女性	卵胞期	3 ~ 20
	排卵期	10 ~ 60
	黄体期	8 ~ 50
	閉経後	10 以下
男性		2 ~ 20

エストラジオール(E2) (血中値)

(単位 : pg/ml)

	検査項目		エストラジオール(E2)
	性別(性周期)		
非妊婦	女性	卵胞期 前期	20 ~ 85
		卵胞期 後期	25 ~ 350
		排卵期	50 ~ 550
		黄体期	45 ~ 300
		閉経後	21 以下
		男性	15 ~ 35

(単位 : pg/ml)

	週数	エストラジオール(E2)
妊婦	10 未満	600 ~ 3,600
	10~15	800 ~ 5,500
	16~20	3,200 ~ 20,000
	21~25	8,900 ~ 27,000
	26~30	7,900 ~ 35,000
	31 以上	11,000 ~ 49,000

基準値一覧

エストロゲン3分画(E1, E2, E3)

(非妊婦尿中値)

(単位 : $\mu\text{g/day}$)

性別(性周期)		検査項目	エストロン(E1)	エストラジオール(E2)	エストリオール(E3)
女性	卵胞期	前期	7.5 ~ 20.0	3.6 ~ 11.0	3.0 ~ 25.0
		後期	5.0 ~ 35.0	3.5 ~ 19.0	3.7 ~ 41.0
	排卵期		16.0 ~ 55.0	11.0 ~ 29.0	5.6 ~ 74.0
	黄体期		12.0 ~ 40.0	7.0 ~ 26.0	7.8 ~ 57.0
男性			15.0 以下	0.2 ~ 2.1	1.8 ~ 11.0

(妊婦尿中値)

(単位 : $\mu\text{g/day}$)

妊娠週数	エストロン(E1)	エストラジオール(E2)	エストリオール(E3)
21~24 週	410 ~ 2,630	369 ~ 1,270	6,700 ~ 23,700
25~28 週	465 ~ 3,140	368 ~ 1,500	8,250 ~ 31,500
29~32 週	379 ~ 3,360	582 ~ 1,500	9,450 ~ 33,400
33~36 週	445 ~ 3,960	561 ~ 2,530	11,500 ~ 74,200
37~40 週	465 ~ 5,490	683 ~ 3,130	17,400 ~ 87,300

プロゲステロン

(単位 : ng/ml)

非妊婦	女性	卵胞期	0.92 以下
		排卵期	2.36 以下
		黄体期	1.28 ~ 29.6
		閉経後	0.44 以下
妊婦	~ 20 週(妊娠前期)		13.8 ~ 51.1
	21 ~ 30 週(妊娠中期)		42.2 ~ 128
	31 ~ 週(妊娠後期)		65.2 ~ 221
男性			0.88 以下

フリーテストステロン (メーカー参考値)

(単位 : pg/ml)

年齢(歳)	男性	女性
20 ~ 29	8.5 ~ 27.9	2.7 以下
30 ~ 39	7.6 ~ 23.1	1.9 以下
40 ~ 49	7.7 ~ 21.6	1.1 以下
50 ~ 59	6.9 ~ 18.4	1.0 以下
60 ~ 69	5.4 ~ 16.7	—
70 ~ 79	4.5 ~ 13.8	—

基準値一覧

HCG(FEIA)

尿 (mIU/ml)		
男性	2.5 以下	
女性(非妊婦)	2.5 以下	
妊婦	～ 6 週	1,100 ～ 62,600
	7～10 週	1,800 ～ 191,000
	11～20 週	3,100 ～ 125,000
	21～40 週	1,400 ～ 29,400

HCG(CLIA)

基準値参考範囲(mIU/ml)		
男性	10 以下	
女性(非妊婦)	10 以下	
妊婦	1～2 週	50 ～ 500
	2～3 週	100 ～ 5,000
	3～4 週	500 ～ 10,000
	4～5 週	1,000 ～ 50,000
	5～6 週	10,000 ～ 100,000
	6～8 週	15,000 ～ 200,000
	2～3 ヶ月	10,000 ～ 100,000

D-アラビノール

	D-アラビノール(μ mol/l)		クレアチニン(mg/dl)		Dアラビノール/CRE 比	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
15 歳以下	0.7 ～ 5.9	0.5 ～ 5.3	0.5～1.3	0.4～0.9	0 ～ 0.8	0 ～ 0.8
16～65 歳	0 ～ 9.7	0 ～ 10.6			0 ～ 0.8	0 ～ 1.1
66 歳以上	0 ～ 27.9	0 ～ 18.4			0 ～ 2.2	0 ～ 1.9

ムンプス、風疹、麻疹、単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス、サイトメガロ

判定	IgG(EIA値)		IgM(抗体指数)
	血清	髄液	血清・髄液
(-)	2.0 未満	0.20 未満	0.8 未満
(±)	2.0 ～ 3.9	0.20 ～ 0.39	0.8 ～ 1.2
(+)	4.0 以上	0.40 以上	1.21 以上

抗EA IgG、抗VCA IgG・M、抗EBNA IgG

判定	抗体指数
(-)	0.5 未満
(±)	0.5 ～ 0.9
(+)	1.0 以上

EBウイルス IgG・M抗体

判定	インデックス値
	IgG・IgM
(-)	1.0 未満
(±)	1.0 ～ 2.0
(+)	2.1 以上

測定法概略

比色法(光電光度法)

測定しようとする成分を着色物質に変化させ、その色調を同様に処理した既知濃度の純粋物質溶液(標準液)の色調と比較して目的物質の濃度を測定するもので、吸光光度法によるものが主である。その原理は Lambert-beer の法則に基づいている。また、主として、補酵素の還元型 NADH、NADPH が 340nm に吸収を持つことを利用する方法として紫外部法(UV 法)があり、一般的に比色法として取り扱われる。

TIA(turbidimetric immunoassay)

抗原抗体反応複合体の混濁物に光を照射して複合体形成による透過光の減少率を確認するものである。これらから抗原あるいは抗体の量を測定するものである。

イオン選択電極法

試料中の特定イオンの濃度に対応して電位が変化する各イオン選択電極と、試料組成に関係なく一定の電位を保持する標準(比較)電極を組み合わせて化学電池を形成し、その起電力を測定することによって試料中の各イオン濃度を求める。

電気泳動法

血清蛋白の分画測定法の一つで、両性電解質である蛋白の溶液に電場を与えると、それぞれの荷電とは反対の電極に向かって移動する。この移動した蛋白を検査項目に応じて染色または発色させたのち、デンストメリーにより分画比を求める。免疫電気泳動では移動させた蛋白に対し、抗体を反応させ、最適比の所で現れた沈降線を確認するものである。

RIA法(Radioimmunoassay)

抗原抗体反応の特異性を利用し、放射性同位元素(RI)で標識された抗原と非標識抗原の抗体に対する競合反応から微量物質の特異的定量を行う方法である。標識抗原と抗体との反応に於て標識抗原・抗体結合物(B)の割合は、非標識抗原の量に逆比例する。したがって既知量の非標識抗原を順次添加し、Bの割合を算出すると標準曲線を得ることができる。次に試料のBの割合を求め標準曲線からその抗原量を求める。RIA 法は放射線量の測定という簡単な方法で微量物質の量が求められるのが特徴である。この方法はBと過剰の未結合標識抗原の分離が必要で下記のような方法がある。

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1) 硫酸塩析法 | 4) PEG(polyethyleneglycol)法 |
| 2) 2抗体法 | 5) エタノール沈殿法 |
| 3) DCC(dextran coated charcoal)法 | 6) 固相法 |

RIA 法の測定対象は、通常、抗原であることが多いが、ウイルス抗体価などの抗体の測定を目的とすることもある。

IRMA法(Immunoradiometric assay)

血液中に存在するホルモン等の物質を固相化された抗体に対し、抗原を結合させ、さらに標識抗体を反応させるサンドイッチ法である。

測定法概略

CPBA法(Competitive protein binding assay)

RI を標識した物質と、非標識物質を結合する特異結合蛋白と競合反応させた後、結合部分と遊離部分に分け、その放射線量を測定することによって目的物質の濃度を測定する。

RRA法(Radioreceptor assay)

薬物やホルモンなどの生理活性物質とそのレセプターとの反応を抗原抗体反応を用いて検出する方法である。生理活性物質の測定、レセプター異常の検索、レセプター抗体の検索および癌細胞のホルモン応答性を求めることを目的としている。

EIA法(Enzyme immunoassay)

EIA 法は抗原(または抗体)に酵素を結合させておき、その酵素活性をマーカーとして抗原抗体反応の程度を知り、これから目的物質の抗原(抗体)量を求める。固相化抗体を用いた場合は、ELISA (enzyme-linked immunosorbent assay)と呼ばれる。

CLEIA(chemiluminescent enzyme immunoassay)

原理は EIA と同様であるが、標識酵素の活性を化学発光にて検出する方法である。酵素による増幅効果と反応生成物を化学発光にて検出する高感度な方法である。

CLIA(chemiluminescent immunoassay)

抗原または抗体に標識物質として化学発光性化合物(ルミノール・インルミノール・アクリジニウム誘導体)を反応させ、抗原抗体反応後に bound または free 中の発光を測定する方法である。

ECLIA(electro chemiluminescent immunoassay)

抗体を結合させた磁気ビーズに抗原を反応させ、抗原抗体複合体を形成させる。さらに RU 錯体を標識した抗体を結合させて電気化学反応により発光した錯体量を測定するものである。

MEIA(microparticle enzyme immunoassay)

ポリマー微粒子であるマイクロパーティクルに固相化された抗体に対し、抗原を結合させた後、ガラスファイバーディスクを通過させ B/F 分離を行う。さらに標識抗体を反応させ、酵素反応により生成した蛍光強度を測定するものである。

FPIA法(Fluorescence polarization immunoassay)

蛍光標識抗原と抗体とを結合させると、蛍光標識抗原単独で存在する場合に比し蛍光偏光度が増加する。抗体と競合する非標識抗原すなわち測定すべき抗原が加わると、蛍光標識抗原と抗体との結合が少なくなり、蛍光偏光度が減少することから目的物質の抗原量を求める。

測定法概略

HPLC法(High performance liquid chromatography)

クロマトグラフィーは多成分混合系から各成分を分離分析する方法で、固定相の中を移動相とともに混合成分が移動する過程において、各成分が移動度の違いによって分離させる。HPLC は高密度充填カラムと高圧ポンプの組み合わせにより、高速、高精度の分離を可能とし超微量分析に適する。充填剤にはイオン交換型、逆相型、順相型そしてゲルろ過型などが用いられる。検出方法としては光学的方法(紫外、可視、蛍光分光計)や示差屈折率方式、電気的な方法がある。検体をカラムに注入してから一定時間(保持時間)を経て流出する物質を検出、記録し得られたクロマトグラムよりピークの高さまたはピーク面積を求め外部標準法、または内部標準法により目的物質の濃度を算定する。

GLC法(Gas liquid chromatography)

GLC では固定相として多孔性微粒子担体の表面に不揮発性の液体を保持させた充填剤が用いられる。カラムは測定物質が揮発するのに十分な高温を保持し、移動相にのって流れるあいだに、液相に対する溶解性の差によって分離させる。移動相が気体であるものをガスクロマトグラフィーと呼び充填剤としては、試料成分の構造が類似し、揮発性の差がある場合は無極性、逆に揮発性が同じで構造、極性が異なる場合は極性型を用いる。検出方法としては、水素炎イオン化検出器、熱伝導度検出器、電子捕獲検出器などがある。検体をカラムに注入してから一定時間を経て流出する物質を検出、記録し得られたクロマトグラムよりピークの高さまたはピーク面積を求めて外部標準法、または内部標準法により目的物質の濃度を算定する。

赤血球凝集反応(HA 法:Hemagglutination)

赤血球表面の抗原に対して種々の抗体を働かせて凝集をみる反応で、血液型判定や免疫同種抗体の検出などに用いられる。

赤血球凝集抑制反応(HI 法:Hemagglutination inhibition test)

赤血球凝集素に抗体が付着すると赤血球凝集が起こらなくなることを利用した抗体の測定法で、ウイルス検査で多く用いられる。

受身赤血球凝集反応(PHA 法:Passive hemagglutination)

測定する抗体に対応する抗原を赤血球に吸着させたものと被検血清を反応させ、凝集すれば抗体陽性となる。

逆受身赤血球凝集反応(RPHA 法:Reversed passive hemagglutination)

赤血球に抗原をつける PHA 法とは逆に抗体をつけて検体中の抗原を赤血球凝集反応を用いて測定する。

ラテックス凝集反応(LA 法:Latex agglutination)

ポリスチレンラテックス粒子に抗原又は抗体を吸着させ抗原抗体反応を行い、生成された凝集の有無を確認するものである。

測定法概略

LPIA法:(Latex photometric immunoassay)

ラテックス凝集反応を用いて抗原抗体反応を行い、生成された凝集塊を光学的に測定することにより、抗原又は抗体の量を測定する。

ネフェロメトリー法(Nephelometry)

試料に目的とする抗原に対応する抗体を加え、溶液内抗原抗体反応を行わせ生成する抗原抗体複合物にレーザー光をあてて、その光散乱強度を測定することにより目的物質の濃度を求める。

補体結合反応(CF 法:Complement fixation test)

抗原抗体複合物が補体を結合するという現象を利用した抗体価の測定法である。緒方法やウイルス感染症での診断に使われる。ヒツジ赤血球にそれに対する抗体である溶血素を結合させた感作血球に補体を加えると溶血が起こる。患者血清の倍数希釈列に一定量の抗原と補体を加え、一定時間反応させた後、感作血球を加える。血清中に対応する抗体があれば、抗原と結合し抗原抗体複合物ができ、それに補体が結合してしまうので感作血球を加えても溶血は起こらない。溶血を阻止する血清最高希釈倍数を補体結合抗体価とする。

中和反応(NT 法:Neutralization test)

ウイルス粒子に抗体が付着すると、そのウイルス粒子の感染性が失われることを利用した測定法である。抗体とウイルスによる抗原抗体複合体を培養細胞に接種し、細胞変性効果(CPE)を確認する。ウイルスの活性を50%阻止する所を中和抗体価とする。

一元免疫拡散法(SRID 法:Single radial immunodiffusion)

特異抗体を含む寒天板に穴を作り、抗原を添加すると周囲に拡散して沈降輪を生ずる。生じた沈降輪の直径または面積が抗原量に比例することを利用して目的物質の濃度を求める方法である。

オクタロニー法(Ouchterlony test)

二次元の方向に拡散する抗原と抗体が両者の間の最適比のところで沈降線を形成する。これを直接または洗浄、乾燥、染色して沈降線を観察する。特に抗原および抗体の定性的分析、ことに蛋白の同定操作にあり、未知の抗原の同定、純度の検定、抗血清の特異性の検索などに応用される。

間接蛍光抗体法(IFA 法(FA):Indirect fluorescent antibody technique)

まず標識していない抗体(一次抗体)と抗原を反応させておき、次に一次抗体に対する蛍光標識抗体(二次抗体:一次抗体が由来する動物種のIgGに対する蛍光抗体)を重ねて反応させ、生じた抗原・抗体・蛍光標識抗体結合物中の蛍光をトレースする方法である。本法は直接法に比し感度が高く、一次抗体が少量の場合に希釈できるだけ有利である。既知一次抗体を用いれば抗原の検出、又既知抗原を用いれば血清診断法に広く応用できる。

測定法概略

ウェスタンブロット法(Western blotting)

電気泳動により粗蛋白を分離し、その分離を保持したまま、ニトロセルロースなどに電気泳動的に転写させるものである。ニトロセルロース上に結合した抗原に抗体を反応させ、その抗体を抗イムグロブリン抗体もしくはプロテイン A に標識(蛍光色素・放射性同位元素・酵素)したものを反応させ検出するものである。

フローサイトメトリー法

フローサイトメトリーは検査する細胞浮遊液を一定の流束に入れ、1個ずつ細胞を連続的に流し、個々の細胞を分析する方法である。細胞マーカー(抗原)に特異的なモノクローナル抗体又は二次抗体を蛍光色素(FITC または PE)で標識しておき、細胞とあらかじめ反応させてからフロー部に流し、レーザー光を照射させる。前方散乱光(細胞の大きさのパラメータ)、側方散乱光(細胞の内部構造のパラメータ)及び蛍光強度から、特定のモノクローナル抗体と反応したリンパ球を百分率によって求める。

酵素抗体法(免疫組織染色)

組織切片上の抗原に対して抗体を反応させた後、酵素(通常は Peroxidase)を結合させ、酵素組織化学反応により可視化を行なう。

- 1) 間接法 抗原に対して一次抗体を反応させた後、酵素標識二次抗体を反応させて発色を行う。
- 2) ABC 法 抗原に対して一次抗体を反応させた後、ビオチン標識二次抗体を反応させ、さらに Peroxidase 標識のアビジン-ビオチン complex を加えた後、発色させる。
- 3) PAP法 抗原に対して一次抗体を反応させた後二次抗体を反応させ、さらに Peroxidase——Anti-peroxidasecomplexを加え発色する。

PCR法(Polymerase chain reaction)

DNA ポリメラーゼが1本鎖 DNA を鋳型として相補的な DNA を合成することを利用し、目的の DNA 領域を合成・増幅する方法である。

まず熱を加えて2本鎖 DNA を1本鎖にし、プライマー(反応開始剤)を加えて温度を下げる。次に耐熱性ポリメラーゼを加えると1本鎖 DNA を鋳型としてプライマーから DNA が合成される。このことを数十回繰り返すことによって、目的の DNA 領域を合成・増幅する。

RT-PCR法(Reverse transcription-polymerase chain reaction)

逆転写酵素(RT)によってウイルス・RNAに相補的な cDNA をつくった後に、PCR 法同様 DNA ポリメラーゼ反応を利用して目的の DNA 領域を合成・増幅させ、RNA の存在を確認する方法である。

LCR(ligase chainreaction)

耐熱性の DNA 連結酵素である ligase を用い、これにサーマルサイクリングを応用して PCR 同様、目的の DNA 領域を合成・増幅させる。1本鎖 DNA を鋳型として相補的な DNA を合成させ測定するものである。

測定法概略

分岐 DNA プローブ法

対象 DNA/RNA に反応する分岐鎖を有する合成 DNA プローブを用いて測定するもので、分岐鎖に対して標識プローブを結合させてシグナルを増幅し発生となる分岐鎖を増幅し、化学発光検出するものである。

RT-nested PCR(reverse transcriptase polymerase chainreaction)

RNA を鋳型とし、逆転写酵素により相補的な DNA(cDNA)を合成する。あらかじめ設定した一組のプライマーで PCR により標的 DNA を増幅した後、増幅領域の内側に設定したもう一組のプライマーで二段階の増幅を行うものである。

FISH(fluorescence in situ hybridization)

遺伝子 DNA やゲノム断片に蛍光物質を標識したものをプローブとし、染色体や細胞内の DNA と hybridize し、生じたものをシグナルとして蛍光顕微鏡にて検出する。

各種band法

リンパ球を培養し、低張処理・固定の後細胞浮遊液をスライドガラス上に展開する。この細胞に各染色液を反応させ検鏡・写真解析を行う。

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
総蛋白	Leonard,T.S.,et al.,Clin.Chem. 10,918 (1964).	
アルブミン	[BCG法] B.T.Doumas,Clin.Chem.Acta 31,87 (1971).	
A/G比	Leonard,T.S.,et al.,Clin.Chem. 10,918 (1964).B. T.Doumas,Clin.Chem.Acta 31,87 (1971).	
血清蛋白分画	日本臨床 P159上 (1995).	S
体液蛋白分画		
TTT	北村元仕,実践臨床化学 1版, 224, 医歯薬出版 (1984).	
ZTT		
クレアチン	今野 稔: Medical Technology, 12(3), 270 (1984).	B
クレアニチン	日本臨床 P464上 (1995).	
尿素窒素	日本臨床 P473上 (1995).	
尿酸	日本臨床 P469上 (1995).	
残余窒素	日本臨床 P473上 (1995).	
アンモニア	試薬キット添付文書参照	
α_1 -マイクログロブリン	伊藤善久: medicina 36(11): 196~197, 1999 増刊号	B
KL-6	西村 順 他, 医学と薬学 41, 1159 (1999)	S
ミオシンL1	矢崎義雄,他: 最新医学 44 (8) 1708 (1989).	B
心筋トロポニンT	高木 康,他: 医学と薬学, 26 497 (1991)	B
ミオグロビン	山成 洋,他: 日本臨床 57(増刊):253~255, 1999	B
	吉川文雄,他: 医学と薬学 37 (5):1243~1253, 1997	B
プロコラーゲンⅢペプチド	上野隆登他, 医学と薬学 24(3), 675 (1990).	S
Ⅳ型コラーゲン	重村雅彦,他: 日臨検自動化会誌 28, 513, 2003.	M
Ⅳ型コラーゲン・7S	長田篤雄,他: 医学と薬学 20(6): 1507~1515, 1988	S
ヒアルロン酸	島村 朗,他:医学と薬学 44(6): 1141~1146, 2000	M
アミノ酸分析	日本生化学会: 生化学実験講座 11 アミノ酸代謝と生体アミン 1 版: 53~67, 1976	S
総ヒドロキシプロリン	鈴木隆夫,他: 日本臨床化学会年会記録 28: 118~118, 1988	S
3-メチルヒスチジン	Fujiwara M,et al:Analytical Biochemistry 166: 72~78, 1987	S
尿素クレアチン	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第29版, 809, 金原出版 (1983).	
クレアチニンクレアチン	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第29版, 806, 金原出版 (1983).	
結石分析(成分比率)	神 ちひろ,他: 分析化学 53(7):735~741, 2004	S
Na(ナトリウム)	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第29版, 553, 金原出版 (1983).	
	大橋俊子他, 臨床検査機器・試薬 11(2), 225 (1988).	
Cl(クロール)	日本臨床 P758上(1995).	
	大橋俊子他, 臨床検査機器・試薬 11(2), 225 (1988).	
K(カリウム)	日本臨床 P753上(1995).	
	大橋俊子他, 臨床検査機器・試薬 11(2), 225 (1988).	
浸透圧	鈴木 明,他: 検査と技術 6(9):1978	S
Ca(カルシウム)	日本臨床 P769上(1995).	
イオン化カルシウム	桑 克彦: 検査と技術 19(2): 119~124, 1991	S
Mg(マグネシウム)	古田政彦: 日本臨床, 秋季増刊号 上巻 453 (1985)	B
	藤田拓男: 血液,尿化学検査, 275 (1980),	B
P(IP)(無機リン)	日本臨床 P772上 (1995).	
Cu(血清銅)	長谷川浩子,他: 機器・試薬 19, 814, 1966.	M
Cu(尿中銅)	奥田 稔,林 康之: 臨床病理(特集第17号), 84, 1970.	M
Fe(血清鉄)	日本臨床 P804上(1995).	
Fe(尿中鉄)	溝口秀昭: 臨床医 8(10):1624~1626, 1982	S
TIBC[比色法]	日本臨床 P812上 (1995).	
UIBC[比色法]		
TIBC(RI)	吉川文雄,他: 医学と薬学 37(6):1443~1456, 1997	S
UIBC(RI)		S
Al(アルミニウム)	Mazzeo-Farina,A. and Cerulli,N.:Chim.Acta 147,247, 1985	M

測定法の基礎的文獻

検査項目	測定法基礎的文獻	最終検査委託先
Zn(亜鉛)	松本武志,金井 晃：検査と技術 9, 478, 1981.	M
Mn(マンガン)	Tsalev P.L,et al:Contau.Toxi.Caly.6:660, 1977	B
Cd(カドミウム)	Lagesson,V. and Andrasko,L.:Chin.Chem. 25,1948, 1979.	M
Pb(鉛)	原田 章,他：鉛 健康診断のすすめ方 全衛連：50~66, 1990	M
総ビリルビン	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第29版, 726, 金原出版(1983).	
直接ビリルビン		
中性脂肪	日本臨床 P606上(1995).	
エステル型コレステロール	Richmond W:Clinical Chemistry 19(12):1350~1356, 1973	S
遊離コレステロール		S
総コレステロール	日本臨床 P615上(1995).	
HDLコレステロール	日本臨床 P617上(1995).	
LDLコレステロール定量	試薬添付文章参照	
総脂質	金井正光,他：臨床検査法提要 第29版, 453(1983)	B
	小林一仁美：Medical Technology, 18(12)臨時増刊(1980)	B
遊離脂肪酸	柏森裕三,他：検査と技術 15(6):706~710, 1987	B
リン脂質	岡部和彦,藤井 守：日本臨床, 43巻 秋季増刊号187(1985)	B
β -リポ蛋白	金井 泉：臨床検査法提要 27版:475,(1975)	B
	伊東宣言則：Medical Technology, 18(12)臨時増刊(1980)	B
リポ蛋白分画	芝 紀代子：臨床検査, 29(11) 133(1985)	B
リポ蛋白分画精密測定	白井厚治,他：medicina,26(3)(1989)	B
コレステロール分画	芝 紀代子：目で見る電気泳動法 I, 115(1988)	B
	南部征喜,他：臨床検査Mook, 4 15(1980)	B
	脇屋義彦：日内会誌, 70 68(1981)	B
アポリポ蛋白A I		B
アポリポ蛋白A II		B
アポリポ蛋白B		B
アポリポ蛋白C II	伊藤忠一：検査と技術, 16(7)増刊号 593(1988)	B
アポリポ蛋白C III		B
アポリポ蛋白E		B
リポ蛋白(a)	野間昭夫：医学のあゆみ, 168(11) 995(1994)	B
レムナント様リポ蛋白コレステロール	中嶋克行,他：動脈硬化, 20 79(1992)	B
総胆汁酸	眞重文子,他：臨床化学 8(2) :191~197, 1979	M
グリココール酸(CG)	金森勇雄,他：日本放射線技師会雑誌 26(4) :17~22, 1978	S
ICG試験	浪 久,他：医学のあゆみ, 58 69(1966)	B
デルタアミノレブリン酸	園藤陽子,他：産業医学 35:126~127, 1993	B
ポルフォビリノーゲン	日本臨床 P891下(1955).	S
ウロポルフィリン		S
コプロポルフィリン	Salmi,M,et al:Clinical Chemistry 26(13):1832~1835, 1980	S
赤血球遊離プロポルフィリン	新沼幸子他, 産業医学 23, 254(1981).	S
LD(LDH)	小川善資他, Medical Technology 14, 145(1986).	
ALP	日本臨床 P276上(1995).	
骨型アルカリフォスファターゼ	三木隆己,他：ホルモンと臨床 45(10) :999~1004, 1997	S
P型アミラーゼ定量	高木 康：Lab,Clin.Pract., 6(2) 47(1988)	B
アミラーゼ	試薬添付文章参照	
γ -GTP	日本臨床 P280上(1995).	
LAP	日本臨床 P303上(1995).	
CK(CPK)	川村憲弥, 他：医学検査 44(9) , 1995	
AST(GOT)		
ALT(GPT)	日本臨床化学会：臨床化学 18(1989)	
LD(LDH)アイソザイム	森山隆則,他：Medical Technology 25(1) :45~51, 1997	S
ALPアイソザイム	芝 紀代子, 目で見る電気泳動法 1, 70, 医歯薬出版(1988).	S
アミラーゼアイソザイム	芝 紀代子：目で見る電気泳動法 1, 79~88, 1998	S
γ -GTPアイソザイム	猪狩 淳,他：電気泳動法のすべて(月刊Medical Technology編) :197~201, 1981	S
ペプシノーゲン I・II	北内信太郎,他：Progress in Medicine 21(10) :2451~2457, 2001	M

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
CK(CPK)アイソザイム	高木 康,他:臨床検査 32(11) :1309~1315, 1988	S
CK(CPK)-MB	森脇貴美他, 臨床検査機器・試薬 12, 598 (1989).	S
ミトコンドリア-GOT	白波泰史,他 : 第7回日本臨床化学会分析部会関東支部学術集会 40~44, 1989	S
総酸性フォスファターゼ	木下忠雄 : Medical Technology, 12 1054 (1984)	B
前立腺酸性フォスファターゼ	木下忠雄 : Medical Technology, 12:1054~1062, 1984	B
コリンエステラーゼ	Y.Ashihara,et al.,J.Biochem.94,11 (1983).	
アルドラーゼ	宮原洋一 : Medical Technology. 12 157 (1984)	B
リパーゼ	森本牧子,他 : 最新検査, 4(5) (1986)	B
グアナーゼ	手登根稔,他 : 検査と技術 13(10) :901~905, 1985	S
ADA	佐野史良,他 : 臨床検査機器・試薬 9(4) :715~720, 1986	S
L-CAT	長崎敏秀,他 : 臨床化学 4(3・4) :306~311, 1976	S
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール	山内俊一他, 糖尿病 33(1), 41 (1990).	S
アンギオテンシン I 転換酵素	Y.Kasahara,et al.,Clin.Chem.27, (1981).	B
トリプシン	鬼原 彰,他 : 核医学 17, 845, 1980.	M
N-アセチルグルコサミニダーゼ	進藤聡子,他 : 医学と薬学 21(5) :967~977, 1989.	S
リゾチーム	北村元仕 : 実践臨床化学 増補 : 432~436, 1982	S
シュウ酸	小川由英,他 : 腎と透析 臨増 :151~157, 1997	S
クエン酸	Warty VS,et al:Clinical Chemistry 30(7) :1231~1233, 1984	S
ピリジニン	James IT,et al:Journal of Chromatography 525:43~57, 1990	S
NTx(骨粗鬆症)	Hanson DA,et.al.:J.Bone Miner Res 7, 1992	S
デオキシピリジニン(骨粗鬆症)	山本逸雄他 : ホルモンと臨床 44, 1996	S
血清NTx	吉村典子他, Osteoporosis Japan 10,539 (2002)	S
ヘモグロビンA1c	佐久間真美他, 臨床検査機器・試薬 12(2), 389 (1989).	
血糖	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第29版, 440, 金原出版 (1983).	
シアル酸	荒木英爾,他 : 臨床検査(特集第54号), 145, 1983.	M
ムコ蛋白	江藤公喜 : 臨床検査機器・試薬 5(4) :795~800, 1982	S
ケトン体分画	西ヶ谷晴美,他 : 医学検査 45(3) :353~353, 1996	S
グリコアルブミン	藤田知代,他 : 医学と薬学 47(1) :141~147, 2002	S
乳酸		S
ピルビン酸	浅沼和子, 生物資料分析 8(3), 16 (1985).	S
ビタミンA	須原 聡,他 : 臨床検査 36(3) :235~239, 1992	S
レチノール結合蛋白	岡婦美代,他 : 臨床検査機器・試薬 12(6) :1169~1174, 1989	S
β-カロチン	加美山茂利他, 臨床検査 31, 268 (1987).	S
ビタミンB1	木村美恵子,他 : ビタミン 55(4) :185~189, 1981	M
ビタミンB2	安田和人,他 : 臨床病理 29, 564, 1981.	M
ビタミンB6	吉田継親,他 : 薬学雑誌 98(10) :1319~1326, 1978	S
ビタミンB12	河口行雄,他 : 医学と薬学 41(1) :145~151, 1999	M
葉酸	安田和人,他 : 機器・試薬 25, 441, 2002.	M
ビタミンC	Lykkesteldt J,et al:Analytical Biochemistry 229:329~335, 1995	S
1,25-(OH)2 ビタミンD	鈴木正司,他 : 臨床透析 14, 371, 1998.	M
ビタミンE	阿部皓一,他 : 栄養と食糧 28(5) :277~280, 1975	M
クリオグロブリン定性	青木紀生,他 : Medical Technology 6(8) :619~624, 1978	S
トランスフェリン	伊藤忠一 : 検査と技術 16(7) :593~598, 1988	S
尿中トランスフェリン	齊藤良一,他 : 日本臨床検査自動化学会会誌JJCLA25 (5) :687~690, 2000	S
プレアルブミン	岡婦美代,他 : 臨床検査機器・試薬 12(6) :1169~1174, 1989	S
β2-ミクログロブリン	井出 茂他, JJCLA 10, 227 (1985)	
α1アシドグロブリン		S
ハプトグロビン		S
α2-マクログロブリン	櫻林郁之介,他 : 臨床病理 特(53) :71~81, 1983	S
α1-アンチトリプシン		S

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
免疫電気泳動(抗ヒト全血清)	大谷英樹,他: 日常検査法シリーズ 11 免疫電気泳動 2版: 8~26, 1977	S
免疫電気泳動(特異抗血清)		S
尿中免疫電気泳動(尿中ベンスジョーンズ蛋白同定)		S
尿中アルブミン	野村武則他, 医学と薬学 24(4), 1039 (1990)	
セルロプラスミン	斉藤憲祐: 臨床病理 特(101): 38~47, 1996	B
血清補体価	中藤聡子,他: 臨床検査機器・試薬 19(4) (1996)	S
C1q	櫻林郁之介,他: 臨床病理 特(53): 71~81, 1983	S
C3(β 1C/ β 1Aグロブリン)	岡婦美代他, 臨床検査機器・試薬 10, 416 (1987)	
C4(β 1Eグロブリン)		
C5(β 1Fグロブリン)	櫻林郁之介,他 臨床病理 特53, 71 (1983)	S
C1インアクチベータ活性	Dick W,et al:Immun Infekt 13: 113~118, 1985	S
免疫複合体(C1q)	日本臨床(下) 58 (1995)	S
免疫複合体(モノクローナルRF)	森 勝志,他: 医学と薬学 27(2): 347~354, 1992	S
寒冷凝集反応	日本臨床(下) 159 (1995)	
リウマチ因子(RAPA)	福岡良夫他, 臨床検査技術講座 17 血清学 第3版, 290, 医歯薬出版 (1977).	
IgG型リウマチ因子	栗原夕子他, リウマチ科 22, 449~510, 1999.	B
抗ガラクトース欠損IgG抗体	平山吉郎,他: 医学と薬学 42(5): 817~828, 1999	B
MMP-3	横内敬二他: 新薬と臨床 50(1), 2001	S
マイクロゾームテスト	土屋彦治,他: 臨床検査 28 (1): 99~101, 1984.	S
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	上條圭一,他: 医学と薬学 44(2): 381~390, 2000	S
サイロイドテスト	土屋彦治,他: 臨床検査機器・試薬 6(4): 1007~1010, 1983.	S
抗サイログロブリン抗体	廣岡良文他, ホルモンと臨床 40,547(1992)	S
LEテスト	柴崎成代,他: 臨床検査機器・試薬 6(2): 464~466, 1983.	S
抗核抗体	東條 毅,他: 臨床検査 30(7): 687~692, 1986	S
リウマチ因子(RF)定量	河合 忠他, 異常値の出るメカニズム 第4版 319 (2001)	
抗カルジオリピン抗体(IgG)	岡田 純,他: 医学と薬学 36(6): 1389~1394, 1996	S
抗GAD抗体	高瀬清美他: ホルモンと臨床 44, 1996	S
抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	梅景資子他: 臨床検査機器・試薬 22(6), 1999	S
抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	有村義宏他: 臨床病理 49(6), 2001	S
抗DNA抗体(RIA)	鈴木王洋,他: 臨床免疫 25(8): 1096~1102, 1993	S
抗CCP抗体	Suzuki K,et al:Scand J Rheumatol 32:197~204, 2003	S
抗ds-DNA-IgG抗体	荒川智篤,他: 医学と薬学 31(1): 95~104, 1994	S
抗ss-DNA-IgG抗体		S
抗RNP抗体	秋月正史,他: 医学と薬学 37(2): 509~520, 1997	S
抗Sm抗体		S
抗SS-A抗体		S
抗SS-B抗体		S
抗Scl-70抗体		S
抗jo-1抗体	唐澤実一,他: 医学と薬学 39(1): 163~174, 1998	S
抗セントロメア抗体	西海正彦,臨床検査機器・試薬 13,35 (1990)	S
抗セントロメア抗体	諸井泰興: 臨床免疫 16(12): 1041~1046, 1984	S
抗ミトコンドリア抗体	山内 進,他: 臨床免疫 7(7): 825~830, 1975.	S
TSHレセプター抗体	西 功,他: 医学と薬学 39(5): 1031~1039, 1998	S
抗平滑筋抗体	山内 進: 臨床免疫 7(7): 825~830, 1975	S
抗胃壁細胞抗体	山内 進: 衛生検査 22(12): 1085~1089, 1973	S
抗アセチルコリンレセプター抗体	太田光照他, ホルモンと臨床 48(1): 89~93 (2000)	S
抗カルジオリピン β 2グリコプロテインI複合抗体	野島順三,他: 医学と薬学 32(6): 1315~1320, 1994	S
ミエリン塩基性蛋白	Ohta M,et al:Clinical Chemistry 46(9): 1326~1330, 2000	S
オリゴクローナルバンド	藤井英治,他: 生物物理化学 28(4): 261~266,1984	S
ABO式血液型	免疫学的検査 第4版下 日本臨床増刊 (1995)	
Rh(D因子)式血液型		

測定法の基礎的文獻

検査項目	測定法基礎的文獻	最終検査委託先
IgG		
IgA	岡婦美代他, 臨床検査機器・試薬 10,416 (1987)	
IgM		
IgD	伊藤忠一: 臨床検査機器・試薬 9(1) :1~5, 1986	S
IgE(非特異的IgE)	河野均也他, 臨床免疫 15, 145 (1983)	
特異的 IgE		
・マルチアレルゲン	奥平博一,他: アレルギー 40, 544, 1991.	M
・シングルアレルゲン	日本臨床(下) 21 (1995), 奥平博一,他: アレルギー 40, 544, 1991.	M
・アトピー鑑別試験	伊藤幸治,他: アレルギーの臨床 11(2) :140~145, 1991	B
・MAST26アレルゲン	中川武正,他: アレルギー 49:335~344, 2000.	B
クームス試験	福岡良夫他 臨床検査講座23 臨床免疫学 第1版 医歯薬出版 (1997)	
不規則性抗体	免疫学的検査 第4版下 日本臨床増刊 (1995)	
抗血小板抗体	Shibata Y, et al:Vox Sang, 41:25~31, 1981.	B
血小板関連IgG	林 悟,他: 臨床病理 32:1253~1257 (1984)	S
CRP(定性・定量)	三原昭二他, 臨床検査機器・試薬 8(2), 477 (1985)	
抗ヘリコバクター・ピロリIgG抗体	Warren,JR., Marshall B.J.:Lancet, 1 1273 (1983)	B
ASLO	日本臨床(下) 121 (1995)	
ASK	土屋彦治,他: 臨床検査機器・試薬 7(2) :417~722, 1984	S
トキソプラズマ抗体	鬼木信乃夫,他: 日眼会誌 84(9) :1408~1416, 1980	B
ポールバネル反応	日本臨床.43 秋季臨時増刊号 402 (1985)	B
マイコプラズマ抗体	日本臨床(下) 162 (1995)	
百日咳抗体	医科学研究所学会編: 細菌学実習提要(改訂5版), 凝集反応: 227~243, 1976.	B
D-アラビニトール	曾山浩吉他, 臨床病理 35(9), 1039 (1987)	S
エンドキシン定量	吉永哲男,他: 医学と薬学, 31:705~711, 1994.	B
(1→3)-β-Dグルカン	吉田耕一郎,他: 感染小学雑誌, 79:433~442, 2005.	B
HTLV-I 抗体[PA]	鈴木恵美子他, 臨床検査機器・試薬 13(1), 107 1990	
HTLV-I 抗体[CLEIA]	石沢修二,他: 医学と薬学 31 375, 1994	B
HTLV-I 抗体[ウエスタンブロット法]	上平 憲,他: 臨床とウイルス 21(1) :73~76, 1993	B
HIV抗原・抗体[EIA]	JL.Gallarda,et al.,J,Clin.Microbiology 30. 2379 (1992)	
HIV1抗体[ウエスタンブロット法]	菱田 靖,他: 医学と薬学 27(4) :959~970, 1992	B
HIV2抗体[ウエスタンブロット法]		B
RPR(定性・定量)	福岡良男:新訂臨床検査講座 23 臨床免疫学:361~364, 1997	
TP抗体(定性・定量)		
FTA-ABS(定性・定量)	日本臨床(下) 216 (1995)	B
IgM-FTA-ABS		B
水痘帯状ヘルペスウイルス抗原	紺野謙治,他: 臨床とウイルス 17(1) :89~96, 1989	B
カンジダ抗原	相原守夫,他: 臨床検査, 34(3) 367, 1990	B
淋菌DNA	熊本悦明,他: 日本性感染症学会雑誌 6(1) :62~71, 1995	B
淋菌及びクラミジアトラコマチスrRNA同時同定	松田静治,他: 日本性感染症学会誌 15(1):116~126, 2004	S
単純ヘルペス特異抗原	川名 尚他, 感染症学雑誌 61(9), 1030 (1987)	S
アデノウイルス抗原	紺 泰枝,他: 臨床と微生物, 17 483 (1990)	B
アデノウイルスDNA	Hlerholzer JC,et al: Journal of Clinical Microbiology 31(7) :1886~1891, 1993	B
オウム病クラミジア	厚生労働省監修: 微生物検査必携, ウイルス・リケッチア検査 第2版	B
クラミジアトラコマチス抗体IgG		B
クラミジアトラコマチス抗体IgA		B
クラミジアトラコマチス抗体IgM	松本 明,他: 感染症学雑誌 66(5) (1992)	B
クラミジアニューモニエIgG		B
クラミジアニューモニエIgA		B
クラミジアトラコマチス-DNA	熊本悦明,他: 日本性感染症学会雑誌 6(1) :51~61, 1995	B
クラミジアトラコマチス抗原	甲田雅一他: 臨床検査機器・試薬 21(6) ,633, 1988	

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
ウイルス抗体検査(CF)	厚生労働省監修：微生物検査必携(第2版), ウイルス・リケッチア検査:73~83, 1978	B
ウイルス抗体検査(HI)	厚生労働省監修：1微生物検査必携(第2版), ウイルス・リケッチア検査:68~73, 1978	B
ウイルス抗体検査(NT)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学総論2版:260~274(1973)	B
ウイルス抗体検査(FA)	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学総論2版:297~329(1973)	B
HBs抗原精密測定	関口 仁,他：臨床検査機器・試薬 22(4) :283~288 (1999)	
HBs抗体精密測定	藤原拓樹,他：医学と薬学 42(4) :623~627 (1999)	
HBe抗原[CLIA]	安田清美,他：Prog. Med 2389 (1995)	B
HBe抗体[CLIA]	鈴木 宏,他：肝臓 21, 1304 (1980)	B
HBc抗体	和田武雄,他：医学と薬学 3 105 (1980)	B
IgM-HBc抗体	金森勇雄,他：Radioisotopes, 34 95 (1985)	B
HBV-DNA(定量)	鷲見麻由美他：医学と薬学 39(3) , 1998	B
DNAポリメラーゼ	Kaplan PM,et al : Journal of Virology 12(5) :995~1005, 1973	B
HA抗体	児玉隆成,他：JARMAN3 : 71~75, 1996	B
IgM-HA抗体	Robbins,Dj et al:J Viol Methods, 32 255	B
HCV抗体Ⅱ	東本牧子,他：医学と薬学 38(6) , 1231 (1997)	
HCV抗体Ⅲ	美馬聡昭,他：医学と薬学 32(6) :1307~1313, 1994	
HCVコア抗体(C22-3)定量	日野邦彦,他：Biotherapy 6(10) :1561~1570, 1992	B
HCVの群別(グルーピング)	青木芳和他：臨床検査機器・試薬 17(3) , 1994	B
HCVコア抗原	日野邦彦,他：Biotherapy, 6 1561 (1992)	B
HCV-RNA定量	坪田昭人,他：医学と薬学 51:159~166, 2004	B
HCV-RNA(コアジェノタイプ)	Ohno T, et al:Journal of Clinical Microbiology35(1):201~207, 1997	S
2-5合成酵素活性	日野邦彦,他：医学と薬学 22:1531~1542, 1989	B
末梢血一般		
網状赤血球数	金井正光 臨床検査法提要 改訂第31版 金原出版(1998)	
好酸球数	日野志朗 臨床検査講座21血液学 第1版(1996)	
血液像	金井正光 臨床検査法提要 改訂第31版 金原出版(1998)	
	三輪志朗他 臨床検査技術全書3 血液検査100 医学書院(1982)	
LE細胞	金井正光 臨床検査法提要 改訂第31版 金原出版(1998)	
全血比重	金井正光 臨床検査法提要 改訂第29版 金原出版(1983)	
赤血球沈降速度(赤沈)		
血中原虫		
骨髓像	金井正光 臨床検査法提要 改訂第31版 金原出版(1998)	
ALP染色		
PAS染色		
ペルオキシダーゼ染色	染色法のすべて Medical Technology別冊 医歯薬出版(1988)	
鉄染色	渡辺清明他 臨床病理(1978)	
エステラーゼ染色	丹波欣正他 臨床検査(1978)	S
プロロンビン時間		
活性化部分トロンボプラスチン時間	金井正光 臨床検査法提要 改訂第31版 金原出版(1998)	
トロンボテスト	臨床検査 増刊号 血栓症と血小板凝固線溶系検査(1996, vol.4 O, No.11)	
ヘパプラスチンテスト(HPT)		
フィブリノーゲン		
フォンヴィレブランド因子活性	Macfarlane DE,et al : Thrombos Diathes Haemorrh 34:306~308, 1975	S
トロンピンアンチトロンピンⅢ複合体	田中朝志他, 医学と薬学 31,(1)203-208 (1994)	S
フィブリンモノマー複合体	Largo R,et al:Blood 47 (6) :991~1002, 1976	S
繊維素分解産物(FDP)	長野美恵子,他：医療と検査機器・試薬 27(1) :23~29, 2004 堀内伸純,他：臨床検査機器・試薬 14(2) :267~270, 1991	S

測定法の基礎的文獻

検査項目	測定法基礎的文獻	最終検査委託先	
アンチトロンビンⅢ活性値	Scully,MF,et al:Clinica Chimica Acta 79:595~602, 1977		
第Ⅱ因子定量	安達眞二 Medical Technology 24 629-633 (1996)	S	
第Ⅴ因子定量		S	
第Ⅶ因子定量		S	
第Ⅷ因子定量		S	
第Ⅸ因子定量		S	
第Ⅹ因子定量		S	
第ⅩⅠ因子定量		S	
第ⅩⅡ因子定量		S	
第ⅩⅢ因子定量		S	
第Ⅷ因子様抗原定量		Fickenscher k,et al Thromb Haemost 65(5) 535-540 (1991)	S
凝固抑制因子検査第Ⅷ因子	Sirridge MS,et al Laboratory Evaluation Of Hemostasis and Thrombosis,3rd ed.Lea & Febiger,196~198 (1983)	S	
凝固抑制因子検査第Ⅸ因子		S	
アンチプラスミン	Friberger P,et al Haemostasis 7 138-145 (1978)	S	
プラスミノーゲン		S	
α 2プラスミンインヒビタープラスミン複合体	徐 吉夫,他 : 臨床検査機器・試薬 16(6) :1107~1113, 1993	S	
t-PA・PAI複合体	縑荘和子,他 : 臨床病理 39(6) :610~614, 1991	S	
D-ダイマー	佐野將也,他 : 臨床検査機器・試薬 20(2) :301~308, 1997	S	
プロテインC活性	高橋芳右,他 : 血液と脈管 18(6) : 548~556, 1987	S	
プロテインS抗原量	鬼沢 実,他 : 臨床検査機器・試薬 13(4) :579~583, 1990	S	
PIVKA-Ⅱ	山田兼雄,他 : 診療と新薬 22(6) :1408~1414, 1985	S	
血小板第4因子	高橋芳右,他 : 血液と脈管 18(4) : 326~335, 1987		
β トロンボグロブリン	高橋芳右,他 : 血液と脈管 18(4) : 326~335, 1987	S	
ループスアンチコアグラント	佐藤久美子,他 : 臨床病理 43(3) :263~268, 1995	S	
トロンボモジュリン	横内敬二他, 医学と薬学 44(4) 795-802 (2000)	S	
尿一般	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第31版, 137, 金原出版(1998)		
尿沈渣			
尿蛋白定量	金井正光, 臨床検査法提要 改訂31版 191, 金原出版 (1998)		
尿糖定量	金井正光, 臨床検査法提要 改訂31版 150, 金原出版 (1998)		
PSPテスト	金井正光, 臨床検査法提要 改訂31版 160, 金原出版 (1998)		
ベンス・ジョーンズ蛋白	金井正光, 臨床検査法提要 改訂31版 1484, 金原出版 (1998)		
潜血反応	金井正光, 臨床検査法提要 改訂31版 158, 金原出版 (1998)		
便ヘモグロビン及びトランスフェリン	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第31版 215 金原出版 (1998)		
便ヘモグロビン・便ヘモグロビン定量			
ロタウイルス抗原			
虫卵(塗抹・集卵)	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第31版 1093 金原出版 (1998)		
蟻虫卵セロテープ			
虫体検出			
便脂肪染色			
一般検査(髄液、胸水、腹水、関節液、精液)	金井正光, 臨床検査法提要 改訂第31版 213 金原出版 (1998)		
タンパク定量	大久保昭行他, 検査と技術 増刊号 体液検査法 533 医学書院 (1990)		
細菌培養同定	金井 泉他, 臨床検査法提要 改訂第30版 1051, 金原出版 (1993)		
嫌気性培養	那須勝也, 新臨床検査技師講座, 臨床微生物学坂崎利一他, 図解臨床細菌検査 (1989)		
MRSA・緑膿菌・セラチア		善養寺浩他, 腸管系病原菌の検査法 (1985)	
一般細菌薬剤感受性検査	NCCLS 抗菌薬ディスク感受性試験の性能標準 (2001)		
抗酸菌顕微鏡検査			
抗酸菌分離培養検査		日本公衆衛生協会編, 細菌真菌検査 (1987)	
抗酸菌迅速培養検査(MGIT法)		日本結核病学会 抗酸菌検査法検討会編, 阿部千代治 監修 新結核菌検査指針 (2000)	B
抗酸菌薬剤感受性検査			
抗酸菌同定(ナイアシンテスト)			B

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
結核菌DNA(PCR)	青木正和他, Kekkaku 69, 593 (1994)	B
アピウム・イントラセルラーPCR		B
抗酸菌群核酸同定精密測定(DDH)	Ezaki. T., et.al., Int. J. Syst. Bacteriol. 39, 224 (1989)	B
尿素呼気試験	日本ヘリコバクター学会ガイドライン2000	
プロラクチン	青野敏博,他: ホルモンと臨床 37 441 (1989)	B
TSH	斎藤一二三他: ホルモンと臨床 41, 475, 1993	
GH	石渡尚子,他: ホルモンと臨床 38(6) :601~606 (1990)	B
尿中GH	徳弘悦郎,他: ホルモンと臨床 36(7) :637 (1988)	B
LH	青野敏博,他: ホルモンと臨床 36 1087 (1988)	B
FSH		B
ACTH	戸沢史子,他: ホルモンと臨床 39(11) :1235~1239, 1991	S
IGF- I	高須重人,他: ホルモンと臨床 44(4) :383~391, 1996	S
抗利尿ホルモン・ADH	桜井兵一郎他: 日本内分泌学会誌 61, 1985	S
VIP	Fahrenkrung J., et al : J.Lab.Clin.Med.89,1977	S
T3-UPTAKE	上條桂一,他: 医学と薬学 40(2) :387~394, 1998	S
T3	越智幸男他: 日本臨床 第4版 増刊号, 1995	
FT3		
T4	横山直方他: 日本臨床 第4版 増刊号, 1995	
FT4		
抗GAD抗体	高瀬清美,他:ホルモンと臨床 44(8):895~900, 1996	S
サイログロブリン	山口伸之,他: 医学と薬学 33(2) :525~533, 1995.	S
TBG	伊藤裕美子,他: ホルモンと臨床 30(4), 1982	S
TSH刺激性レセプター抗体	長田篤雄,他: ホルモンと臨床 41(10) :1023~1030, 1993	S
副甲状腺ホルモン(PTH)-インタクト	表 正宏,他: 医学と薬学 38(4) :805~512, 1997	S
副甲状腺ホルモン(PTH)(高感度)	福永仁夫他: 核医学 24(3), 1987	S
副甲状腺ホルモン(PTH)(高濃度測定)	深瀬正晃他: 日本内分泌学会雑誌 65(8), 1989	S
副甲状腺ホルモン(PTH) C末端	米田正弘他: ホルモンと臨床 31, 1983	S
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PThrP)	福本誠二,他: ホルモンと臨床 40(12) :1309~1314, 1992	S
カルシトニン	高見 博他: ホルモンと臨床 37(2), 1989	S
オステオカルシン	高見 博他: ホルモンと臨床 38(11), 1990	S
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド	Hansson DA., et al.:J.Bone.Minor.Res. 7, 1992	S
5-HIAA	Mailman R.B., et al : Clin. Chem. 31(11), 1985	S
HVA	Gironi A.,et al : Clin.Chem. 34(12) , 1988	S
VMA(定性・定量)		
メタネフリン総	Shoup,R.E., et al., : Clin.Chem, 23, 1977	S
メタネフリン2分画		S
尿中カテコールアミン酸	Honda S., et al., :Analytica chimica Acta 149, 1983	S
カテコールアミン3分画	Honda S., et al., :Analytica chimica Acta 149, 1983 辻 潮他: 臨床検査機器・試薬 11(4), 1988	S
L-ドーパ	守 和子: 産業医学 17, 1975	S
セロトニン	PETER N., : Jpurnal of Chromatography 427, 1988	S
17-OHCS	高橋千佳子,他: 衛生検査 37(4) :381~387, 1988	S
17-KS(総)		S
17-KS7分画	石田 孝他: 臨床化学 15, 1986	S
11-OHCS	宇田川美佐子他: 臨床化学 5, 1977	S
コルチゾール	福島靖恵他: 臨床検査機器・試薬 22(6), 1999	S
コルチゾン	遠藤 伸,他: ホルモンと臨床 45(7) :707~714, 1997	S
11-デオキシコルチゾール	大橋輝久他: 日本内分泌学会雑誌 57, 1981	S
コルチコステロン	CJ Nabors Jr,et al : Steroids 23:363~379, 1974	S
DHEA-S	小河 淳他: ホルモンと臨床 36(7), 1988	S
アンドロステロン	国分知子,他: 日本内分泌学会雑誌 54(2) :117~130, 1978	S

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
アンドロステジオン	名取省一他：ホルモンと臨床 36, 1988	S
レニン活性(PRA)	廣井直樹他：医学と薬学 32, 1994	S
レニン定量(活性型)	土屋ますみ他：医学と薬学 32(3), 1994	S
アルドステロン	塩之入洋他：医学と薬学 21(2), 1989	S
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド	浜 典男他：基礎と臨床 25(13), 1991	S
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド	下道賢一,他：医学と薬学 53:355~360, 2005.	B
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白	朝山久美子他：臨床検査機器・試薬 17(5), 1994	B
アンギオテンシン I	岩鼻美佐他：医学と薬学 36, 1996	S
アンギオテンシン II		S
エストロゲン(総)非妊婦	高見知子他：日本内分泌学会雑誌 59, 1983	S
エストロン(E1)	牧野拓雄：日本内分泌学会雑誌 50, 1974	S
エストラジオール(E2)	金澤健一：医学と薬学 41(4) :718~724,1999	S
エストリオール(E3)	牧野拓雄,他：日本内分泌学会雑誌 50(4) :788~796, 1974	S
プロゲステロン	金澤健一：医学と薬学 41(4) :718~724, 1999	S
17 α -OHプロゲステロン	税所純敬他：ホルモンと臨床 35, 1987	S
プレグナンジオール	平井利夫,他：日本臨床検査自動化学会誌 9, 1984	S
プレグナントリオール		S
テストステロン	金澤健一：医学と薬学 41(4) :718~724, 1999	S
フリーテストステロン	石原静盛他：核医学技術 8(3), 1988	S
5 α -ジヒドロテストステロン	穂坂正彦他：日本分沁学会雑誌 49, 1973	S
プレグネロン	田根培他：ホルモンと臨床 26, 1978	S
17 α -ヒドロキシプレグネロン		S
HCG	飯野孝一他：産婦人科の世界 38, 1986	S
	佐藤芳昭他：日本産婦人科学会誌 38, 1986	S
HCG- β サブユニット	関 克善他：産科と婦人科 61(3), 1994	S
HPL	BD S.Lindebrg.,et al : J.Obs.Gynaeco.Br.Commonw : 619~626, 1973	S
HCG定性	伊吹令人他：日本臨床 第4版・中巻, 593, 1995	
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	Lockwood CJ,et al : The New England Journal Medicine 325(10) : 1991	S
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	北村 光他：臨床検査機器・試薬 21, 1998	S
インスリン	原 由紀子他：医学と薬学 44(4), 2000	
インスリン抗体	坂本美一,他：SRL Laboratory Note3(7) : 1979.	S
ガストリン	飯沼一茂,他：Radiosotopes 31(7) :350~356, 1982	S
C-ペプチド	谷口 崇他：医学と薬学 44(4), 2000	S
グルカゴン	杉本英克他：ホルモンと臨床 29, 1981	S
PSTI	小川道雄：臨床医, 19(増刊号) 1010 (1993)	B
PFDテスト	金井正光：臨床検査法提要 改訂第31版, 1374, 1998	S
隣フォスフォリパーゼA2	森 武貞,小川道雄：現代医療, 20(10) 3013 (1988)	B
サイクリック-AMP	孫 孝義他：日本内分泌学会雑誌 61, 1985	S
サイクリック-GMP	Honma M., et al., : Biochem.Med., 18, 1977	S
エリスロポエチン	金尾啓右他：医学と薬学 21(4), 1989	M
CEA	山田 孝他：医学と薬学 29(5), 1993	
TPA	吉川文雄他：医学と薬学 34(4), 1995	S
塩基性フェトプロテイン	設楽光弘他：臨床病理 36(9), 1988	S
尿中塩基性フェトプロテイン	石井 勝他：臨床検査 39, 1281, 1995	S
尿中核マトリックスプロテイン22	赤座英之他：癌と化学療法 24(7), 1997	S
フェリチン	石渡幸久他：日本臨床検査自動化学会誌 20(2), 1995	
DUPAN-2	櫻林郁之介他：臨床病理 34, 1986	S
NCC-ST-439	吉岡 久他：臨床病理 35(1), 1987	S
CA19-9	花田孝子,塚田敏彦：医学と薬学 35(6), 1996	
エラスターゼ1	古賀一誠他：現代医療 13, 1981	S
α -フェトプロテイン定性	進士都他：臨床検査機器・試薬 10, 1987	
α -フェトプロテイン定量	石沢修二他：医学と薬学 30(2), 1993	

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
SPan-1	梅山 馨他: 瘳臓 3(4), 1988	S
AFP-L3分画比	Shimizu K, et al : Clinica Chimica Acta 214:3~12, 1993	S
PIVKA-II	高津和子他 : 臨床と研究 73, 2656, 1996	S
CA72-4	大内 憲,他 : 瘳と化学療法 15(9) :2767~2771, 1988	S
CA15-3	青山 昭,他 : 医学と薬学 49(1) :127~135, 2003.	S
シフラ	下川洋太郎 : 臨床検査 39, 1995	B
SCC	那須浩二,他 : 核医学 25 1437 (1984)	B
BCA225	石 和久他 : 基礎と臨床 23(15), 1989	S
シリアルTn抗原	井村裕夫他 : 瘳と化学療法 16(9), 1989	S
NSE	宮田早苗,他 : 医学と薬学 39(2) :351~356, 1998.	S
CA54/61	野沢志朗他 : 瘳と化学療法 19(12) : 2085~2093, 1992	S
CA602		S
尿中HCGβ-コアフラグメント	友田 豊,他 : 産婦人科の世界 46(3) :241~246, 1994	S
ProGRP	児玉哲郎他 : 医学と薬学 32(1), 1994	S
CA125	新井智子, 塚田敏彦 : 医学と薬学 39(4), 1998	
シリアルLex-i抗原	井村裕夫他 : 瘳と医学療法 14(5), 1987	S
PSA	飯田暢子 : 日本臨床 第4版 , 1995	
高感度PSA F/T比タンデム	野村朋子,他:医学と薬学 51(1):179~186, 2004	S
PAP	木下忠雄 : Medical Technology, 12:1054~1062, 1984	B
γ-Sm	河原孝一,他 : 医学と薬学 40(5), 917~923, 1998	S
PSA-ACT	大野明美,他 : 医学と薬学 49(2) :325~332, 2003	S
高感度PSAタンデム	Witherspoon,L.R. and Lapeyrolerie,T.:J.Uroi.157, 1322, 1997	M
可溶性IL-2レセプター	樋口 修他 : 核医学技術 14, 1994	S
TK活性	鳥住和民,他 : 核医学 25(6) :561~567, 1988	S
瘳関連ガラクトース転移酵素	野澤志朗他:瘳と化学療法 20, 1993	S
フェノバルビタール	Jolley M.E.,et al : Clin Chem 27:1575 (1981)	
フェニトイン		
カルバマゼピン		
プリミドン		M
バルプロ酸	西原カズヨ他, 臨床検査 28, 597 (1984)	
アセタゾールアミド	Sadee W,et al :ドラッグレベルモニタリング :90~91, 1982	S
クロナゼパム	Heazlewood RL,et al : J Chromatogr 336:229~233, 1984	M
ニトラゼパム		M
ジアゼパム	Drouet-Coassolo, C.et al.:J. Chromatogr. 487, 295, 1989.	M
ゾニサミド	熊谷 昇,他 : 臨床医薬 5, 843, 1989.	M
ジゴキシン	Jolley M.E.,et al : Clin Chem. 27,1575 (1981)	
ジギトキシン	北田増和,他 : 臨床と研究 63, 2433, 1986.	M
リドカイン	Jolley M.E.,et al : Clin Chem 27:1575 1981	M
プロカインアミド		M
N-アセチルプロカインアミド		M
キニジン		M
フレカイニド	Piovan D, et al:Pharmacol Res Commun 18:739~745 (1986)	S
プロプラノロール	Ahnoff M,et al :J Chromatogr 340:73~138 (1985)	M
メキシレチン	Mastropaolo, W. et al.:Clin Chem. 30, 319, 1984.	M
塩酸ピルジカイニド	上野和行,他 : Pharma Medica 11(4) :97~99 (1993)	S
アプリンジン	Jolley M.E.,et al : Clin Chem 27:1575, 1981	M
プロパフェノン	小杉隆祥:TDM研究 11, 23, 1994	M
コハク酸シベンゾリン	寺川雅人,他 : 薬物動態 3:761~771 (1998)	S
ピルメノール	市川 林,他 : 臨床医薬 11(4) :903~908 (1995)	M
テオフィリン	北橋俊博他, 臨床検査機器・試薬 6, 87 (1983)	
アミカシン	Jolley M.E.,et al : Clin Chem 27:1575 1981	M
ゲンタマイシン		M
トブラマイシン		M
バンコマイシン		M
アルベカシン		M
メトレキサート		M

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
テイコプラニン	松本文夫他, 医学と薬学 38:621~625, 1997	M
シクロスポチン	結城祥充,他: 病院薬学 17,388, 1991.	M
タクロリムス	畑 伸頭,他: 医学と薬学 38, 1023, 1997.	M
ハロペリドール	上野 哲,他: 日臨検自動化会誌 29, 360, 2004.	M
炭酸リチウム	Pybus, J. and Bowers Jr., J.:Clin. Chem. 16, 139, 1970.	M
プロムペリドール	上野 哲,他: 日臨検自動化会誌 29, 360, 2004.	M
サリチル酸	Jolley M.E.,et al : Clin Chem 27:1575 1981	M
アセトアミノフェン		M
エタノール	鈴木加奈子:薬毒物分析実践ハンドブック 118, じほう, 東京, 2002	M
病理組織検査	日本病理学会編, 病理組織化学とその技術, 医師薬出版(1986) 渡辺慶一他, 病理と臨床 2,1399, (1984) 渡辺慶一他, 病理と臨床 2,1535, (1985) 渡辺慶一他, 病理と臨床 4,4243, (1986) 赤尾信吉他, Medical Technology別冊1 (1988)	T, H
細胞診	山田 喬他, 山田 喬・垣花昌彦編, 穿刺吸引細胞診アトラス, 文光堂(1984) 田中 昇他, 田中 昇編, 細胞診教本, 宇宙堂八木書店(1980) 田嶋基男他, 田嶋基男編, 細胞診全書Ⅱ, 宇宙堂八木書店(1980)	T, H
尿中馬尿酸	厚生労働省労働基準局労働衛生課(監修):有機溶剤健康診断のすすめ方,P. 135, 全衛連 1990.	M
メチル馬尿酸		M
マンデル酸		M
2,5-ヘキサジオン		M
N-メチルホルムアミド		M
総三塩化物		M
トリクロル酢酸		M
先天異常染色体 G-Banding	Seabright M : Lancet 2 : 971~972. 1971	S
先天異常染色体 C-Banding	Sumner AT : Exp Cell Res 75 : 304~306. 1972	S
先天異常染色体 Q-Banding	Caspersson T,et al : Hereditas 67:89~102, 1971	S
先天異常染色体 R-Banding	Dutrillaux B, et al : C R Acad Sci paris 276 : 3179~3181, 1973	S
先天異常染色体高精度分染法	Ikeuchi T, et al : Proc Jpn Acad 55:15~18, 1979	S
脆弱X染色体	Sutherland GR : Science 197:265~266, 1977	S
13染色体・18染色体・21染色体・X染色体・Y染色体	稲澤 譲治: 阿部 達生, 監: “臨床FISHプロトコル”, 秀潤社, 東京, 1997, pp. 90~95.	S
血液疾患染色体 G-Banding	Seabright M : Lancet 2:971~972, 1971	S
HLA A,B,DR	吉川枝里,他: MHC 10(1) :21~31, 2003	S
HLA-A(DNAタイピング),HLA-B(DNAタイピング)	石川 善英: MHC 5(2):96~100, 1998	S
HLA-DRB1,DPB1(DNAタイピング)	成瀬妙子,他: MHC 5(2) :101~106, 1998	S
MLC(リンパ球混合培養)	笹月 健彦,他: 移植 14 : 93~113, 1979	S
キメラズム解析移植前レシピエント、ドナー[PCR]	Kimpton CP, et al : Electrophoresis 17 : 1283~1293, 1996	S
T細胞百分率B細胞百分率	Wauwe JV, et al : Immunology 44 : 865~871, 1981	S
IgG-FcR+・T細胞百分率	Perussia B, et al : J Immunol 130 : 2133~2141, 1983	S
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)	Stephen Hlp, et al : Clin Chem 28 : 1905~1909, 1982	S
PHA、Con-Aによるリンパ球幼若化検査	笠原 忠,他: 臨床検査 23 : 660~667, 1979	S
薬剤によるリンパ球幼若化試験	北見啓之,他: 臨床免疫 15(9) :727~736, 1983	M
NK細胞活性	康 浩一,他: Medical Technology 21(増) : 574~580, 1993	S
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	Ip SH, et al : Clin Chem 28(9) : 1905~1909, 1982	S
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	高瀬浩造: 臨床免疫 17(10) : 914~925, 1985	S

測定法の基礎的文献

検査項目	測定法基礎的文献	最終検査委託先
白血球・リンパ腫解析検査(LLA)C D45	M.J.Browitz : Am J Clin Pathol100 : 534~540, 1993	S



ISO9001 認証取得



株式会社 セントラル医学検査研究所

本 社 茨城県水戸市白梅2丁目9番13号
TEL 029(225)8858 FAX 029(225)8874

下館研究所 茨城県筑西市幸町2丁目7番7号
TEL 0296(28)5900 FAX 0296(28)5903

ホ-ムペ-ジ` <http://www.central-icl.com>